

仮想・立花昭記念館

編著 森 一 久
喜多尾 憲 助

仮想・立花昭記念館

目 次

はじめに	3
------	---

写真：若き立花昭

仮想・立花昭記念館

立花昭・書庫

「書庫ガイド」—— 資料・蔵書の総目録と	5
----------------------	---

立花昭年譜	11
—— 彼の人生アラカルト ——	

研究論文・著訳書	13
----------	----

書庫目録 1（資料）	16
------------	----

(1945～1954) 高校・大学・大学院

(1954～1964) 電燈開発株式会社

(1964～1988) 日本原子力発電株式会社

(1988～1991) 原電 定年・嘱託

(1991～1997) 嘱託解任後

書庫目録 2（蔵書——書籍・雑誌類）	61
--------------------	----

原子力法・制定等、科学技術一般、原子力関係（基礎・発展）

原子力関連 原子力、事故・安全、原子力、政策・防衛、核廃絶、核廃絶

エネルギー問題、政治・社会、科学技術、著作集・定年と、その他

立花昭・アラカルト

父としての立花昭	74
----------	----

山の仲間——高校時代から	80
--------------	----

原子力開発の機中へ身を投じて	81
----------------	----

電燈の初期、組合せ、結婚	84
--------------	----

研開発への情熱——その餘命	90
---------------	----

核廃絶をねがって	93
----------	----

先見と地道な仕事	100
----------	-----

提言・原子力資料のアーカイブを願う	102
-------------------	-----

平成20年9月

「立花昭さんを偲ぶ会」参加者サイン帳	106
--------------------	-----

仮想・立花昭記念館

目 次

はじめに	3
------------	---

写真：若き日の立花昭ら原子力コロキウム参加者たち

立花昭・書庫

「書庫ガイド」	喜多尾 憲 助	5
---------------	---------------	---

立花昭年譜	11
-------------	----

研究論文・著訳書 等	15
------------------	----

書庫目録 1（資料）	16
------------------	----

（1945～1954）高校・大学・大学院

（1954～1964）電源開発株式会社

（1964～1988）日本原子力発電株式会社

（1988～1993）原電 定年・嘱託

（1993～1997）嘱託辞任後

書庫目録 2（蔵書 — 書籍・雑誌類）	61
---------------------------	----

原子力史・社史 等 科学技術一般 原子力技術（基礎・発電）

原子力問題・原水爆 事故・安全 戦争論 原潜・核兵器 核軍縮・核廃絶

エネルギー問題 政治・社会・科学 概論 著作集・定期刊行物 他

立花昭・アラカルト

父としての立花昭	立 花 実	71
----------------	-------------	----

山の仲間 — 高校時代から	喜熨斗 政 夫	76
---------------------	---------------	----

原子力開発の渦中に身を投じて	森 一 久	81
----------------------	-------------	----

電発の初期、組合そして結婚	湯 本 用 吉	88
---------------------	---------------	----

炉開発への情熱 — その源泉	武 田 充 司	90
----------------------	---------------	----

核廃絶をねがって	菅 沼 純 一	95
----------------	---------------	----

先見と地道な仕事	祝 迫 重 明	100
----------------	---------------	-----

提言・原子力資料のアーカイブを創ろう	武 井 満 男	102
--------------------------	---------------	-----

「立花昭さんを偲ぶ会」参加者サイン帳	106
--------------------------	-----

はじめに

これは立花昭の「記念館」である。普通「誰そのの記念館」といえば、まず当人の写真や肖像・愛用の衣服等を飾り、手書き原稿など展示する。遺された文書や資料は、別室の書庫に仕舞われている。わが「記念館」の目玉は、むしろ彼が遺した資料・文献・書籍である。しかし実物はここには無く、「訪れる人」のために整理した目録＝書庫のみがある。そこで「仮想」記念館と名付け、当人の人物像の方は、後半「立花昭・アラカルト」として添えた。

事の起りは、三年ほど前のこと、「本や資料が増えちゃって、庭に小屋でも作ろうかと思うよ」と立花に言われたという記憶が、何故かふと、私の頭に浮かんだ。私のように原子力開発の当初から携わってきた者は、長い間のメモ・資料・情報は、捨てるに忍びず、ひたすらに溜めている。不器用な私など、事務所も自宅も資料や書籍の山。誰か何処かで保存してあるなら、「その分捨てられるのに」と思いながら、徒に月日は過ぎてきた。・・・あの几帳面な立花の集めた資料一切は、安斎育郎さんの格別のご配慮により、立命館大国際平和ミュージアムに保管されているから、それを整理し告知すれば、助かるのは小生ばかりではなかろう、というのが、この本に着手した、誠に身勝手な動機であった。

そこに武井満男氏の紹介で、鈴木利治東洋大学名誉教授（元エネルギー経済研）がこの立花資料に強い関心を持たれ、京都に数日滞在して丹念に閲覧し、整理方法の提案などを始められたので、私は彼のイニシャティヴに追従しておれば、何とか「刊行」出来るものと、タカをくくっていた。ところが一昨年、彼が突然体調を崩され、途方にくれた。

その時何人かの友人に相談したが、その中の一人が「そんなことに意味ありや」と辛言されたのが、却って私のつむじ曲がりに油を注ぎ、「何とか完成させよう」と決心してしまった次第である。それに何と言っても、私がこの事に拘わるのには、彼と私の「情動」の共通性という事が、実は背景にある。つまり、頑固で不器用（煙草・麻雀・ゴルフ・カラオケ等々に無縁で）、体制側に馴染めず、それで居て周りの者に殊のほか気を使う（つमoriの）性格。これは私の場合、生まれつきや育った環境に加え、父母等を失って生残った原爆体験というものが基点になっている。

彼の場合、九州柳川藩の出、立花小一郎陸軍大将の長男の（岳父）薫（華族）が、反面教師となって、彼は高校入学時から経済的に親からの独立を決心する。それが彼の強い自立心の形成をもたらす根源と思われるのである。

さて、いよいよ作業再開となったが、こんな時に頼りになるのが、よろず力持ちの喜多尾憲助君、早速一緒に二日間京都へ、資料の閲覧に出かけた。二千五百点以上の資料を丁寧に一つずつ封筒に入れ、四段のバーチカルファイル五本に整理されているのを見て、同館への深い感謝と、整理の大変さを思い、ため息を禁じえなかった。それからというもの、喜多尾氏は資料のコピーなど館側の特別の協力に助けられつつも、その後も現地で出来る限り多くの資料に直接当たり、また立花の詳しい年譜を、関連事項を付して作成し、それと対比して精査・整理し、「ガイド」付きの「書庫」を完成した。

立花の没後十年を経過した今、この「記念館」の裏づけとしても、このような彼のユニークな人物像を記録に留めておきたいと考えた。今更知人・友人に執筆を依頼して「美文」を載せたりするのは、彼の最も嫌うことは明らかである。そこで。幸いに没後一ヵ月に行われた「偲ぶ会」の記録が残されており、そのスピーチの幾つかに加えて、原子力・核兵器・山登り・組合・結婚・家庭といった、彼をめぐるキーワードといえる項目について、新たにそれぞれ執筆してもらうこととした。また先の「偲ぶ会」の出席者サイン簿は、彼と親しく交わった人々の大半を網羅しているので、既に故人の方も含まれているが、これも記念に、そのまま掲載してある。

さて、冒頭に告白した私の身勝手な「動機」はどうなったかといえば、これは「蔵書」部分を除きほぼ未遂に終わったと言わざるをえない。

それはむしろ当然で、本書の「立花昭・書庫」の部分は、たしかに彼を識るための「アーカイブ」としては極めて有用だが、原子力開発全般の史的な分析には、やはり一定の意味しか持ち得ないであろう。つまり、各人各様の一生に亘る問題意識の「集積」が、各々が「遺した資料」であってみれば、そこから後世に残すべき、史的な分析に有用な「アーカイブ」を編み上げるのは至難の業であろう。しかしながら、原子力の意義とあり方については、今後も末長く、社会的にまた経済的に問われつづけることは明らかであるだけに、武井満男氏の提言（102頁）のように客観的な史料を整理・保存する努力を怠ってはならないと思うのである。

森 一 久 記

若き日の立花昭ら原子力コロキウム参加者たち

このコロキウムは、原子力研究に対する日本学術会議の姿勢を支持する若い研究者を中心とする自主的原子力問題勉強会。(プログラムは87頁) 立花昭も講師を勤めた。なお参加者により「原子力談話会」(81頁) が結成された。〔太字は本書の関係者〕



1954 (昭和29) 年8月10日～16日 於：富士山麓精進湖畔・精進小学校

原子力コロキウム

コロキウム参加者は次の通り決定しました。お互に仲良く勉強して行きたいと思います。

氏 名	所 属	専 門	備 考
高 木 崇 一	東北大 工		
石 川 寛	科 研	物 理	
小 林 久 信	〃	〃	
川 崎 崇 一	〃	〃	
服 部 学	東 大 理	〃	
喜多尾 寛 助	〃	〃	
夏 目 晴 夫	〃	化 学	
神 保 元 二	東 大 工	化 学 工 学	
小 川 岩 男	東 大 生 産 技 研	物 理	
富 永 五 郎	〃 〃	〃	
唐 澤 孝	〃 〃	物 理 工 学	
武 谷 清 昭	〃 〃	冶 金	
吉 野 諭 吉	東 大 教 養	化 学	(参加の見込)
山 室 信 弘	東 京 工 大	物 理	
長 原 幸 雄	〃	〃	
小 寺 正 俊	〃	〃	
三 雲 昂	〃	〃	
浅 見 哲 夫	〃	〃	
栗 野 満	〃	〃	
明 島	〃	化 学 工 学	
(池 辺)	〃		
森 一 久	自然 編輯部	物 理	
松 尾 禎 士	名 大 理	化 学	
荻 田 直 文	京 大 理	物 理	
上 田 顕	〃	〃	
西 田 稔	〃	〃	
岩 垂 純 二	〃	〃	
広 重 徹	〃	〃	
大 塚 益 比 古	阪 大 理	〃	
矢 島 信 男	〃	〃	
李 時 求	〃	〃	
立 花 昭	大 阪 市 大	〃	
(島 誠)	科 研	化 学	
(西 野 真 治)	〃	物 理	(1~2日)
池 嶋 胤 胤	京 大 理	〃	
石 崎 可 秀	〃	〃	
中 村 輝 男	〃	〃	

伏見康治、浜田成徳、田中稔次郎の諸氏も数日は来られる予定。

「書庫」ガイド

立花昭・書庫

立花昭氏(以下「立花」と呼ぶせても可い)は、1940年、東京市立大で工学部物理学科に入学し、物理学を専攻。戦時中、彼が集め、使用した資料をはじめとして、彼自身執筆した社内報告や論文の草稿・報告原稿など、実に二千数百点に及ぶ「手書きの真実、原稿、印刷物、印刷本など多種多様」文書を、関連する書籍や雑誌(約500点)とともにかなり整理した形で遺している。それは立花が常々、人類が、そしてわが国が原子力利用という未知の分野に踏み込んだ最初の数十年間の「真実」を、後世の評価・分析に供したいと、考えていたからだと思う。

幸いなことに現在これらの資料・図書は、その取扱いを惜しむ大蔵省の古氏(電線開発(株)元理事長)や阪部孝氏(立教大学名誉教授)の要請を受け、立教大学立花昭平和ミュージアム館長、安斎育郎教授の好意により、同ミュージアムの所蔵資料となった。書籍と雑誌はメディア資料室の蔵書として配架されているが、数少ない「資料」の方はこの施設の出発館長委員らによって、別冊のように分類・整理され「資料」書類袋に入れて保管されている。その数は301点にわたる。

年譜にもあるように、立花は東京文理科大学及び大蔵省大において物理学、とくに原子力線の研究者となるべく大学院に進んだが、その直後電線開発株式会社に入社し、日本原子力研究所に派遣され、さらに日本原子力発電株式会社に出向し、生涯のほとんどを原子力技術者として過ごした。

文理大に入学した1949年には湯川秀樹が中間子論でノーベル賞を受けている。立花が物理学に関心を再った時期は、戦後における科学者運動の高揚期であった。旧制東京高校に入学した翌年には民主主義科学者協会が創立された。平和努力側に立ち、自然科学を大衆のためにというスローガンは、多くの若者がそうであったように、立花の心も燃えさに違いない。立花が手にした初期の資料は、それを物語っている。

1952年議院修治が発効し、わが国においても原子力研究・開発が(条件付きながら)自由に行われるようになった。日本原子力会館の動き、東大原子核研究所の設置問題、経

「書庫」ガイド

喜多尾 憲 助

立花昭氏(以下「立花」と呼ばせてもらう)は、1946年から亡くなる前年、1997年までに彼が集め、使用した資料をはじめとして、彼自身執筆した社内報告や論文の草稿・報告原稿など、実に二千数百点に及ぶ(手書きの草案、原稿、印刷物、切抜きなど多種多様)文書を、関連する書籍や雑誌(約800点)とともにかなり整理した形で遺している。それは立花が常々、人類が、そしてわが国が原子力利用という未知の分野に踏み込んだ最初の数十年間の「真実」を、後世の評価・分析に供したいと、考えていたからだと思う。

幸いなことに現在これらの資料・図書は、その散逸を惜しむ大塚益比古氏(電源開発(株)元原子力部長)や服部学氏(立教大学名誉教授)の要請を受けた立命館大学国際平和ミュージアム館長、安斎育郎教授の好意により、同ミュージアムの寄託資料となった。書籍と雑誌はメディア資料室の蔵書として配架されているが、膨大な「資料」の方はこの施設の山辺昌彦学芸員らによって、別掲のように分類・整理され(備考1)、書類袋に入れて保管されている。その数は2011点にのぼる。

年譜にもあるように、立花は東京文理科大学及び大阪市大において物理学、とくに宇宙線の研究者となるべく大学院に進んだが、その直後電源開発株式会社に入社し、日本原子力研究所に派遣され、さらに日本原子力発電株式会社に出向し、生涯のほとんどを原子力技術者として過ごした。

文理大に入学した1949年には湯川秀樹が中間子論でノーベル賞を受けている。立花が物理学に関心を持った時期は、戦後における科学者運動の高揚期であった。旧制東京高校に入学した翌年には民主主義科学者協会が創立された。平和勢力側に立ち、自然科学を大衆のためにというスローガンは、多くの若者がそうであったように、立花の心も捉えたに違いない。立花が手にした初期の資料は、それを物語っている。

1952年講和条約が発効し、わが国においても原子力研究・開発が(条件付きながら)自由に行われるようになった。日本学術会議の動き、東大原子核研究所の設置問題、科

学技術庁と原子力委員会の設立問題、原子力平和利用3原則。これらは研究者を巻き込んだ出来事であった。

1953年末の米国政策の転換、1954年の旧ソ連による世界初の非軍事用原子力発電の成功によって、核エネルギーの非軍事利用としての原子力発電の実用化の幕が上がった。

1954年国策会社の電力企業（電源開発）に就職した立花は、原子力技術の習得と発展のために努力し、原子力の平和利用の開発と安全性の確立に変わらぬ情熱を注いでいる。高速炉開発部長として定年になるまでの10年間は、高速炉開発に従事した。日本原子力発電株式会社（原電）の嘱託を辞してからは、核兵器の廃絶なくしては高速炉の実用化もないとの考えをより明白にし、核軍縮問題や平和問題の研究に向かっている。

立花昭が去ってすでに10年の歳月を数える。立花の辿った道はもちろん「軽水炉ひと筋」ではない。それは日本原子力研究所（原研）や電源開発や原電の置かれた立場をも反映して曲がりくねっている。立花は、天然ウラン黒鉛炉を皮切りに、加圧水炉、沸騰水炉、重水炉、高温ガス炉、高速炉と付き合い、しかも「沸騰水炉と高温ガス炉については2度にわたって」かかわったと1972年に書いている。

この「立花昭・書庫」は国際平和ミュージアムの資料目録第2集に記載された立花資料を、電源開発入社前、電源開発・原電時代、リタイヤ後と、暦年を追って並べ変え、立花の歩みに合わせ「収めた」ものである。なお、寄託された書籍・雑誌などのリストは、テーマ別に分類し、**書庫目録2**として61頁に掲げておいた。繰り返すがこれらの分類は同ミュージアムの分類とは別である。

さて、同ミュージアムに保管されている立花資料の第1号（文書番号366-1）は、1954年8月に開かれた原子力コロキウムのA5版ノートに書かれた記録である。このコロキウムは、原子力研究に関する日本学術会議の姿勢を支持する若い研究者を中心とする自主的原子力問題勉強会である。立花自身も中性子源・熱源としての原子炉などについて講義している。8月14日の頁には中間討論の内容が詳しく書かれている。メモによれば、この日は2時以降は休みになっているはずである。しかしこの日の夜は浜田

成徳先生の「現状報告」があり、その後討論を行ったのかもしれない。なにしろ54年も前のことであり、夜、宿の大広間に集まって議論したのであろう。1952年日本学術会議で原子力委員会の設置を提案した茅・伏見声明から始まる日本の現状（学術会議、行政、民間の動き、米原子力資料購入の国会図書館予算など）の紹介が、コロキウムでもなされている。討論では政府の原子力計画における基本政策の不明確さが指摘され、原子力平和利用の、いわゆる「三原則（自主・民主・公開）」の実現にとって①学術会議の強化、②科学者の連帯及び③科学者と一般国民との連帯の強化、④原子力問題理解のための啓蒙活動の強化があげられている。このコロキウムの成果と問題点も指摘されたとある。組織を作って活動してゆこう。一人一人ではだめだ、とも書かれている。このことは、その後すぐ結成される、研究者の連絡組織「原子力談話会」、また雑誌「原子力」の発刊へと繋がってゆく。14日の中間討論の結論は

1. アメリカ AEC — 採算が合うプラント輸出はありうる。
2. 日本でも、やろうと思えば、段々出来るだろう。
3. 仏・英・ノルウェイの始めた時と、日本の今の事情は違う。
4. 日本の大企業の利益だけになる可能性があり。
5. やはり、日本でやるならば自主的にやりたい。

となど書かれている。

立花は1960年9月から2年間、国産動力炉開発プロジェクトである原研の半均質炉計画（1959～1963）に参加した。半均質炉の燃料は黒鉛減速材の中にウランの酸化物や炭化物を混ぜペレット状に固めたものを使う。水溶液のように燃料と減速材が完全に混ざり合っていないので、半均質炉と呼ばれた。このプロジェクトは臨界実験装置（1961年1月臨界）を設置し、燃料や減速材の研究を行うなど炉物理、炉工学、材料開発で成果を上げ、実験炉建設へと向かう意欲的なものであった。当初はヘリウムによる高温ガス冷却型に向かっていたが、途中からプロジェクトリーダーの推すビスマスを使う液体金属冷却方式が加わり、しかも後者が既定路線であるかようになってきたため、炉設計担当者との間で対立が生じた。この対立は1961年10月に設置された原研評価委員会の判断（1962年）によって解け、ガス冷却路線に戻ったが、この幻の純国産炉も1964年に終わりを告げた。この年にはプロジェクトリーダー名で最終報告が

まとめられている。判断の当否は別として、はっきりした結論が出ないままに終わることが多い中でこれは珍しい事といえるであろう。しかし、その後国産動力炉は、原子力委員会専門部会の報告により高温ガス炉と重水炉の2本立てとなったが、いつのまにか評価委員会技術小委主査が推す重水減速炉となった。1972年立花はこのプロジェクトについて、彼としては珍しい「評論家」風な題を付けた一文を寄せている。「平均質炉の混迷」（原子力工業第18巻第3号55～59頁）がそれで、プロジェクト運営における「日本的」混迷を指摘し、研究開発の方針は、技術自身の持つ合理性が貫かれていなければならないことを述べ、「科技庁の行政官にしても、大蔵省主計官でも、あるいは私を含めて原子力開発従事者にしても、十数年にわたって同じ道を取り続けるだけの冷徹な合理性としぶとい度量を果たして持ち合わせているだろうか」と書いている。この掲載誌はミュージアムの所蔵資料目録には載っていない。おそらく平均質炉関係の他の資料（文書番号366-1196～1208）と一緒にになっているのかもしれない。

リタイヤした後の立花は核拡散問題研究会（後に核軍縮研究会に変更）の世話役として奮闘した。毎回会合案内を作り、会合のレジメを書き、各人が持ち寄った資料に番号を付けて整理した。配布資料のリストを見ると核問題をカバーする貴重な資料であることを知る。この研究会の資料は国際平和ミュージアムの資料目録では、“NPT”の名で保管されている（文書番号366-1171～1185）。同目録ではいずれも“数量1”となっているが、例えばNPT(15)（文書番号366-1185）は全体で100頁を越える。世の中には自分が関係した資料のすべてを保存するという稀有な人がいるようだが、もちろんこの書庫の収納物は彼の仕事に関係したドキュメントの一切ではない。家に持ち帰れない資料もあったにちがいない。しかしこの資料が、わが国における原子炉開発の初期の一端を覗く記録として、また核軍縮、核廃絶の資料として役立つことを期待する。

本「書庫」を作成するに当たって、文書をひと通り点検し、立花自身が書いたものと、立花が所属した組織、あるいは役職者として関係した組織が作成したものとをほぼ区分けした。組織名になっていても彼が手を入れていたことは十分予想されるとし

でも、印刷物となってしまったものは判断が難しい。また文書の中には、何時作られたのか、何時入手したのか、はっきりしないものがある。作成年月の欄で“-”としたものがそれであり、文書のタイトルからおよその時期を推定して並べた。判断に自信のないものは“?”を記入してある。さらに立花が入手した文書の作成年月と、彼が入手した日とが必ずしも一致するとは限らない。立花資料の中には、原電時代の日記的なノート「記録帳」(1965～1988)がある。その記述と文書をつき合わせることによって、入手した年月を明らかにできたかもしれない。しかし時間的制約もあり、果たせなかったのは、まことに残念である。

なお、本「書庫」の作成には、同ミュージアムの芳賀淳子氏、世継淳子氏から所蔵資料の閲覧・複写などで、格別お世話いただいたことをここに記し、感謝の意としたい。

備考

1 立命館大学国際平和ミュージアム資料目録第2集における立花資料の分類

- 366 - 1 - 268 : 論文・メモ
- 366 - 267 - 953 : 高速炉もんじゅ
- 366 - 954 - 1080 : 敦賀原子力発電所
- 366 - 1081 - 1196 : 核不拡散
- 366 - 1197 - 1302 : 高温ガス炉
- 366 - 1303 - 133 : 廃炉
- 366 - 1332 - 1436 : 平和利用
- 366 - 1437 - 1650 : 事故・安全性・耐震研究
- 366 - 1651 - 1725 : エネルギー産業
- 366 - 1725 - 1781 : 原子力研究所
- 366 - 1782 - 1922 : 日本学術会議・民主主義科学者協会・日本平和学会
- 366 - 1923 - 2011 : その他

2 立花資料は、同ミュージアムのメディア資料室(〒603-8577 京都市北区等 持院北町56-1)で**閲覧・複写ができる**。館外貸出しはしていない。(編者の一人、森の手元には一部の資料のコピーがあり、当分保管する予定である。)

また閲覧に当たっては事前連絡が必要である。しかし、立花資料のあるものは経年変化が激しく、複写（コピー機による）に耐えないものがある。そのような場合、複写に変わる代替案を考えてもらえと思うが、いずれにせよ利用の際は、同資料室（Tel：075-465-8309）に問い合わせ戴きたい。なお立花資料のリストを掲載した「資料目録」第2集は、資料の大きさや頁数が併記され、またCD-ROM版も作られており、入手できる。同ミュージアムメディア資料室のウェブサイトは

<http://www.ritsumei.ac.jp/mng/er/wp-museum/museum/media.html>
である。

- 3 「書庫目録1」第1欄の「資料番号xxx」は、立命館大学平和ミュージアム資料目録の受入番号（366-xxx）を指す。資料番号の後の“+”：同一資料袋中に他の作成年月の資料と共存していることを示す。表中、最後のカラムの○は立花の執筆したもの、△は立花のメモ書があるもの、また&は共同執筆を表す。

“年月”は作成又は入手の年月、例えば“5911”は1959年11月の略記。“>95”は1995年以降の文書であるが、詳細は不明。“95-”は1995年のものであるが、月が不明であることを示す。

- 4 資料目録掲載の資料名や作成者名で、気付いた誤記等は修正した。

- 5 使用した組織・会社等の略号は、当時広く使われているものである。

例：電源開発 — 電源開発株式会社

原電 — 日本原子力発電株式会社

原研 — 日本原子力研究所

科研 — 科学研究所（現 理化学研究所）

KJR — 研究連絡連絡センター

原産 — 日本原子力産業会議

学術会議 — 日本学術会議

動燃 — 動力炉・核燃料開発事業団

原安協 — 原子力安全研究協会

電中研 — 電力中央研究所

電事連 — 電気事業連合会

民科 — 民主主義科学者協会

立花昭年譜

(喜多尾憲助編)

年 月	経 歴	関 連 事 項
1928 (昭 3)	6 12日、東京渋谷で出生	
1935 (昭 10)	4 東京都渋谷区山谷小学校入学。いわゆる虚弱児童で、1年生は欠席多し	
1945 (昭 20)	3 東京都立第六中学校卒業	
1949 (昭 24)	3 旧制東京高校理科甲類卒業。一時肺浸潤に罹る。	米、広島・長崎を原爆攻撃。敗戦。 湯川秀樹、中間子論でノーベル物理学賞を受ける。
1953 (昭 28)	3 東京文理科大学卒業(物理学専攻) 大学院入学。 大阪市大で宇宙線の研究	
1954 (昭 29)	3	米ビキニ水爆実験で福島丸被災。 原子力予算計上 学術会議、原子力利用開発で、民主・自主・公開の3原則声明 原子力談話会結成
	4	
	8 若手研究者による自主的勉強会(原子力コロキウム)に参加「原子炉の中性子利用と熱利用」を講義	
	9 同大学院退学	
	10 電源開発入社、企画部所属。原子力発電の基礎調査に従事	電源開発企画部第2課原子力班設置
1955 (昭 30)	8 第1回原子力平和利用国際会議(ジュネーブ会議)参加(オブザーバー)。帰路、仏、英、ノルウェー、スウェーデンなどの原子力施設視察	
	11	日本原子力研究所設立。 日米原子力(研究)協定調印 電源開発企画部原子力調査室設置。
	12 企画部原子力調査室所属	原子力基本法など原子力3法成立 電源開発企画部原子力室設置 学術会議、発電炉の輸入で勧告 国際原子力機関(IAEA)発足
1957 (昭 32)	3 企画部原子力室所属 山形順子と結婚	
	7	
	10 東海1号炉購入仕様書作成WGに参加	
1958 (昭 33)	11	日本原子力発電株式会社設立 日米原子力(動力)協定・日英原子力動力協定調印
	7	
	8 東海1炉見積仕様書検討会に参加	
	10 GE及びWHでの原発訓練コースに参加。米各地の施設見学。ピッツバーグ及びサンノゼに約2ヶ月滞在。	原研、ヘリウム冷却平均質炉構想
1959 (昭 34)	1 米 Atomics International 社にてピクワ有機材減速炉の炉心設計実習(7月まで)	
	5	電源開発企画部原子力課設置
	12	東海1号炉(コールドハーホル改良型)設置許可。 原研平均質炉開発プロジェクト開始。 (気体冷却と液体金属冷却) ~1963

年 月	経 歴	関 連 事 項
1960 (昭 35)	6 原研平均質炉開発室へ派遣。高温ガス冷却炉の開発計画・炉心設計に従事 (1962年8月末まで)	
1962 (昭 37)	4 長男 実 誕生	
1963 (昭 38)	1 米, 原子力潜水艦の日本寄港申し入れ 8 発電試験炉 JPDR 臨界。	
	カナダ重水炉の技術調査	
	10 長女 知子誕生	
1964 (昭 39)	2 原子力委高速増殖炉懇談会設置 7 原電に出向。社長室所属。 第3回ジュネーブ会議関係調査	
	10 原子力委動力炉開発懇談会設置	
1965 (昭 40)	会議等のメモとして「記録帳」書き始め	
	3 動力炉懇, 高速炉WG・新型転換炉WG設置 5 原電東海1号炉臨界。	
	8 原電技術部核燃料課兼務。敦賀原発見直し様書の検討及び安全審査準備と対応に従事 (1966まで)	
	10 朝永振一郎, 量子電磁力学の基礎理論でノーベル物理学賞を受ける	
1966 (昭 41)	1 高速炉WG報告書。 2 原電, 開発計画室設置 6 新型転換炉WG報告書 8 原子力委動力炉開発臨時推進本部設置	
1967 (昭 42)	3 原研FBR-WGに参加 8 技術士(応用理学)資格取得 3 IAEAの熱中性子Pu利用シンポジウム及び燃焼計算パネル出席。その後, 高速炉技術調査のためベルギー, 英, 仏, 伊, 西独, オーストリア等に出張 原電開発計画室主査	
	10 動力炉・核燃料開発事業団(動燃)発足。 原子燃料公社廃止 核拡散防止条約調印	
1968 (昭 43)	7 日仏高速炉協力協定(5年間) 12 日米高速炉協力協定	
1969 (昭 44)	3 印タラプール原発へ出張, BWR出力上昇試験調査 敦賀発電所起動試験準備、通産説明、検査官立合いに同伴(～1970)	
	10 原電敦賀1号炉臨界	
1970 (昭 45)	3 欧州出張: カダラシツ, Super Phoenix 見学。 (3.4～3.5)	
1971 (昭 46)	1 高温ガス炉型原発の技術導入調査。米, 英, 西独へ出張(3月まで) 8 第4回ジュネーブ会議参加。ベルギー, 英, 仏に出張	
1972 (昭 47)	東海第2発電所の安全審査対応 10 高速炉及び高温ガス炉調査のため, オランダ, 西独, スイス, 仏へ出張	
1973 (昭 48)	4 核燃料取扱主任者資格取得 8 原子炉主任技術者資格取得 12 第1種放射線取扱主任者資格取得	
1974 (昭 49)	3 通産省高温炉調査団員として, 西独, 仏, 英, 米訪問 (3.16～30) 6 開発計画室次長	

年 月	経 歴	関 連 事 項
1976 (昭 51)	7 開発計画室室長。電力各社との売電交渉に従事。	
1977 (昭 52)	東海第2原発の電力料金を調査（～1978）	
1978 (昭 53)	東海発電所を主体とする廃炉技術の調査に従事（～79）	
1979 (昭 54)	5 「もんじゅ」建設における電力の協力体制の準備。	日独仏高速炉協力協定
1980 (昭 55)	3	TMI 事故
1		原子力委新型転換炉実証炉評価検討専門部会（1981. 8 報告書）
2 高速炉開発室長		原電高速炉開発室設置。電力十社の出向者を加え「もんじゅ」建設協力体制発足
4		高速炉エンジニアリング（株）設立。
6		電事連高速増殖炉推進会議設置
		電事連、高速増殖炉開発準備室設置。 ～1985. 12 まで
1981 (昭 56)	5 米ベクテル社へ出張（5. 19～29）	
1982 (昭 57)	5	原子力委FBR 専門部会設置
7		原電、ガス炉特別調査室設置
12 高速炉建設部長		原電、高速炉開発室を高速炉建設部に改組
1983 (昭 58)	6 技術開発部長。	
	高速実証炉開発計画について電事連に協力	
1985 (昭 60)	9	SPX 臨界
10		もんじゅ着工
12 高速炉開発部長		電事連、高速実証炉開発業務 原電に移管。準備室解散。
		原電、高速炉開発部設置
1986 (昭 61)	4	チェルノブイリ事故
6 電源開発定年退職。原電採用。引き続き高速炉開発部長		
7 高速炉運営委にて高速増殖炉中長期研究開発課題（案）（昭和62年度～71年度）の検討と取りまとめ		動燃、高速増殖炉研究開発運営委員会設置。 原電、電中研、原研共同組織
1987 (昭 62)	7	社長会議「…今後の進め方」決定
		原電、技術開発本部設置（技術計画部、技術開発部、高速炉開発部、高速炉建設部）
1988 (昭 63)	6 原電定年退職。同嘱託	
1989 (平 1)	1	科技厅プルトニウム利用懇談会設置
4 学位論文まとめ始める。		
7 日ソ高速炉炉心設計・炉物理セミナーに参加（7. 22～30）、オブニンスク、ペロヤルスク、BN-600 見学		
9 学位論文「地震による制御棒の上下動と大型高速炉炉心の安全限界」を東大に提出。原電嘱託を辞す。		
1990 (平 2)	6	電事連、ループ型高速実証炉の概念設計はじめる
1993 (平 5)	6 核拡散問題研究会発足呼びかけ文、起草	
7		核拡散問題研究会（勉強会）発足

年 月	経 歴	関 連 事 項
1994 4 (平 6)	6 パグウォッシュ会議45回年次大会準備会に参加 (経理委員長)	もんじゅ臨界
	8 論文執筆に励むが、体調を崩し、体重激減。	
	10 CTによる脳スキャンを受ける。異常は認められず、本人は 自律神経失調症と自覚、長期療養を覚悟	
1995 3 (平 7)	医師の診断を受けるため、過去の病状を書く。 核拡散研究会のパンフ「核不拡散条約の延長についての 意見」まとめる	核拡散問題研究会、プレスセンターで記者 会見。新聞記者多数 パグウォッシュ会議年次大会、広島で開催
	7	
	8 MRI 検査を受ける	
	9 「核軍縮」研究会幹事を引き受ける	核拡散問題研究会の名称「核軍縮」研究会 (代表－伏見康治) に改称
	12	もんじゅ、Na 漏洩事故
1996 9 (平 8)	病状悪化。入院 (9/3～10/2)	
1997 1 (平 9)		原子力委高速増殖炉懇談会設置
	6 パーキンソン病と診断される	
1998 5 (平 10)	死去 (5/15, 69歳)	

研究論文・著訳書等

* 立命館大学国際平和ミュージアム 資料目録番号 366-xxx

** - は所蔵資料にないもの、又は他の資料と同じ袋に入っていることが予想されることを示す。

*** 5(1)51(1963)は、第5巻第1号51頁(1963年)を表す。

1. 学会発表論文

タイトル 掲載誌 巻(号)掲載頁(発行年)	著者名	資料 No.*
宇宙線軟成分の解析(Ⅰ) 素粒子論研究 6(6)610-615(1954)	立花昭	-
平均質炉の中性子スペクトルと増殖可能性 原子力学会誌 5(1) 51 (1963)***	立花昭, 安田茂, 伊勢武治	13
大型高速炉炉心の静的核特性とウラン238核分裂効果の評価 原子力学会誌 32[2] 179 (1990)	立花昭 鈴木聖夫 川島正俊	812
Sensitivity Analysis on Safety Limits of Large FBR Core for Seismic Vertical Vibration of Control Rods, J. Nucl. Sci. Technol. 29(1) 24 (1992)	A.Tachibana, M. Suzuki, H. Endow	-**

2. 著書・訳書

タイトル (発行年)	著者名等	出版社	発行年
日英仏露原子力用語辞典	日本原子力産業会議編 (編集委員)	紀伊国屋書店	1956
原子力事典	原子力産業会議編 (編集協力)	オーム社	1957
戦争研究	ブラケット著, 岸田純之助・立花昭訳	みすず書房	1964
図解原子力用語辞典	原子力用語研究会編 (執筆・編集)	日刊工業新聞社	1968
電力技術デスクブック第7編 「原子力発電所」	立花昭 (共著)	電気書院	1970
日露英対訳原子力用語辞典	原子力産業会議編 (編集委員会主査)	日本原子力産業会議	1978
原子力用語辞典	原子力用語編集委員会編 安成弘監修 (編集委員)	日刊工業新聞社	1995

3. 解説その他

タイトル 掲載誌 巻(号)掲載頁(発行年)	著者名	資料 No.*
原子力協定とアメリカ原子力法 「原子力」 2(8)13 (1955) ***	立花昭	-
書評: R.L. マレー著「原子核工学」杉本訳, 丸善 「原子力」 2(8) 24 (1955)	立花昭	- **
原子力平和利用国際会議「ジュネーブの収穫」 「自然」 11(1) pp. 48-59 (1956.1月号)	立花昭	3
あすでは遅すぎる動力炉研究 「原子力工業」 12(6) 9-11 (1956)	立花昭	4
座談会「1957年の原子力を語る」 原子力工業 3(1) 10 (1957)	池亀亮, 伊原義徳, 大山彰, 杉本栄三, 立花昭, 森田敏夫	5
特集「増殖炉の開发现状」 気体冷却平均質増殖炉 原子力工業 7(11) 21 (1961)	立花昭	7
「炉物理研究5年の歩み」を読んで 原子力学会誌 6(11) 679 (1964)	立花昭	-
ヨーロッパ炉物理委員会(EACRP)について 原子力学会誌 7(3) 158 (1965)	弘田実弥, 立花昭	19
動力炉開発の再出発に際して 原子力工業 12(3) 1 (1966)	立花昭	20
ヨーロッパの高速炉開発 原子力学会誌 8(8) 483 (1966)	立花昭	-
欧州訪問の旅と核データ JNDC ニュース No.5 (1967)	立花昭	-
動力炉開発と核データ問題 JNDC ニュース No.9 (1968)	立花昭	-
「核燃」屋という新商売 JNDC ニュース No.15 (1970)	立花昭	-
連載講座「わが国の動力炉開発(その16) 動力炉の運転特性とその解析 原子力学会誌 12(9) 207 (1970)	立花昭	-
欧米の高温ガス炉技術の現状 原子力学会誌 13(7) 412 (1971)	立花昭	-
<<連載>>原子力開発15年の決算書(5)「平均炉の混迷」 原子力工業 18(3) 55 (1972)	立花昭	-
原子力の安全性を考える 雑誌「エネルギー」第9巻10号	立花昭	51
高速増殖炉開発の現状と安全問題の動向 日本機会学会誌 189 811(1986) 610-615	立花昭	87 90
ソ連の高速炉発電所 BN-600 の現状 原子力学会誌 32(7) 709 (1990)	立花昭	113
Pu 核拡散問題検討の基礎となる技術情報 原子力学会誌 35 (11) 994 (1993) 談話室	立花昭	2010
資源保存と環境保護を重点目標とし、リサイクル課程を重視した生産プロセスの確立 平和研究 21号 (1996)	立花昭	217

(喜多尾憲助編)

書庫目録 1

資料番号	資料名	著者・作成者	年月	
旧制東京高校・文理大・文理大大学院 (1945～1954)				
1923	日本の科学・技術の欠陥と共産主義者の任務 — 討議資料 — 「科学と技術」理論社p.217 より	日本共産党中央委科学技術部	4611	
1924	日本の科学・技術の欠陥と共産主義者の任務 「前衛」1946年11月号 (“科学技術テーゼ”)	日本共産党中央委科学技術部	4611	
1925	当面する情勢と科学者技術者の任務 抜粋	日本共産党中央委科学技術部	5105	
1903	原子力特別委員会名簿		5206	
1926	日刊サン写真新聞特集グラフ: 惨! 原爆長崎記録	サン写真新聞社	5208	
1782	部会通信(号外), 原子力委員会設置に反対する	民科東京支部物理部会準備会	5210	
1783	科学技術行政機構の確立 日本産業協議会月報.5月号(1952)	前田正男	5210	
1784	科学技術庁と原子力委員会	民科東京支部物理部会準備会	5210	
1891	AEC 問題について	京都民科物理部会	-	
1785	部会通信 No.3 物理学学会年會に際して	民科化学部会, 物理部会	5211	
1995	原子核研究所をめぐる諸問題		-	
1781	原子核研究所 昭和29年度概算要求書	原子核研究所	53-	
1786	科学技術庁設置要望 民科物理部会資料	自由党	5302	
1788	学術会議第39委員会(わが国の原子力研究の問題を検討する委員会)の討議記録	民科東京支部物理部会	5303	
1898	特集「科学技術庁」の正体 本部通信 No.2 別冊	民科	-	
1789	部会通信 No.6 国際理論物理学学会について	民科物理部会化学部会共編	5303	
1439	日本の原子力問題 民科物理部会監修	理論社	5304	
1332	Reports to the U.S Atomic Energy Commission on Nuclear Power Reactor Technology	Commonwealth Edison Co 他	5305	
1790	部会通信 No.8 ふたたび国際理論物理学学会について	民科物理部会化学部会共編	5306	
1791	部会通信 No.9	民科物理部会化学部会共編	5307	
1793	ちらし: 原子力委設置の陰謀を粉碎せよ	共産党東大細胞理学部班	5307	
1794	民科・化学・物理部会通信 No.10	民科化学部会物理部会共編	5310	
1795	民科・化学・物理部会通信 No.11	民科化学部会物理部会共編	5312	
1927	南山城の水害	近畿地区各大学連合水害科学調査団	5402	
1797	国会における「科学技術庁設置法案」に関する審議 第19回国会衆議院議事録第8号抜粋 学術会議第39委員会資料	学術会議研究体制委員会	5403	
1798	研究者各位	科学研究所宇宙線実験室	5403	
1890	日本の核武装に反対する物理学者の緊急集会		-	
1796	声明書 三原則に関係して	名古屋大学理学部素粒子論研究室	5403	△
1799				
1333	組合ニュース 102号	科研労組	5403	
1825	学術会議第39委員会に対する私達の要望	原子核研究者有志一同	54-	
1622	要望書の結果について 原子力問題について学術会議総会提出要望書		-	
1904+	原子力憲章草案 + 原子力問題についての原子核科学者の意見	伏見康治	5403	
1887+	同上関連資料 + 電事連菅氏から正力委員長へのお願 い, コールダーホール炉公聴会, 原研労組から胸形原研理事長宛公開質問状	伏見康治	5403	
1823	原子力基本法(試案)	日本学術会議・原子力問題委員会委員・前芝雄三	54-	
1888	原子力基本法案		-	
1889	原子核特別委員会報告 — 原子炉予算問題 — (文責 谷)		5403	
1802	第1回核研設立準備委員会	熊谷寛夫	5404	
1800	原子核特別委員会議事録	日本学術会議	5404	
1801	日本学術会議第39委員会資料		5404	
1804	日本学術会議声明 (英文, 核兵器の廃棄と有効な国際管理の確立) *目録記載の日本科学者会議声明は誤り	日本学術会議	5404	
1928	われらの技術 原子力問題特集号	新技術研究会	5406	
1893	原子力予算に関する声明・提案(修正案) 第17回総会	日本学術会議 39 委員会	5405	

1805	民科化学物理部会通信 No.14	民科化学部会・物理部会共編	5406	
1803	日本学術会議原子核特別委員会委員殿	原子核特別委員長・朝永振一郎	5406	
1629	原子核特別委員会委員殿 54/7/9 付	原子核特別委員会委員長・朝永振一郎	5407	
1897	原子力部会の提出 研究課題 選定に対する各研究室の動き	科研労組書記局	-	
1806	関東地区 合同談話会のおしらせ		5407	
1807	分会ニュース No.6	民科阪大理学部分会	5407	
1808+	原子核特別委員会議事録		5407	
1809	原子力問題委員会法規小委員会第1章		5407	
1906	原子力コロキウム おしらせ No.3		-	
1929	ちらし: 三原則を貫き通そう	日本共産党京大細胞	5407	
1440	人体内の放射性同位元素の最大許容量と空気および水の中の最大許容濃度	日本放射性同位元素協会	5407	
1812	第1回 原子力小委員会議事録	日本学術会議原子力小委員会	5408	
1	Nuclear Energy Colloquium ノート (原子力コロキウム用)	立花昭	5408	○
1810	原子力コロキウム 参加者名簿		5408	
1811	原子力コロキウム 会計報告		5408	
1335	原子核談話会通信 第12号	原子核談話会事務局編	5408	
1813	分会ニュース No.7	民科阪大理学部分会	5408	
1815	原子力談話会ニュース 創刊号	原子力談話会	5409	
1816	原子力問題委員会審議決定事項		5409	
1817	原子力利用準備調査会総合部会申合せ		5409	
1436	新原子力法の解説-1	電源開発・佐久間稔	54-	
1428+	原子力談話会ニュース 2, 3, 4, 5, 7, 9 54/9~55/3	原子力談話会	5409	△
電源開発 (1954~1960)				
1818	原子力予算配分の方針についての意見	原子力問題委員長	5410	
1819	原子力問題についての資料	民科物理部会編集	5410	
1820	日本の原子力問題について	名古屋大学素粒子研究室	5410	
1821	原子力コロキウム通信		5410	
1814	学術を守る会ニュースNo.4	学術を守る会	5410	
1653	原子力発電	山田太三郎/日本動力企画	5410	
1824	原子力談話会規約	原子力談話会	5410	
1654	電力料金は如何にして定められるか?	電力経済研究所	5410	
1655	電力供給力計画	電力経済研究所	5411	
1930+	軍事基地支配と「核研」	里見宕二, 小川昇(田無町議会 原子研究所設置反対, 特別委員)	5411	
1336	研究の必要性 研究の費用 研究の進歩		5412	○
1822	速報 No.2 原子核研究所問題の進展	民科物理部会編集	5412	
1835	原子力問題委員会記録	日本学術会議原子力問題委員会	5501	
1828	1955 年委員の選出について	原子力談話会	5501	
1836	原子力談話会ニュース No.8	原子力談話会	5502	
1837	原子力問題委員会記録	日本学術会議原子力問題委員会	5502	
1838	国際原子力会議参加準備に関する打ち合わせ会の審議結果に関する件	外務省国際協力第一課	5502	
1931	ウラニウム資源を巡る国際争奪戦 世界政治経済資料第 75 集	世界経済研究所	5502	
1337	A Programme of Nuclear Power	Her Majestys Stationary Office, London	5502	
1826	速報: 原子力研究に関する原子核物別委員会の結論		5503	
1827	原子力談話会ニュース No.10	原子力談話会	5505	
1839	原子力問題委員会研究体制小委員会(第2回)議事録		5505	
1840	濃縮ウラン問題の概要	日本学術会議原子力問題委員会	5505	
1834	ウラニウム調査と科学技術庁設置に反対する	地団研本部運営委員会	55-	
1901	日本学術会議総会論戦記	青木得三	5505	
1842	原子力談話会ニュース No.11	原子力談話会	5505	

1084 1339	濃縮ウランウムについて	電力経済研究所	5505	
1829	民科化学物理部会通信 No.17	民科化学部会物理部会共同編集	5505	
1831	仮称 科学史談話会 通信		5506	
1841	原子力問題委員会(19-1)議事録	学術会議	5506	
1844	原子力の研究・開発及び利用の促進に関する機構について	学術会議原子力問題委員会	5506	
1846	原子力問題委員会研究体制小委員会(第3回)議事録		5506	
1847	声明	東大教養学部物理学教室有志	5506	
1848	原子核特別委員会原子力関係参考資料		5506	
1851	日本社会党 原子力平和利用に関する調査特別委員会	日本社会党	55-	
1852	日本学術振興会原子炉設計研究委員会 関連資料		55-	
1338	米国の原子力平和利用計画のための核分裂物質の配分と各国の協力協定交渉の現状	外務省国際協力局第三課	5506	
1845	日米原子力協定交渉に関する要望書	日本学術会議原子力問題委員会委員長	5506	
1830	原子力問題はわかりー濃縮ウラン双務協定をめぐってー	民科物理部会	5506	
1344	原子力の平和利用にかんする実験研究機関についての意見(案)	電源開発企画部	5506	
1430	原子力平和利用 実験研究機関について(案)	電源開発	-	
1899+	雑誌「自然」抜粋(1955年7月) + 1956.1, 1958.1 もあり		5507	
1832	東京支部での話し合いについての報告	原子力談話会東京支部	5507	
1932	日米原子力協定とその問題点(草案)	電力経済研究所	5507	
1441	原子炉の安全性「原子力資料」2 ロジャース・マツキョロー他抜粋	電力経済研究所	5507	
1345	原子力平和利用海外調査団報告書	原子力平和利用調査会	5507	
1849	原子力の研究開発に関する国内声明について	日本学術会議・茅誠司	5508	
1833	原子力談話会ニュース No.14	原子力談話会	5509	
1340	10MW重水炉に関する設計計算 研究発表会(S30/10/21)資料	科学研究所原子炉設計研究会 石川寛他	5510	
1843	原子力談話会ニュース No.15	原子力談話会	5511	
1850	原子力平和利用国際会議日本代表団報告書ー外務省国際協力局	学術会議原子力問題委員会	5512	
1346	わが国原子力法制の運用整備についての見解	原子力平和利用調査会	5512	
3	原子力平和利用国際会議「ジュネーブの収穫」 「自然」11(1)p	立花昭	5601	○
1899	p. 48-59 (1956.1月号)			
2	雑誌「自然」第11巻(1号) 上記の掲載誌	中央公論社	5601	○
1431	国際連合における原子力平和利用の問題「国連研究資料」4巻 7号	外務省国際協力局第一課	56-	
1853	原子核研究者への要望書		5601	
1854	原子力研究所の敷地の決定について	学術会議・茅誠司	5603	
1341	原子力発電委員会第1回会議次第 運営・国内体制図など		5603	
1855	原子力関係ニュース No.2 動力協定ほか		5604	
1933	作業目標と人員計画(案)	電源開発原子力調査室	5604	
1934	坂田教授後援会ニュース 56.4.19 発行		5604	-
1935	坂田教授後援会ニュース 56.5.31 発行		5605	
1342	日本における電力の現状と将来についての素描	電事連	5605	
1343	原子力発電の諸問題 (C. Hinton 講演仮訳)	原産	5605	
1443	米国の原子力事故の要約	電源開発企画部原子力室	56-	
1856	原子力開発利用基本計画策定(案)	学術会議原子力特別委員会	5606	
1656	アメリカ・オランダ動力協定(原文)	原産	5607	
5	座談会「1957年の原子力を語る」 「原子力工業」3(1)10 切抜き	池亀亮, 伊原義徳, 大山彰, 杉本栄三, 立花昭, 森田敏夫	56-	○
954	天然ウラン需給設計演習ーファイルー	電源開発	56-	
1334	原子力研究をめぐる内外の情勢	東大工原子力問題研究会	56-	
1085	気体拡散法による低濃縮ウランの生産コストについて	科学技術庁原子力局	5607	
4	あすでは遅すぎる動力炉研究「原子力工業」2(6)9-11 (1956)	立花昭	56-	○
1442	(Bethe Report) Reactor Safety and Oscillation Tests	H. A. Bethe, Consultant Atomic Power Development Association	5610	

1347	動力協定研究中間報告	原産	5611	
1086	動力協定研究報告(I)	原産法制委員会	5612	
1936	企画部原子力調査室概要	電源開発企画部原子力調査室	5612	
1938	日本の文化の擁護と発展のために - 科学技術に関する部分の抜粋	日本共産党中央委員会	5701	
1865	日本学術会議 第1回原子カシンポジウム要旨集	原産	5701	
1859	原子力問題委員会報告 学術会議 17 回総会	伏見康治	5701	
955	中性子拡散のグループ定数	R. W Deutsch 著, 寺沢昌一(日立) 訳	5701	
1349	組合ニュース 研究用原子炉宇治設置問題について	大阪大学教職員組合情宣部	5702	
1445	わが国における地震危険の分布および建物に震害を受けた度数の分布	電源開発原子力調査室	5702	
1857	KJRニュース No.1 教育大	素粒子論研究者情報連絡会(KJR)	5702	
1937	原子核特別委員会在京委員会 議事録		57-	
1939	業務計画(案) 人員配置計画あり	電源開発企画部原子力調査室	5703	
1348	業務計画 人員配置計画なし	電源開発企画部原子力調査室	57-	
1900	ちらし: 原子炉の安全性について懇談会 (コールダーホール炉耐震性)	学術会議原子力問題委員会	-	
1727	大野氏の不当解雇事件の経過について	原研労働組合	5703	
1730	原研の不当人事について - 大野事件の経過資料 -	原研労働組合	57-	
1860	わが国の原子力開発方針についての検討会	学術会議原子力問題委員会	5703	
1861	わが国の原子力開発方針についての検討会資料	学術会議原子力問題委員会	5703	
1350	欧州の原子力事情と発電	外務省国際協力局第三課	5703	
1351	KJRニュース No.2	教育大	5703	
1729	事業月報 No.6	原研	5704	
1728	研究業務進捗状況	原研	5704	
1858	KJRニュース No.3: 日英協定について		5704	
1862	KJRニュース: ゲッティング宣言全文		5704	
1940	イギリス動力協定案	原産法制委員会	5705	
1902	「発電用原子炉に関する政府への申し入れ」(第 24 回総会)参考資料	学術会議原子力問題委	5705	
1353	昭和 53 年度原子力開発利用基本計画	原子力委員会	5706	
1991	阿武山原子炉設置反対理由	茨木市長・田村実	-	
1352	宇治原子炉問題の意味するもの 雑誌「自然」のコピー	小田弘	5706	
1941	関西研究甲原子炉設置について公聴会議事録 9月11日		5709	
1863	原研用原子炉に関する懇談会についての報告		5710	
1867	KJRニュース特集号 - 関西の研究炉の設置問題をめぐって		5710	
1367	物理学研究者有志から原子力委員会への質問		5710	
1444	Accident at Wilsdale No.1 Pile	Report to the Parliament by the Prime Minister	5710	
1657	1957 年 10 月 10 日のウインズケール第1号炉の事故	原産	5711	
1866	原子力問題委員会議事録		5711	
1650	原子炉地震対策小委員会第1次, 第2次経過報告書	原子力委員会原子炉地震対策小委員会	5711	
1354	日本学術会議第1回原子カシンポジウム報文集 一般講演・討論	第1回原子カシンポジウム報文集刊行委員会	5712	
1864	日本学術会議第1回原子カシンポジウム報文集 物理・原子炉	第1回原子カシンポジウム報文集刊行委員会	5712	
1899	雑誌「自然」(1958 年 1 月)抜粋		5801	
1446	原子炉および施設に関する安全性について	名古屋大学理学部物理教室素粒子論研究室	5802	
1869	KJRニュース No.5 関西の研究炉の設置問題の経過	東大理	5802	
1872	日本学術会議 第2回原子カシンポジウム要旨集	第2回原子カシンポジウム報文集刊行委員会	5802	△
1868	原子炉等に基づく災害防止小委員会報告書	日本学術会議原子力特別委員会	5803	
1437	カナダNRX原子炉の事故抄録 第一部	原電技術部計画課・浅田忠一	-	
1438	カナダNRX原子炉の事故抄録 第二部	同上	-	
1870	原子力問題年表		5803	

1355	原子力の非軍事的利用に関する協力のための日本国政府とアメリカ合衆国政府との間の協定 原子力平和利用における協力のための日本国政府とグレートブリテン及び北部アイルランド連合王国の協定	外務省	5806	
1873	動力協定に関する問題点	学術会議原子力問題委	5807	
1998	「原子力問題に関する決議」 第7回党大会十八中総	日本共産党中央委	5807	
1894	パンフレット: 原子力問題に関する決議	日本共産党第18回中央委	5807	
1871	KJRニュース No.2 動力協定・関西炉	教育大	5807	
1883	KJRニュース: 日英動力協定, 関西炉, 原水禁 No.1, 2, 3, 4	教育大	58-	
1434	IAEAが提供する役務と技術的援助 (翻訳)		>57	
1448	国際放射線防護委員会勧告	日本放射性同位元素協会	5809	
1356	第2回原子力平和利用国際会議	原産	5809	
1357				
1658	原子力国内事情 vol.4 No.1	原産	5901	
1874	日本学術会議第3回原子力シンポジウム要旨集	原子力シンポジウム報文集刊行委員会	5902	
956	コールドー型原子炉燃料要素について	原電	5906	
957	MUFT (Multigroup Fourier Transform calculation) について	日本原子力事業	5908	
1450	公衆災害を伴う原子力発電所事故の研究	原産調査企画室	5909	
264	原子力発電所の事故と農作物の廃棄 (手書き)	立花昭	-	○
1196	平均高温ガス冷却炉構造の概念	原研東海研究所	5910	
1447	コールドーホール改良型原子炉関連資料		59-	
1449	コールドー炉勉強会編「放射能のはなし」その他関連資料	原研荒谷台住宅自治会	5910	
1451	原子力発電所の事故評価について	原子力専門委員会事故評価委員会	5912	
1994	総評の原子力委員長に対する申入書についての反論	原電	-	
1659	日本石炭産業に関する考察	産業計画会議エネルギー委員会	6001	
1087	ウラン受給問題に関する調査報告書	原産調査企画室	6002	
1651	原子力産業実態調査報告書ー民間産業投資の現状と問題点ー	原産調査企画室	6005	
1452	原子力発電所立地における人口条件について 調査資料 No.29 抜粋	電源開発企画部原子力課藤原良治	60-	
1875+	原子力の研究開発に関する日本学術会議の声明	立教大学原子力研究所編	6006	
1652	海外原子力発電の現状調査報告・開発のテンポを支配する諸条件ー	原産調査企画室	6008	
電源開発 (原研平均炉開発室派遣, 1960~1962)				
1731	日本原子力研究所年報 1959年度	原研	6009	
1358	原子力産業開発に関する長期計画	原産	6010	
958	東海発電所の建設現況	原電	6011	
1359	原子核研究将来計画資料及び関連資料	原子核特別委員会将来計画小委員会	6012	
1732	原研 No.8	原研	6101	
1474	KJR ニュース No.61-1 東大		6102	
960	東海村農業調査報告	原産	6102	
1360	原子力開発利用長期計画	原子力委員会	6102	
1453	放射線安全取扱手引 原子力研究所資料 No.7 JAERI-6007	原研	6103	
1454	放射線安全取扱手引の基礎知識 JAERI-6008	原研	6108	
1289	書簡	上田隆三	9012?	
1288	上田氏原稿		9012?	
1197	平均プロジェクトの進め方 90/12/12 上田氏より送付 資料3		6101?	
1199	平均プロジェクトに対する理事長の考え 90/12/12 上田氏より送付 資料4		6111?	
1198	Concept of the Semi-homogeneous Reactor (SHR) and Present Status of Research 90/12/12 上田氏より送付 資料5	E.Nishibori, R.Ueda and T.Kuroyanagi (JAERI, Tokyo)	6110	
7	気体冷却平均増殖炉 原子力工業 7(11)21(1961)	原研平均増殖炉開発室立花昭	6111	○
8	原子力工業 第7巻11号 上の別刷? 原本?	日刊工業新聞社	6111	
1942	原子力船における外力の原子炉に及ぼす影響に関する研究「系統的実船振動試験」	日本原子力船研究会開発部会船体関係分科会	6111	
1943	原子力船における外力の原子炉に及ぼす影響に関する研究	日本原子力船研究会開発部会	6112	

	「航行中の動揺及び振動に基づく加速度の実態把握に関する実船試験」	船体関係分科会		
1660	原子力国内事情 vol.6 No.12	原産	6112	
959	平均質炉評価委員会議事録及び資料ファイル		61-	
1200	平均質炉に関する検討(平均質炉評価小委員会報告)	平均質炉評価小委員会	6112	
1294	平均質炉評価小委員会報告を読んで	西堀栄三郎	-	
1201	平均質炉評価委員会の答申について	原研平均質炉評価委員会	62-	
1202	平均質炉評価委員会の答申について(案)		62-	
1203	原研における原子炉開発について	西堀英三郎	6201	
1204	平均質炉評価委員会に対する要望及び平均質炉プロジェクトに対する考え方	原研	6202	
961	「平均資料-技術」ファイル	原研立花昭編	62-	○
1661	経済面からみた原子力産業の実態-投資・売り上げ・雇用の現状と問題点	原産	6202	
1662	原子力国内事情 vol.7 No.2	原産	6202	
1362	原子力開発の長期計画に関するシンポジウム, その第4回研究投資に関するシンポジウム講演ならびに討論要旨	日本学術会議, 原子力学会	6202	
1733	原研 No.13	原研	6204	
9	JETR設置計画検討議事メモ	原研	6204	
1455	原子力に関する安全性の概要(安全性専門委員会中間報告書)	原子力学会	6205	
1363	わが国の原子力開発について-海外の動向と日本の進路-	原産	6205	
1734	日本原子力研究所「炉物理談話会誌」 No.1	原研	6206	
1300+	ファイル:計画・予算他 平均質炉開発の問題点・平均質炉燃料など 6点	原研平均開発室・立花昭	6206	○
10	無次元バーンアップコード AIMFIRE(NAA-SR-6076)について	原研平均開発室・立花昭	6207	○
1205	平均質高温ガス冷却炉 594-62-2	原研平均質炉開発室設計グループ	6207	
962	東海村海岸調査報告 原電資料 第1号	原電	6207	
963+	我が国における原子力災害補償制度について 原電資料 第2号	原電	6208	
1735	日本原子力研究所「炉物理談話会誌」 No.2	原研	6209	
964	原電資料 東海第2発電所設備概要	原電	6212	
967	原子炉用黒鉛 原電資料 第3号	原電	6301	
13	平均質炉の中性子スペクトルと増殖可能性 原子力学会誌別刷	立花昭, 安川茂, 伊勢武治	6301	○
1457	横浜港の海水観測成果の報告と原子力船の放射性廃棄物の海洋投棄に関する2, 3の考察	日本原子力船研究協会	6302	
1663	態勢確立を急ぐ原子力産業-経済面にみる最近の実態	原産	6202	
1456	原子力の安全性とその課題 安全専門委員会報告書	日本原子力学会	6303	
1792+	原子力艦艇寄港受け入れについての解説 +		6303	
12	原子力潜水艦寄港問題における原子科学者の役割について		63-	
1737	炉物理談話会誌 No.3	原研	6303	
965	東海村の煙突から出る廃棄物の拡散に関する調査 原電資料 第6号	原電	6307	
966	東海発電所原子炉安全保護系スクラムレベル設定値の検討 原電資料 第7号	原電	6307	-
1993	沖縄軍事基地分布地図 (1961 現在)		-	
1945	原子力潜水艦 学習シリーズ	日本社会党機関紙	6304	
1946	核戦争とボラリス潜水艦 政策シリーズ 75 集	日本共産党中央委員会宣伝教育文化部	6304	△
1876	原子力潜水艦の安全性に関する検討(草稿)	日本学術会議原子力特別委員会	6306	
1947	新戦略と原子力潜水艦 平和シリーズNo.1	東京平和委員会教宣部	6306	
1948	原子力潜水艦のすべて -ほんとうの平和のために-	自由民主党広報委員会	6306	
1944	米国原子力潜水艦寄港問題関連資料		6306	
1738	原潜反対を一大国民運動にもりあげよう	原研労働組合	6307	
1736	日本原子力研究所組織および配置図	原研	6308	
1877	原子力潜水艦の安全性に関する検討	日本学術会議	6308	
1878+	原子力潜水艦の安全性に関する検討 + 米公表資料あり	日本学術会議	6308	
1892	科学技術庁原子力局放射能課長との会見で明らかになったこと: 横須賀放射能調査	東京大学理学部職員・大学院有志	-	

1620	声明:横須賀・佐世保両港での事前放射能調査に反対する	東京大学理学部職員・大学院生有志	6309	
1739	炉物理談話会誌 No.4	原研	6309	
1364	外国における原子力発電の助成策 原子力産業部会資料	電源開発原子力課	6309	
1664	原子力国内事情 vol. 8 No. 9	原産	6309	
1666	答申「再編成後の電力産業」抜粋	電気事業審議会	6310	
1665				
1879	機関紙[増殖炉] No.1	増殖炉刊行会	6310	
1740	新聞切り抜き:日本原子力研究所試験用原子炉(JPDR)停止問題		6311	
1895	ちらし:国民の皆さんに訴えます「安全」をおよびやすく者はだれか	原研労働組合	6311	
1206	平均質高温ガス冷却炉の核的設計 JAERI-1049	原研 安川茂他	6312	
1361	動力試験炉問題をめぐるわたくしたちの主張	原研労働組合	6312	
1742	原研の問題点—研究主任会例会における討論のメモより—研主 No.21	原研研究主任会	6402	
1744	動力試験炉問題をめぐるわたくしたちの主張(資料編)	原研労働組合	6402	
1949	署名拡大のお願い	素粒子論グループKJR	6402	
1743	原研の問題点と改善の方向 研主No.23	原研研究主任会	6403	
1207	平均質炉開発を試みて—科学と開発— JAERI-memo 1486	原研原子力工学機械設置研究室・黒柳利之	6402	
268	原子力研究をめぐる諸問題—日本原子力研究所の改革について	原子力委員会	6403	
1667	現況と展望	電源開発	64-	
1745	原研 No.24	原研	6403	
1746	原研調査項目	原研	6403	
1365	原子力地下発電所について	電源開発電気部原子力課	6404	
1950				
1366	原子力発電資料集	電事連	6405	
968	敦賀地点の概要 資料 1	原電	6406	
247	原子炉立地審指針		-	
1208	平均質系開発試験プロジェクト最終報告 JAERI-memo 1627	原研平均質炉プロジェクトリーダー	6407	
電源開発(日本原子力発電へ出向, 1964~)				
969	軽水型原子力発電所の概観	原電	6407	
1881	将来計画に関する中間報告(Ⅱ)	日本学術会議	6408	
1880	第10回原水爆禁止世界大会に参加した科学者の声明		6408	
1741	原子力研究にのびる黒い手	原研労働組合	6408	
1951	合衆国原子力潜水艦寄港問題関係文書	原子力局	6408	
1747	原研 No.27	原研	6409	
1368	新聞切り抜き:第3回原子力平和利用国際会議関連資料		64-	
1088	特殊核物質の民有化法について	原電社長室	6409	
1726	日本原子力研究所 年報 1963年度	原研	6410	
1882	原子力特別委員会研究部会報告	日本学術会議	6410	-
1952	解説 政府の窓	総理府・編集	6410	
261	新聞切抜:諸経験を集約整理(書評)		64-	○
1953	週刊時事 第6巻46号 週刊 第262号 原潜関連記事	時事通信社	6411	
1955	メーデー事件最終陳述書	中川和雄	6411	
218	記録帳	立花昭	65-	○
16	Geneve1 図説「原子炉」(Ⅰ)—ジュネーブ会議と欧州の原子力事情— 調査資料 11 別刷(電源開発)	立花昭	6501	○
17	Geneve2 図説「原子炉」(Ⅱ完)—ジュネーブ会議と欧州の原子力事情— 調査資料 12 別刷(電源開発)	立花昭	6501	○
1089	動力炉開発に関する資料	原子力委員会等	6501	
18	高速炉設計上の問題点について—第3回ジュネーブ会議論文より	立花昭	6501	○
1459	日本原子力研究所(東海村)周辺における環境放射能の測定と考察(1956~1963)	原研	6501	
1390	動力炉開発の基本的態度について	向坊隆	6501	

1391	動力炉開発の進め方について(試案) 第4回動力炉開発懇談会資料 5	原子力局	6501	
1090	核燃料政策資料	原電社長室	6502	
1954	「三矢作戦」計画	原水爆禁止日本協議会	6503	
19	ヨーロッパ・アメリカ炉物理委員会(EACRP)について 日本原子力学会誌 7(3)158	弘田実弥, 立花昭	6503	○
1369	原子力政策に提言	産業開発会議	6506	
1749	原子力施設における事故の文献集	原研	6508	
1458	核爆発実験により生じた放射性降下物の定量	原研	6508	
11	調査資料 No.33	電源開発	6508	
14	平均質炉の開発研究について	立花昭	6508	○
15	調査資料 No.33			
1748	各国原子力施設における個人外部被曝量の測定および管理法の比較	原研	6509	
1750	Program ELIEESE-1 FORTRAN II Program for Analyses of Elastic and Inelastic scattering Cross Sections	原研	6511	
894	総合報告 高速増殖炉開発の今後の課題 原稿 学会総合講演 3「高速炉」1965	立花昭	-	○
219	記録帳	立花昭	66	○
1751	炉物理談話会誌 No.7	原研	6601	
970	敦賀発電所炉心出力分布計算計画案	原電技術部燃料課・久家	6601	
1956	量子電気力学の発展—個人的回想— 物理教育学会誌 14(2)	朝永振一郎	6602	
269	欧米における動力炉開発—動力炉開発調査団報告	原子力委員会動力炉開発調査団	6603	
1752	高速中性子断面積研究会報告	原研	6603	
20	動力炉開発の再出発に際して 原子力工業 12(3)1 別刷	立花昭	6603	○
1753	原研 No.10 vol. 4	原研総務部	6606	
21	高速増殖炉開発計画案に対する意見	原電・立花昭	6607	○
256	高速増殖炉—Outline をのべる 下書き・構成案	原電開発計画室・技術部燃料課	-	
270	原子力発電に関する第2次提言—新型転換炉と高速増殖炉の開発	全国労働組合連合会	6609	
1754	1次元炉心特性計算コード KIWAKI による JPDR 炉心核熱水力特性の解析	原研	6610	
1755	高速炉用一次元拡散コード EXPANDA の改良(EXPANDA-2 コード)	原研	6611	
1756	The KAK Program for the Numerical Solution of Few-Group Neutron Diffusions in Two Dimensions	原研	6611	
1083	CDC PDQ (拡散理論・燃焼度計算コード) 使用説明書 下書き	原電	-	○
271	高速炉安全性に関する検討資料	FBR 安全専門委員会	6612	
272	第1回高速炉燃料被覆管研究会 JAERI-memo 2897	原研	6612	
220	記録帳	立花昭	67	○
1757+	核定数精度の限界・燃料計算への影響 +KINAK コード	原研	6701	
971	敦賀発電所の炉心性能に関する準備作業	原電技術部燃料課	6701	
972	議事録:敦賀発電所中性子源の箇条	原電	6702	
973	敦賀発電所炉心及び燃料特性解析作業計画案	原電	6702	-
253	燃料関連 検討事項 + メモ 16A3-3		?	
254	燃料関連 検討事項(その2) + メモ 16A4-1		?	
1081	Ⅷ燃料の破損, Ⅸ事故条件における燃料の挙動, X結び	原電	-	
1958	日米・日英原子力協定締結に反対する松本善明同志の国会質問原稿	共産党中央委員会	6702	
1668	原子力国内事情 vol. 12 No.2	原産	6703	
原電開発計画室主査(1967~1974)				
22	欧州出張報告	開発計画室兼技術部燃料課・立花昭	6705	○
24				
23	ブルトニウムシンポジウム報告	立花昭	67-	○
1669	原子力発電所建設認可のための一般会計基準	米国原子力委員会	6707	
1670	リーフレット 次代のエネルギーを担う動力炉と核燃料の開発	動燃	6710	
974	十年のあゆみ	原電	6711	

975	東海原子力発電所 FAPIG別冊 東海発電所完成記念号	FAPIG編集委員会	6711	
273	Le Demarrage de Rapsodie		6712	
1957	開発計画室概要	原電	67-	
1091	使用済燃料の輸送	東海発電所	67-	
1724	日本のエネルギーと原子力発電問題についてー経済的側面からの討議資料要綱ーについて 自然科学対策諮問委討論資料		?	
1725	日本のエネルギー問題(石炭・石油・水力)と原子エネルギー利用についてのメモについて 自然科学対策諮問委討論資料		?	
1624	原子力発電の安全性とその対策について 自然科学対策諮問委討論資料		?	
221	記録帳	立花昭	68	○
1370	米 AEC の濃縮施設とその運転	原産	6803	
274	大出力高速中性子動力炉の建設上の諸問題	A.I. Leipunskil 動燃訳	6804	
976	敦賀発電所設備概要	原電	6804	
1758	原子炉の破壊エネルギーの考察	原研安全工学研究室	6804	
1209	高温ガス炉(Ⅱ)(High Temperature Gas-cooled Reactor) 開資 56	原電開発計画室	6805	
1371	原子力グラフ No.13	日本原子力平和利用基金	6806	
1959	BN-600 高速炉原子力発電所 (1968 年世界動力会議資料)	電中研, 日本フェルミ炉委員会事務局	6809	
1372	ソ連における高速増殖炉発電所の建設(1953年度世界動力会議資料)	電中研, 日本フェルミ炉委員会事務局	6809	
977	敦賀発電所原子炉設置変更許可申請書	原電	6810	
1373	原子力グラフ No.14	日本原子力平和利用基金	6811	
1374	原子力発電所一覧表	原産原子力発電課	6812	
978	BWR の on-line の計算機について	原電	6812	
222	記録帳	立花昭	69	○
1375	新型転換炉の開発 VISION 委員会報告(1)	原電労働組合	69-	
983	「炉心・燃料分科会」関連資料ファイル	東芝	6901	
897	炉心安全性向上に関する研究(その1ー炉心安全特性の検討Ⅱ)		-	
1628	Fast Reactor Safety	Dr..H. D.Smots	-	
275	大型高速炉設計上の諸問題 原電開発計画室 開資 70 高速-13	アー・イ・レイブンスキー他	6901	
1460	原子力発電所の放射能関係 質疑応答集	電事連原子力部	6901	
1210	ガス冷却炉に関する経験 開資 71	原電開発計画室	6902	
1376	原子力グラフ No 15	日本原子力平和利用基金	6902	
1759	原研グラフ No 3	原研	6906	
1377	原子力グラフ No. 16	日本原子力平和利用基金	6904	
1378	原子力グラフ No. 17	日本原子力平和利用基金	6907	
1960	Reply to Questions on Tsuruga Shutdown Margin Test	R. O. Brugge	6908	
1461	放連会議(機関紙)	放射線問題連絡会議	6908	
1760	原子力自主開発のために 2	原研労働組合シンポジウム事務局	6908	
276	メモ: 動燃事業団 ATR 原型炉開発上の諸問題について		6909	
277	新型転換炉に関する検討資料並びに当労組のとるべき態度	原電労組 vision 委員会	6909	
979				
980	原子力発電年表(1942~1969 年) 他	技術事業発電課	6910	
1379	未来と原子力 原子力グラフ特集号	日本原子力文化振興財団	6910	
1462	放連会議(機関紙)	放射線問題連絡会議	6910	
1380	原子炉 3	原研労組	6911	
981	日本原子力発電敦賀発電所の電力受給に関する基本協定書	原電, 中部電, 北陸電, 関電	6911	
982	敦賀発電所 電気工作物資変更許可の条件に基づく発電所の出力に関する増出力検査成績書	原電	6912	
1277	炭化ウラン・炭化ケイ素分散型燃料について(第2級)ー分散用被覆粒子の試作研究ー No.49 (1968) 資料-4	西川和夫、真鍋元祿	-	
1211	高温ガス炉燃料について FAPIG 55 号 176-183 頁	山本達郎, 兵頭大彦	6912	
1997	日本共産党の文化政策(第 5 回党大会決定) 蔵原惟人評論集第 6 巻からコピー	日本共産党中央委	-	
223	記録帳	立花昭	70-	○
1961	BN-600 高速炉について	原電開発計画室	7002	

1962	敦賀発電所の現況について		7003	
985	覚書 電力需給	原電, 中部電, 北陸電, 関電	7003	
986	日本原子力発電敦賀発電所の電力受給に関する確認書	原電, 中部電, 北陸電, 関電	7003	
987	覚書 敦賀発電所建設	原電, 中部電, 北陸電, 関電, 東電	7003	
988	確認書 電力各社の協力関係	原電, 中部電, 北陸電, 関電	7003	
25	フランス原子力庁カダラッシュ研究所(3月4日)及びフェニックス原型炉建設現場(3月5日)視察報告	原電開発計画室立花昭	70-	○
1212	高温ガス炉の調査研究活動について	原電開発計画室	7006	
1213	高温ガス炉建設準備のための人員計画	原電開発計画室	7006	
1214	I 高温ガス炉を導入・建設する場合の着工前の準備計画(粗案)	原電開発計画室	7006	
1215	高温ガス炉調査への協力依頼について	原電開発計画室	7006	
279	高速増殖型原子力発電所の建設・運転に対する準備計画について	原電開発計画室	7006	
1963	Submarine cooling water intake at Tokai Nuclear Power Station	T. Yoshida (Managing director)	7007	
280	大洗工学センター 一研究開発施設の概要一	動燃	7007	
1216	高温ガス炉諸元比較表 開資 97	原電開発計画室	7007	
26	高速炉について	原電開発計画室	7007	○
1217	発電用高温ガス炉開発準備計画書(第一次案)	原電開発計画室	7007	
984	「敦賀運転」ファイル	立花昭編	70-	○
989	敦賀発電所起動試験報告書 (1969/9 末~1970/3 中旬)	原電敦賀発電所安全管理課	7009	
1218	高温ガス炉用燃料の試作研究 FAPIG 59 号 188-193 頁	真鍋元禄	7011	
281	高速炉パネル討論会・討論集	原子力学会高速増殖炉技術の現状高速増殖炉研究専門委員会,	7011	
278	動力炉開発の概要	動燃	70-	
990	覚書 敦賀発電所	原電・中部電・北陸電・関電・東電	7011	
1463	原子力施設の事故・災害・異常調査 JAERI-memo 4240	原研原子炉工学部安全工学研究部・保健物理安全管理部	7012	
1092	新型転換炉「ふげん」の開発	動燃	7012	
992	敦賀発電所 電気工作物変更許可の条件に基づく発電所の出力に関する増出力検査成績書	原電	7012	
1432	「原子力発電所」電力技術デスクブック第7編(電気書院)	原電開発計画室立花昭, 他10名	70-	○
224	記録帳	立花昭	71-	○
282	日本の高速炉開発に対する当社の準備体制について	原電開発計画室	71-	○
1219	高温ガス炉海外調査班調査報告書 第一部総論 開資 108	原電開発計画室	7104	
1220	高温ガス炉海外調査班調査報告書 第二部各論(その1)燃料, 炉心特性, 安全性 開資 109	原電開発計画室	7104	
1221	高温ガス炉海外調査班調査報告書(補充資料) 開資 109	原電開発計画室	7105	
1296	7.2 大破断事故時, HTGR 黒鉛酸化に関しての discussion - NRC 判断の基となったレポートの紹介と WG-2 で平行して行った解析の結果 -	原電: 林 富士: 早川	-	-
27	ウラン濃縮めぐる思惑	今井隆吉	7105	
1222	フォート・セント・ブレインへの人員派遣計画と高温ガス炉要員について	原電開発計画室	7106	
1223+	高温ガス炉プロジェクト・チーム業務計画	原電開発計画室A.T	7106	○
28	動燃事業団 動力炉開発中期計画 高速増殖炉部門について	原電開発計画室	7107	
283	第4回ジュネーブ会議論文抄録集(FBR 関係) N241 71-41 付 1. エクサンプロバンス会議論文抄録 2. 追補	動燃高速増殖炉開発本部	7110	
284	高速増殖炉の核燃料サイクルコストとその評価	科学技術庁原子力部	7110	
1224	高温ガス炉の概説 開資 120	原電開発計画室 A.T	7110	○
1225	発電用高温ガス炉開発準備計画書 S45/9/29 常務了承 S46/10/1 改訂	原電開発計画室	7110	
29	発電用高速増殖炉開発準備計画について	原電開発計画室	7111	
285	発電用高速増殖炉開発準備計画について	原電開発計画室	7111	
991	原子力発電に関する見解	電事連	7112	
1226	GAA 社 高温ガス炉の現状(出張報告)	原電開発計画室・武田充司	7112	

30	第4回原子力平和利用国際会議の概要	立花昭	7112	○
1298	高温ガス炉と軽水炉の仮想事故の評価方法の差異について	原電	-	
1299	写真		-	
1300	ファイル:計画・予算・その他	立花昭	-	○
1301	ガス循環機		-	
225	記録帳	立花昭	72-	○
999	BWRにおけるプルトニウム使用計画 Phase II に関する半年報 CRIEPI FPM20135 NEDC10796		7201	
1149	Nuclear Safeguards	Ryukichi Imai	7203	
993	日本原子力発電敦賀発電所の受給契約締結に関する議事録 (S47・48年度の需給契約)	原電・中部電力・北陸電力・関電	7203	△
994	1969年型BWRの非常用炉心冷却系 84—85部会資料AT-1	東電原子力部	7203	
995	日本原子力発電敦賀発電所の電力受給に関する申合書	原電・中部電力・北陸電力・関電	7203	
996	日本原子力発電敦賀発電所の電力料金決定に関する確認書	原電・中部電力・北陸電力・関電	7203	
997	敦賀発電所動特性解析報告書	原電技術部燃料課	7204	
287	最近のアメリカおよび西独における高速増殖原型炉建設をめぐる 諸情勢について 開資 129	原電開発計画室	7204	
1464	液体ナトリウム腐食における問題点	古川和男・日本材料科学会	7204	
1001	⑤ノッチシャルピー試験データから NDT 温度の推定の妥当性、お よび RPV 母材の寿命末期の NDT 温度 32 度以下の妥当性につ いて 84—85 部会資料 AT-21	東電, 原電	7205	
1150	The Near - Nuclear Countries and the NPT	Stockholm International Peace Research Institute	7206	
998	敦賀原発所のドライウェル内酸素濃度測定結果 参考資料 38 (84-85 部会資料 AB ア-6)	原電	7206	
1465	Experimental Program Results in Sefor Core II	L. D. Noble, G. Kussmaul, S. L. Derby	7206	
1671	教宣シリーズ No. 9	原子力発電問題電労連教宣対 策委員会	7207	
31	「nucleonics week」の一部		7207	
1002	日本社会党による「最近の政府の原子力および福井県調査団に おける問題点」に対する当社の見解	原電	7208	
288	ドイツとベネルクス3国との共同開発による高速増殖原型炉 SNR-300	原電開発計画室	7208	
1003	課内会議資料 1972/6/19 及び 8/16	原電	7208	
1004	東海第2発電所安全審査 84部打ち合わせ等		7209	
1227	高温ガス炉燃料サイクル計算コード JAPC-PWCOST 説明書 開資 139	原電開発計画室	7210	
1297	CORCON (計算コード: A Program for Analysis of HTGR Core Heat-up Transients) GA-AL2868(GA-LTR-13)		-	
1228	高温ガス炉に関する武田主査のAEC出張報告	原電開発計画室	7210	
1000	原子力及び化石発電所の想定資本費	原電	7212	
1093	再処理施設建設計画の概要	動燃	72-	
1145	再処理施設の建設計画	動燃	-	
1146	再処理施設建設の概要	動燃	-	-
943	高速増殖原型炉計画の概要	動燃	-	
286	高速増殖炉の廃棄物・燃料の再処理		72-	
1147	東海事業所概況	動燃	-	
1466	危険物運送間の事故(1959年12月~1972年7月)		72-	
226	記録帳	立花昭	73-	○
291	大洗工学センター —研究開発施設の概要—	動燃	7301	
1148	大洗工学センター	動燃	-	
1006	東海第2発電所工事費推移		7301	
1381	原子力産業の現状とその将来への展望	原電開発計画室	7302	
32	日本の高速増殖炉実用化に対する考え方	原電開発計画室	7302	
26	高速炉開発の現状	立花昭	7303	○
1005	軽水炉燃料—燃料ペレットと被覆管の技術的相互作用について 技燃 73-2	原電技術部燃料課	7303	
292	液体ナトリウムバルブ開発とその技術的問題点	原研・古川和男	7303	
293	溶融塩燃料増殖炉と溶解塩技術 「溶融塩」第2巻2号 別刷	原研・古川和男, 大道敏彦	7303	

294	熱融解性ガスの熱力学効果の評価について(訳)	訳: 広田	7304	
295	解離性ガスの対流伝熱の実験的研究 (訳)	訳: 広田	7304	
1672	原子力製鉄と今後の課題 「鉄鋼界」第 23 巻 2 号, 3 号別刷	新日本製鉄技術開発部・余田陽一	7304	
296	ソヴィエト原子力開発の現状 開資-154	原電開発計画室	7305	
1382	ソヴィエト原子力開発の現状 (附ソ連の電力事情) 開資-154	原電開発計画室	7305	
1467	米ソの戦略核戦力と戦略兵器削減交渉(SALT)	外務省国際連合局軍縮室	7305	
1673	電気が消える!! 真剣に考え直そう!	日本時報出版社	7306	
1229	「高温ガス炉コンポーネント会議」論文集より 開資 158	原電開発計画室	7307	
1468	菊池博士の講演について 広報シリーズ No.2	原電社長室	7307	
1469	原子力と安全性	政策科学研究所	7308	
297	米国の高速増殖炉実証プラントに関する環境報告書 開資-159	原電開発計画室	7308	
1188	世界の核と日本	政策科学研究所	7308	
1230	300MWe THTR 原型炉の安全報告書 第 1 巻技術報告書(4.2.2 燃料要素の全訳) 開資 163	原電開発計画室	7308	
1231	多目的高温ガス炉研究開発の現状	原研	7308	
1094	主要国原子力発電所の運転実績	原電開発計画室	7309	
1095				
300	高速増殖炉(LMFBR)の開発と環境	政策科学研究所	7309	
1232	多目的利用高温ガス炉の研究開発推進に関する要望書	原産	7309	
1233	発電所と冷却塔 開資 165	原電開発計画室	7309	
298	高速原型炉「もんじゅ」設計・建設および各種研究開発 FR-73		7309	
1235	高温ガス炉 要約と評価 開資 168	原電	7310	
1242	高温ガス炉 要約と評価 開資 174	原電	7310	
1234	300MWe THTR 原型炉の安全報告書(4.2.8 プレストレスト・コンクリート圧力容器)第 1 巻技術報告書 開資 167	原電開発計画室	7310	
33	ウラン 235 金属の濃縮度に伴う臨界質量の変化などの表		7310	
1236	300MWe THTR 原型炉の安全報告書 開資 169	原電開発計画室	7311	
301	海外出張報告 IAEA Panel on "Principles of Hot channel factor calculation" at Karlsruhe, Germany およびフランスのキャダラシュ研究所およびフェニックスセンター訪問 PNC SN260 74-01	動燃	7311	
302	Licensing Topical Report General Electric BWR Thermal Analysis Basis (GETAB): DATA, Correlation and Design Application. NEDO-10958 73NEDO 9 CLASSI	General Electric	7311	
1383	フランスにおける原子力活動(講演要旨)	ローラン・ジーマス	7312	
299	高速原型炉二次系における圧力波伝播	菱田	7312	
303	Production of FP Group Constant for Fast Reactors with Cook's Evaluated Data MONJU INTERNAL MEMO-10	Y. Kikuchi 他 4 人	7312	
252	図: 燃料集合体, 炉心構造物など 動力炉技報 No.3 (1972/02), No.9 (1973/12)		-	
289	ナトリウム冷却高速増殖炉(各国の開発状況, 炉心設計, 安全性)	原子力学会「高速増殖炉」研究専門委員会	73-	
290	単体液体および単純イオン性液体 一無液体構造科学序説-「物理科学」vol.19 No.5	原研・古川和男, 大野英雄	73-	
1621	リーフレット: 使用済燃料の安全輸送	原電事業(株)社長大神	73-	-
227	記録帳	立花昭	74-	○
1097	GE 使用済み燃料輸送容器 IF300 およびミッドウェスト再処理工場に関する調査報告書	東電原子部原子力発電課長, 核燃料部核燃料計画副長, 原電技術部燃料課副長	7401	
1674	エネルギー政策中間報告へのコメント	立花昭	7401	○
1675	石油危機について その主なデータ 広報シリーズ No.3	原電社長室	7402	
34	高速増殖炉開発の財政問題	原電開発計画室	7402	
1007	原電だより No.3 若草号	木下文夫編	7403	
1238	高温ガス炉の耐震設計	電源開発原子力部	7404	
1239	高温ガス炉の PCRV	電源開発原子力部	7404	
1240	高温ガス炉-要約と評価-	電源開発	7404	
1241	メモ: 高温ガス炉調査団欧州グループ報告		7404	
35	高温ガス炉・高速炉に関するヨーロッパ及びアメリカの現状	原電開発計画室・立花昭	7404	○
1964	最近の新聞報道に係わる問題について 広報シリーズ No.4 敦賀発電所問題	原電社長室	7404	

1965	原子炉を使ったプロセス加熱について(訳)	富士電機	7404	
1676	エネルギー技術開発の展望と課題(案)		7405	
305	連載 原子力エネルギーと産業社会26 高温ガス炉の取り扱い	科学評論家 今井隆吉	7405	
304	もんじゅ調整設計(Ⅰ)中間報告概要(プラント専門委員会用資料) Monju Internal Memo-10	動燃	7405	
1243	高温ガス炉のPCRV(参考資料:国内における関連研究)	電源開発原子力部	7405	
1244	デルマルバ電力サミット発電所環境報告書妙訳 開資 175	原電開発計画室	7405	
原電開発計画室次長 (1974~1980)				
37	エネルギー危機と原子力問題		7406	
1677	原子力技術開発と現状と今後の方向	資源エネルギー庁	7406	
1245	高温ガス型原子力発電所開発検討会中間報告(案)ーその5ー 第6章 わが国への導入に際しての問題点		7406	
1246	発電用高温ガス炉開発準備計画書 S45/9/29 常務会	原電開発計画室	7407	
1247	了承。S49/7/1 改訂3版			
1248	「高温ガス型原子力発電所開発検討会」中間報告要約	資源エネルギー庁公益事業部原子力 発電課	7407	
1008	原電だより No.5 緑陰号	木下文夫編	7407	
1678	エネルギー関連 中間とりまとめ(案) 他	総合エネ調部会総合部会	7407	
1679	総合エネルギー調査会原子力部会 中間報告	総合エネ調原子力部会	7407	
1966	米国の原子力闘争の現況 広報シリーズNo.5	原電社長室	7407	
1470	ちらし: 第3回全国原発問題シンポジウム (8.30~9.1)	日本科学者会議, 原研労働組合	74-	
1189	核時代30年目に迎える激動 1974 年度版	政策科学研究所	7408	
1386	原子力エネルギーの有効利用に関する中間報告	原産原子炉多目的利用懇談会	7408	
1680	電源法の成立について 広報シリーズ No.6	原電社長室	7408	
1249	多目的高温ガス炉研究開発の現状	原研	7409	
1009	東海発電所/東海第2発電所 1975/10 版も	原電	7409	
306	IAEA, FBR Na 加熱蒸気発生器研究グループ提出論文,	P. R. Bott 立花昭訳	7409	○
1098	原子力発電の運転実績と信頼性の問題	原電開発計画室	7409	
1385	これからの原子力発電と原電の役割について 広報シリーズ No.7	原電社長室	7409	
1721	エネルギー問題と太陽発電	電総研・堀米孝	7410	△
1010	原電立地難の現状		7411	
1967	ナトリウム加熱蒸気発生器の不安定現象ーその実例と問題点	二見常夫, 土屋敏雄, 佐野彰	7411	
1387	原子力開発利用実行計画委員会報告書	原産	7412	
1471+	カナダ重水炉における放射性廃棄物と使用済み燃料の冷却施設 について +CANDU について	原電開発計画室	7412	
38	将来のエネルギー技術開発課題について	立花昭	7412	○
39	原子炉型とその展望	開発計画室・立花昭	7412	○
36	1次エネルギーの供給について	立花昭	74-	○
940	もんじゅの設計と安全性 部内資料 49-3	動燃高速増殖炉開発本部	-	
938	もんじゅの安全設計 部内資料 49-4	動燃高速増殖炉開発本部	-	
937	もんじゅ発電所 床応答曲線資料		-	
910	配管健全性について もんじゅの一次配管 かり版		-	-
1096	パンフレット: 新型転換炉「ふげん」の開発	動燃	74-	
1237	高温ガス炉と放射性廃棄物		74-	
1384	工業コンビナートにおける原子力エネルギーの利用状況調査団	アイ・アイ・ビー (JAPAN)	74-	
1388	電気事業年報 1975 年度	原電	74-	
228	記録帳	立花昭	75-	○
307	高速増殖炉大型炉心核設計上の問題点(原案) 第84専門委 資料 PR-84-3	大型炉, サブグループ	7503	△
331	高速増殖炉蒸気発生器の安全性信頼向上に関する調査研究(受託研究)	日本機械学会ナトリウム加熱蒸 気器調査研究分科会	7503	
1681	エネルギー有効利用のための技術的可能性に関する研究	政策科学研究所	7503	
1682	将来のエネルギーシステムにおける技術開発の位置づけに関する研究	政策科学研究所	7503	
1472	放射線被曝低減対策の現状について 広報シリーズ No.8	原電社長室	7503	
1251	高温ガス炉による公衆の被ばく線量	原電開発計画室	7503	
1252	高温ガス炉による公衆の被ばく線量	原電開発計画室 伊藤文雄	7503	

308	高速増殖炉・大型炉心核設計上の問題点	動燃	7505	
1195	NPT 体制の再評価	外務省国際連合局軍縮室	7506	
1250	高温ガス炉関連資料 フォートセントブレイン発電所関連資料 資料 1~4 (3 は除く)	原電開発計画室	7506	
1392	米国出張報告・議事録	建設部次長板倉哲郎ほか	7507	
40	欧州の原子力情勢について (海外出張報告)	原電開発計画室・立花昭	7507	○
1683	エネルギー技術開発の長期目標 要約 エネルギー技術部会		7507	
309	新型動力炉開発専門部会の設置について	原子力委員会	7507	
1303	原子炉の解体 (エルクリバー炉の解体作業報告より)	原子力安全研究協会	7508	
1253	高温ガス炉の経済性 (1) 開資 194	原電開発計画室	7508	
1393	各時代の安全保障—世界の核と日本 1975 年度版—	政策科学研究所	7508	
1968	ヘリウム利用について	原電開発計画室・高之	7508	
1254	発電用高温ガス炉開発準備計画書 S45/9/25 常務会了承 50/9/1 改訂 4 版	原電開発計画室	7509	
1012	会社の概要 75	原電社長室	7510	
1255	高温ガス炉 技術評価概要報告書	電源開発	7510	
310	海外高速増殖炉及び大型炉の概要 資料 3-6 FBCR-11	動燃高速増殖炉開発本部	7510	
1684	電力新時代と「原電」の対応 広報シリーズ No.9	原電社長室	7510	
908	ガス冷却高速増殖炉 (GCFR) について GA 資料?		-	
1969	ヒロシマ・アピールを全世界へ	核兵器全面禁止国連要請国民 代表団派遣中央実行委員会	7511	
311	日本における大型高速増殖炉の設計概要 資料 3-7 FBCR-20	動燃高速増殖炉開発事業本部	7511	
1256	多目的高温ガス炉研究開発の現状	原研	7511	
312	原子力委員会新型動力炉開発専門部会構成員	科学技術庁原子力局	7511	
313	システム設計について	原電・立花昭	7511	○
1257	Long Term Energy Strategies 第 4 回多目的高温ガス炉研究成果 報告会	M. A. Grenon	7511	
315	新型動力炉開発専門部会高速増殖炉分科会 設計ワーキンググル ープ報告書 資料 4-3 FBCR-25	設計ワーキンググループ主査・ 安成弘	7512	
314	Draft Environmental Impact Statement	USDOE	7512	
1258	高温ガス炉技術評価 (要旨)	電源開発原子力部	7512	
1259	1160Mwe HTGR フルトン発電所 PASR 要約 第 11 章放射性廃棄 物の管理 開資 190	原電開発計画室	7512	
1260	HTGR の「予期される過渡期のスクラム不動作」に関する予備解 析 (GA-A13234) (要約) 開資 199	原電開発計画室	7512	
41	原子力発電所の炉型式とその展望	原電開発計画室・立花昭	7512	○
1099	パンフレット: 再処理施設の概況—核燃料の有効利用と安全処理 の為に—	動燃	75-	
1101	再処理施設と環境	動燃	75-	
1100	パンフレット: 50MW 蒸気発生器試験施設	動燃	75-	
1102	ナトリウム加熱蒸気発生器の研究開発	動燃	75-	
1011	高速実験炉「常陽」	動燃	75-	
1389	原子力の多目的利用		75-	
229	記録帳	立花昭	76-	○
316	高速増殖炉自主開発の必要性 資料 5-4 FBCR-29	動燃	7601	
43	MO2 燃料集合体設計の概要	原電	7601	
317	新型動力炉開発専門部会高速増殖炉分科会 商用 FBR パラメ ター検討グループ報告書	新型動力炉開発専門部会高速 増殖炉分科会商用 FBR パラメ ター検討グループ主査・弘田実 弥	7602	
1473	最近の米国における原子力反対運動—特にカリフォルニア州の 住民立法の動きについて—	原電開発計画室	7602	
1394	米国上下院合同原子力委員会における証言 D. G ブランデバ ーらの証言の抄訳		7602	
1395	Statements before The Joint Committee on Atomic Energy		7603	
1970	中東の政治情勢と日本の選択	アジア太平洋研究会	7603	
1396	最近の原子力論争について	原電開発計画室	7603	
1397	NRC・GE退職者の主張とその動き (中間報告)	原電開発計画室	7603	
1398	原子力安全性に関する総合調査研究—序論と要約—	政策科学研究所	7603	
318	新型動力炉開発専門部会高速増殖炉分科会 中間報告書	新型動力炉開発専門部会高速	7603	

		増殖炉分科会		
1475	原子力安全性に関する総合調査研究	政策科学研究所	7603	
1476	原子力安全性に関する総合調査研究 世論調査	政策科学研究所	7603	
1477	原子力安全性に関する総合調査研究－暮らしと電力に関する世論調査－	政策科学研究所	7603	
1501	原子力安全性に関する総合調査研究－技術上の主要課題－	政策科学研究所	7603	
1478	原子力安全性に関する総合調査研究－本論－	政策科学研究所	7603	
44	保安給点検に関する通産5項目について	高速炉開発室・立花昭	7604	○
319	新型動力炉開発専門部会総括ワーキンググループ中間報告		7604	
1479	ヨーク宣言と原水爆禁止運動の新たな局面	「軍縮競争の終結と軍縮のための国際フォーラム」日本代表団	7604	
1480	最近の米国における原子力反対運動について	原電	7604	
1433	現代法学全集 IV 原子力 (下山俊次)	筑摩書房	7604	
1399	カリフォルニア・イニシアチブ「Propotion 15-Nuclear Safegurds Act」(仮訳)	原電開発計画室	7605	
45	動燃 Na 加熱蒸気発生器における不安定流動現象 第 13 回日本伝熱シンポジウム講演論文集	久保田淳, 他(動燃・川重・東電)	7605	
46	動燃 高速実験炉「常陽」について	原電開発計画室	7605	
1400	原子力発電所一覧表	原産	7606	
47	研究報告会 原子力システムの分析と評価 第Ⅱ部「各国の原子力システムの現状と国際協力」	総合研究開発機構	7606	
1481	原子力における廣食と応力廣食割れ 開資 216	原電開発計画室	7606	
320	行政懇意意見書における公開ヒアリングと環境審査について		7607	
1971	住民運動・住民参加に関する研究	総合研究開発機構, 日本総合研究所	7607	
1401	原子力行政体制の改革, 強化に関する意見(案)	原子力行政懇談会	7607	
1402	住民運動・住民参加に関する研究	日本総合研究所	7607	
1687	原子力の安全性論争の内容分析(その一)	電中研経済研究所, 根本和泰	7607	
321	高速炉の安全性について	動燃高速炉開発本部	7608	
322	高速増殖炉開発の進展 開資-218	原電開発計画室	7608	
323	新型動力炉開発専門部会報告書－新型炉開発の進め方について	新型動力炉開発専門部会	7608	
324	原子力委員会, 新型動力炉開発専門部会について	原電開発計画室	7608	
1688	石炭・原子力を含めた新エネルギー供給可能性の分析とその技術的・経済的評価に関する研究 最終報告書 本論	総合研究開発機構, 工業開発研究所	7608	
1689	原子力発電における料金原価上の諸問題について	原電	7609	
49	重水炉に関する総合評価について(資料)	原電開発計画室・立花昭	7609	○
1151	核拡散の時代に対処して－核政策の専門家養成を急げ－世界の核と日本 1976 年度版	政策科学研究所	7609	
48	Pu サーマル利用 AIR 等に関する報告メモ	立花昭	7609	○
51	原子力の安全性を考える 雑誌「エネルギー」第 9 巻 10 号	立花昭	7610	○
50	雑誌: エネルギー 第 9 巻 10 号 上の掲載誌	日本工業新聞社	7610	○
1103	ウラン資源確保問題の視点	日本エネルギー経済研究所	7610	
1104	核燃料サイクルにおける現状評価と将来の展望	原電技術部	7610	
1761	動燃 第 9 回報告と講演の会予稿集	動燃	7610	
1403	NRC退職者 R. Fluegge の主張		7610	
1404	NRC職員 R. Fluegge の退職について	USNRC	7610	
1405	速報(米原子力情報, 英文)		7610	
1762	動燃 年報 1975 年度	動燃	7610	
1304	原子力施設の「廃止」について 開資 224	原電開発計画室	7610	
1261	多目的高温ガス炉研究開発の現状	原研	7610	
325	軽水炉(主として BWR)におけるPu利用上の問題	立花昭	7611	○
52	軽水炉(主として BWR)におけるPu利用上の問題	立花昭	7611	○
1014	東海敦賀発電所 1977 年度料金原価の第一次提案について	原電開発計画室	7611	
1262	1160Mwe HTGR フルトン発電所 PASR 要約 Appendix G 最大仮想 FP 放出事故 開資 206	原電開発計画室	7612	
1685	電力料金改訂について 「動力」138 号Ⅲ抜粋	武田雅美	76-	
1686	わが国におけるエネルギー消費と気象に関する調査報告の概要について 「動力」138 号Ⅲ抜粋	吉本秀幸他	76-	
1013	十年の歩み 東海発電所	原電	76-	

42	原子力問題と選択		76-	
230	記録帳	立花昭	77-	○
53	要員計画表		7701	
54	日本の原子力体制改善のための具体的提案(主として行政措置)	原電開発計画室	7701	
326	高温ガス炉燃料サイクルの利点 (R.C.Dahlberg: Benefit of HTGR Cycle, GA A14398) 立花訳		7703	○
1264	ガス冷却炉の評価 開資 227	原電開発計画室	7703	
1265	原型高温ガス炉 THTR の建設とその進捗 開資 228	原電開発計画室	7703	
1690	電力経済研究 No11	電中研	7703	
1691	エネルギー利用構造とエネルギー収支に関する調査	政策科学研究所	7703	
1692	原子力発電をめぐる諸問題の現状と展望	経済研究所, 電力経済研究部	7703	
327	高速増殖炉研究開発国際協力モデルについて	Y. Kodama	7703	
1696	電気受給契約書(案)	原電・東電	7703	
1105	1979 年度軽水炉改良・標準化調査報告書 1976 年度?	原子力発電機器標準化調査委員会, 原子力発電設備改良標準化調査委員会	7704	
1693	第 50 回 日本電力調査報告書	日本電力調査委員会	7704	
1406	Nuclear Proliferation and Safeguards (I ~ IV 章抄訳)	動燃再処理部	7704	
1305	原子力発電所デコンショニングの安全性と費用	原電開発計画室(藤田)	7704	
1972	わが国社会における文化的状況の 21 世紀への展望(要約)	総合研究開発機構	7705	
1407	原子力発電所一覧表	原産	7706	
1106	動力炉でのトリウム利用 WASH-1097(1969)抄訳	原研燃料工学部トリウム燃料研究室・柴是行	7706	
1485	個人保健安全管理体制の改善について	原電保健安全センター	7707	
1694	電気料金の概要について	原電	7707	
1015	放射性廃棄物貯蔵設備第 II 期増強工事の工程に関する補足説明	原電開発計画室	7707	
328	軽水増殖炉とトリウム燃料サイクル 開資 232	原電開発計画室	7707	
329	高速増殖炉開発の実施方策に関する報告書		7708	
1306	原子力発電所の廃止に関する技術的及び経済的諸問題「ザルツブルグ会議論文」 開資 233	原電開発計画室	7708	
1266	JNAP 西独高温ガス炉研究開発状況視察団報告書	高温ガス炉エネルギー有効利用システム研究会(JNAP)	7708	
330	高速増殖炉原型炉建設資金	動燃	7709	
332	新型転換炉建設に関する説明資料	動燃新型転換炉開発本部	7709	
1267	我国における多目的高温ガス炉のシステム構想立案のための基礎調査 原子力長期戦略委員会資料	高温ガス炉共同研究会(日立, 石川島播磨重工業, 東芝, パブコック日立)	7709	
1107	動力炉におけるトリウム燃料サイクルの評価 ORNL/TM-5565	原研	7709	
1486	使用核燃料再処理費用の会計整理について		7709	
1763	動燃 年報 1976 年度	動燃	7710	
1487	原子力発電所信頼性評価に関する研究	松村正寛	7710	
1307	WAGR のデコミッショニングー技術的検討ー	W.H. Lunning Central Technical Service Resley Nuclear Power Development	7710	
1268	高温ガス炉エネルギー有効利用システムの研究開発基本構想(Fundamental Concept)	高温ガス炉エネルギー有効利用システム研究会(JANP)	7710	
1108	代替核燃料サイクルの運転特性と原子力発電の成長可能性に与える影響	電源開発原子力調査室	7710	
333	高速増殖炉について	動燃新型転換炉開発本部	7710	
334	高速増殖炉原型炉白木地点の事前調査報告書	動燃	7710	
56	エコノミスト 臨時増刊	毎日新聞社	7711	
1016	会社の概要	原電社長室	7711	
1017				
1018	東海発電所の安全性見直し, ISI 計画についてー東海発電所出張報告ー	原電開発計画室・藤田	7711	
57	高速炉開発の現状について	原電文書	7711	
1019	東海第 2 発電所放射線障害予防規定	原電	7712	

1020	東海第2発電所燃料管理要項	原電	7712	
1021	東海第2発電所運転要項	原電	7712	
1022	東海発電所料金原価(案)	原電	7712	△
1109	各社加圧水型原子力発電所主要諸元の比較	原電開発計画室	7712	
335	表: 文殊と大型 LWR の建設費比較		7712	
336	動燃事業団'ふげん(ATR)'関係技術協力の概要	原電開発計画室	7712	
1780	1976 年度 敦賀発電所運転実績報告書	原電敦賀発電所	77-	
55	原子力発電の現状	原電開発計画室・立花昭	77-	○
1263	NUS 第 3 回(1977 年度契約)報告書 内容目次		77-	
1484	放射性廃棄物の陸地処分 「原子力学会」誌 vol.19 No.12 pp.822~829	原子力学会「放射性廃棄物の地上保管に関する安全性」研究専門委員会	77-	
248	当社原子力発電所の商業運転上の不安定要因について	原電開発計画室・立花昭	77-	○
1886	核データ及び原子分子データに関する組織関係図		-	
231	記録帳	立花昭	78-	○
1024	1977 年度(第 10 回)東海発電所定期検査(1977/10/1~12/30)報告書	原電	7801	
1025	1977 年度(第 8 回)敦賀発電所定期検査(1977/3/29~11/15)報告書	原電	7801	
1026	東海第 2 発電所 長期計画一覧表	原電	7801	
1027	東海発電所の長期的対策について	原電	7801	
338	"Comparison of Pool versus Loop Plant Design" 送付文書 Joint Paper	J. F. Cagle (GE-FBRD), J. Matte III, J. S. McDonald (AI)	7801	
339	動力炉開発状況 動燃委資料 28.8	動燃	7802	
340	高速増殖炉原型炉もんじゅ 動燃委資料 28.8	動燃	7803	
341	新型転換炉の位置づけ	動燃	7803	
58	核資源の有効利用並びに核拡散防止の2つの立場から見た燃料サイクルの評価	原電・立花昭	7803	○
59	核拡散防止と核資源有効利用の両者をほぼ満足させる熱中性子炉—高速炉共生系(simbiosis)—試案	原電・立花昭	7803	○
1270	高温ガス炉技術検討会資料	原電	7803	
1698	料金面から見た東海第一の検討の必要性		7803	
1279	NUS 第 1 回報告書(1977 年度契約) 開資 234	原電	78-	
1269	NUS 第 3 回(52 年度契約)報告書 内容目次		78-	
1408	雑誌「原子力資料」No.100	原産	7804	
1488	安全に関する報告書, (第 5 集 CATC 特集)	国鉄労働組合	7804	
1152	米国の 1978 年度核不拡散法(仮訳) 調査資料 78-5	原産	7804	
1619	原子力発電所関係, 問題 図解説明 (核不拡散, 国際情報, 新型炉など)	原電	-	
1111	日本の原子力発電開発における 当社独自の役割	原電	7804	
342	FBR 専門委員会名簿	動燃	7804	
1028	当社の将来のバイオニア性について	原電	7804	
1271	高温ガス炉技術検討会資料	石川島播磨重工業技術本部原子力開発室	7804	
1280	米国及び西独における高温ガス炉開発状況に関する調査常務会報告資料	原電開発計画室	7804	
1153	核不拡散論理の基本構造と保障措置の役割	エネルギー総合推進委員会, 政策科学研究所	7804	
60	東電 中央給電指令所との連絡メモ	原電開発計画室・立花昭	7805	○
1644	発電用原子炉施設に関する耐震設計審査指針	原子炉安全技術専門部会耐震設計小委員会	7805	
1489	ソ連の原子力発電の概要 開資 242 pp.18	原電開発計画室	7805	
343	ソ連の原子力発電の概要 開資 242 pp.30	原電開発計画室	7805	
344	International Cooperation on Breeder Reactors	The Rockefeller Foundation	7805	
1272	米国及び西独における高温ガス炉状況に関する調査常務会報告資料	原電開発計画室	7805	
1308	ウインズケール AGR のデコミッショニングの検討	原電開発計画室	7805	
1309				
1310	WAGR のデコミッショニング—その可能性の検討—	原電開発計画室	7805	
1311	デコミッショニング作業の費用項目について 開資 243	原電開発計画室	7806	

1313	デコミッショニング作業の費用項目について “AIF/NESP-009: An Engineering of Nuclear Power Reactor Decommissioning Alternative, Appendix A”の要約	原電開発計画室	7806	
1312	原子炉の廃止に関する工学的評価	資源エネルギー庁原子力発電課	7806	
1314	原子力発電所のデコミッショニングに関する調査報告書	原子力発電所デコミッショニング研究会	7806	
1326	Financial and Accounting Alternatives for the recovery of Nuclear Plant Decommissioning cost	Preston A. Collins, Gilbert Commonwealth Reading, Pennsylvania, U.S.A	-	
1409	原子力発電所一覧表	原産	7806	
1700	第 52 回 日本電力調査報告書	日本電力調査委員会	7806	
1701	エネルギーデータベース(EDB)の開発に関する提案	総合研究開発機構	7806	
1702	1978 年度決算概況等について 1977.4~1978.3 損益計算書	原電	7806	
1705	1977 年度決算概況等について	原電	7806	
1112	核燃料サイクルに関する検討結果中間とりまとめ	資源エネルギー庁核燃料研究委員会	7806	
346	新型転換炉の研究開発(開発の基本方針と「ふげん」の開発) 資料 2-2	動燃	7807	
345	新型転換炉「実証炉」開発の概要 資料 2-3	動燃	7807	
953	新型転換炉実証炉について	原電	-	○
1703	第52回 日本電力調査報告書 電力の受給明細書	日本電力調査委員会	7807	
1704	料金原価算定の基礎資料について	原電開発計画室	7808	
1273	HTGR 検討会資料	東芝電力事業本部	7806	
1274	ORNL 出張報告資料 高温ガス炉技術検討会資料	IHI新型炉部・八田	7808	
1029	軽水炉燃料の炉内挙動に関するまとめ	原電技術部技術課	7808	
1030	東海第 2 発電所主蒸気逃し安全弁実機試験報告書	原電技術部技術課	7808	
1031	敦賀発電所 2 号機増設計画に係る想定門答、回答要旨(案)	原電開発計画室	7808	
1032	敦賀 2 号機全体工程	原電	7808	
1033	パンフレット:敦賀発電所 1 号機のあらまし	原電	7808	
1034	パンフレット:敦賀発電所 2 号機のあらまし	原電	7808	
1035	パンフレット:敦賀発電所のあらまし	原電	7808	
1036	東海 1 号炉のデコミッショニング中間報告2	原電開発計画室	7808	
1037+	東海発電所 2 号機設計の概要 +認可申請書	原電	7808	
1038	東海 1 寿命末期の燃料取替について	原電技術部燃料課	7808	
1039	東海 1 号発電所解体計画(第1期)報告書原稿	原電開発計画室	7808	
1410	原子力研究開発利用長期計画案	原子力委員長計画専門部会	7809	
1411	原子力研究開発利用長期計画	原子力委員会	7809	
348	高速増殖実証炉概念設計研究の概要(昭和 53 年度上半期中間報告要約書)	東芝、日立、富士電機、三菱重工	7809	
337	4-1			
347	高速実験炉「常陽」の出力上昇試験の結果について	動燃高速実験炉部	7809	
1764	動燃 年報 1977 年度	動燃	7810	
1492	米国アルゴンヌ国立研究所「カナダ型炉の米国導入に関する許可上の予算評価」報告書の概要	電源開発	7810	
1275	HTGR 事故影響の評価(抄訳)	東芝	7810	
1276	高温ガス炉炉心特性評価システム THE (Toshiba HTR Core Evaluation System) 高温ガス炉技術検討会資料	東芝原子力事業本部	7810	-
1113	核燃料サイクルについて(資料集)	原子力局核燃料課	7810	
349	高速増殖原型炉「もんじゅ」の設計の現状について	動燃・中井靖	7810	
1023	東海第 2 発電所 料金関係文書	原電開発計画室	78-	
1082	東海第 2 発電所の建設ならびに電力受給に関する基本協定書(案) 原電・東電・東北電三者協定	原電・東北電・東電	-	&
1040	電力受給契約書(案)	原電・東北電・東電	7810	
1699	電力受給契約書など 東海第 2 発電所	原電	7810	
1697	電力受給関連資料 敦賀発電所	原電・東電	78-	
1041	東海第 2 発電所蒸気乾燥器ハウジング補強について		7810	△
61	「21 世紀の原子炉」に対する課題について	原電・立花昭	7810	○
1491	原子力発電所に関する国への要望事項	福井県	7811	
350	高速増殖炉概念設計研究について	原電開発計画室	7811	
351	電力の動燃「もんじゅ」の建設協力体制について	原電開発計画室	7811	
1278	ガス冷却型 原子力発電所	原電開発計画室	7811	

1315	IAEA(国際原子力機関-国連)論文抄訳	J. F. Nomec, USA	7811	○
1316	原子炉施設解体に関する国際シンポジウム関係報告		7811	
1042	東海第2発電所原子炉施設保安規定	原電	7811	
1191	「国際核燃料サイクルと評価」関係		7811	
1043	敦賀発電所料金原価について 需給契約書, 料金比較表	原電, 他	7812	△
1317	IAEA1978 デコミッショニングシンポジウム 出席報告	東海発電所技術課 野垣内武志	7812	
1114	新型動力炉開発懇談会総括ワーキンググループ中間報告書	新型動力炉開発懇談会総括ワーキンググループ	7812	
353	ループ型対プール型(タンク型)FBRの比較	原電開発計画室	7812	
355	第34回高速炉プラント専門委員会議事録(案)	動燃	7812	
354	第35回高速炉プラント専門委員会議事メモ	山岡耕一	7812	
356	新型転換炉に関する原電労組指摘事項と現状について	原電開発計画室・企画室	7812	
357	新型転換炉「ふげん」	動燃敦賀事業所・山口	7812	
358				
352	動燃 ATR(ふげん)建設に対する原電の協力関係について(1968～78年度)	原電開発計画室	7812	
1493	Planning Basis for the Development of State And Local Government Radiological Emergency Response Plans in support of Light Water Nuclear Power Plants	USNRC, USEPA Agency Task Force on Emergency Planning	7812	
1490	「高レベル放射性固体廃棄物の形態に関する会議」	目黒俊一	7812	
1706	エネルギー資料 開資 249	原電開発計画室	7812	
1707	日本の電気事業(1979年版)	海外電力調査会	7812	
1695	地下立地原子力発電所	資源エネルギー庁	78-	
1110	INFCE 関連資料(第8作業部会の動向)		78-	
232	記録帳	立花昭	79-	○
1115	エネルギー・原子力を考えるシリーズ(4)地域社会と原子力	日本原子力文化振興財団	7901	
1116	核燃料の国際的安定供給システムに関する調査研究	日本エネルギー経済研究所	7901	
1318	東海発電所しゃへいコンクリートの放射能イベントリー	原電開発計画室藤田	7901	
1319	デコミッショニング廃棄物の区分レベルの例 東1長期対策委員会資料 付: 最終解体作業について	原電開発計画室	7901	
1327	デコミッショニング方式について		-	
1328	東海発電所のデコミッショニングにおける検討課題		-	
1330	マグノックス発電所解体の原子炉構築物に対して中性子誘導放射能・廃棄物処理レベル	原電	-	?
1331	I デコミッショニング計画の分類と東1への適用 (外部説明資料)	原電発電管理部	-	
362	関係機関の人的協力について 原子力開発対策会議資料	動燃	7901	
1974	新型動力炉開発懇談会 総括 WG(及び技術検討 WG)の中間報告について	原電開発計画室	7901	
1281	米国及び西独における高温ガス炉開発状況に関する調査 JNUS 52年度報告書第4回	原電開発計画室	7901	
1502	従来の低レベル放射性廃棄物の海洋投棄・陸地処分以外の諸方法の調査報告書	エネルギー総合工学研究所	7901	
360	新型転換炉(ATR)のプルトニウム燃料の製造	動燃	7901	
361	事故により更に発生頻度は低い結果が重大であると想定される事象の考え方について LMFBRの安全評価について		7901	
1973	重水製造技術の現状と見通し 資料 9-3-2	動燃	7901	
1155	核拡散抵抗性を強化したCIVEX法再処理について	原電技術部	7901	
1190	米国の原子力輸出規制	原電開発計画室	7902	
1154	米国の原子力輸出規制-「1978 核不拡散法」のもとの規制々度と政策 開資 250	原電開発計画室	7902	
1321	東海発電所のデコミッショニング検討報告書	原電	7902	
1320	原子力施設のデコミッショニングに関する米国の政策および規制の動向について 「デコミッショニングに関する国際シンポジウム」 開資 251	原電開発計画室	7902	
364	世界のFBR実証炉-最近の動向- 開資-252	原電開発計画室	7902	
365	ATRの現状について	原電開発計画室	7902	
1412	主要5カ国(日本・アメリカ・西ドイツ・イギリス・フランス)のエネルギー受給・電力供給ならびに原子力発電の開発	原電開発計画室	7902	
1117	低線量被曝問題についての動向(米国)	原電開発計画室	7902	

1118	電力中央研究所報告: 578002	電中研 経済研究所	7903	
1496	放射性廃棄物のガラス固化 Energy 1979.3 pp.59 から 65	科学評論家・今井隆吉	7903	
1495	米AIFインフォワイヤー第8報 スリーマイル・アイランド原子力発電所における放射線漏れについて	原産調査資料室	7903	
1708	石油供給の中断<エネルギー危機管理の体系的分析>	総合研究開発機構	7903	
1413	21世紀にかけての原子力開発上の課題(中間報告)	政策科学研究所	7903	
366	運転管理要領	動燃新型転換炉ふげん発電所	7903	
367	ふげん発電所原子炉保安規定	動燃	7903	
368	高速増殖炉概念設計研究開発の概要(昭和 53 年度下半期成果要約書) 5-1	東芝, 日立, 富士電機, 三菱重工	7903	
369	世界最初の高速実証炉 "Superphenix" -Crays-Malville 原子力発電所・フランス- 開資 257	原電開発計画室	7903	
251	The Crays-Malville Power Station 資料 37 添付 1		-	
1045	敦賀2号機炉心設計	原電技術部	7903	
1494	スリーマイル島発電所の事故について		7903	
1506	スリーマイル島原発事故討論会資料	原研労働組合	7904	
1507	スリーマイル・アイランド原子力発電所, 事故調査団報告書	電事連	7904	
1709	ライフサイクルエネルギーに関する調査研究	科学技術庁資源調査所	7904	
1414	プロフィール (政策科学研究所の)	政策科学研究所	7904	
1503	スリーマイル島 2 号機事故の概観	原電技術部	7904	
1498	AIFインフォワイヤー第 9 報スリーマイル・アイランド原子力発電所の状況	原産調査資料室	7904	
1499	AIFインフォワイヤー第 10 報スリーマイル・アイランド原子力発電所の状況	原産調査資料室	7904	
1497	米AIFインフォワイヤー第 15 報スリーマイル・アイランド原子力発電所の現況	原産調査資料室	7904	
1415	スリーマイル・アイランド原発事故調査団報告	原産	7905	
1508	スリーマイル・アイランド事故に関する報道要旨	原電技術部	7905	
1044	PWR/BWR 炉心燃料設計比較表	原電技術部	7905	
370	Assessment of Specific Aspects of LMFBR Design	Electric Power Research Institute	7905	
371	The Clinch River Breeder Reactor Project an End to Impasse		7905	
372	もんじゅ検討会資料 配管破損時の炉内Naレベル, Na流出量, 及び1次循環ポンプキャビテーションについて	開発事業部・近藤	7906	
1416	原子力開発の長期戦略を考える (OUTPUT, NRO-53-1)	総合研究開発機構	7906	
373	原子力開発の長期戦略を考える 上記中 FBR 関係のコピー	総合研究開発機構	7906	
1509	「原発」崩壊した安全神話 「文化評論」抜粋		7906	
1512	TMIの経済的影響について-第1報-	原電経理部	7906	
1513	TMI原発事故に対する見解	原子力関係労組懇談会	7906	
1514	原発をどう考えるか スリーマイル島原発事故を分析する	朝日ジャーナル	7906	
250	メモ 朝日ジャーナル掲載記事用メモ		-	○
1329	原子力発電所のデコミッショニングコストと資金手当 開資 258	原電開発計画室	7906	
1322	原子力発電所のデコミッショニングコストと資金手当 上の原稿	原電	7906	
374	BN-350 および BN-600 原子炉の機器設計上の比較検討	原電開発計画室・藤田	7907	
1119	「核拡散は防げるか」第 5 章核兵器拡散の物理的障壁 一部分コピー	J. Rotblat著, 木村繁訳	7907	
1523	スリーマイル島原発事故の技術的教訓		7907	
1515	スリーマイル・アイランドその原因と影響に関する予備報告		7907	
1047	東海第2発電所緊急時対策要項	原電	7907	
1623	異常時における連絡、報告体制		-	
1504	TMI事故の全般的様相		7907	
1516	冷却材喪失実験 (LOFTL2-3)	電事連原子炉安全分科会	7908	
62	欧米の原子力メーカーの原子炉市場からの撤退の可能性とその影響	立花昭	7908	○
1710	電力需要指標 vol.17 No.77 1979 年度上期	電中研経済研究所	7909	
376	高速増殖実証炉概念設計研究の概要(1979 年度上半期成果要約書)	東芝, 日立, 富士電機, 三菱重工	7909	
377	高速炉におけるウラン資源の有効利用について	原電技術部	7909	○
378				
1510	スリーマイル・アイランド原発事故と米国における安全対策に関する	原安協	7910	

1517	講演録 ハロルド・R・デントン			
1527	米国スリーマイル島原発事故の問題点と教訓	赤塚夏樹	7910	
63	「もんじゅ」技術説明会ノート	原電・立花昭	7910	○
359	Safety Review Experience of Prototype FBR "Monju"	立花昭	7910	○
903	II Safety Review Experience of Prototype FBR "Monju" (和文)	原電・立花昭	-	○
1500	原子力発電所におけるヒューマン・エンジニアリングに関する調査報告書	原安協軽水炉安全性調査小委員会	7910	
1765	動燃 年報 1978 年度	動燃	7910	
1766	動燃 第 12 回報告と講演の会 予稿集	動燃	7910	
1048	BWR 発電所におけるクラッド低減化対策—敦賀発電所における放射線量率低減化の成果 及び東海第 2 発電所の建設・試運転時対策 原電資料第 10 号	原電開発計画室	7910	
1046	東海第 2 発電所保守要項	原電	7910	
1323	東海発電所(東 1)のデコミッショニングについて	原電	7910	
1518	低線量放射線の生物への影響評価に関する試験研究 昭和 53 年度成果報告書(1978 年度原子力平和利用委託研究)	原子力安全研究協会	7910	
1519	TMI事故検討の現状(米国)		7910	
1520	TMI事故後の電力会社への株式投資について 原子力主要ニュース No.74		7910	
1120	個人線量管理システム機械化処理概要	原電保健安全管理室	7910	
379	ATR実証炉と「ふげん」との設計比較	動燃新型転換炉開発本部	7910	
380	高速増殖原型炉建設候補地白木地点の基準振動について	動燃	7910	
381	高速増殖原型炉「もんじゅ」の建設協力について	電事連原子力部	7910	
1505	米国スリーマイル・アイランド原子力発電所事故の提起した諸問題に関する学術シンポジウム予稿集	原子力安全委員会・日本学術会議	7911	
1511	TMI事故調査米大統領特別調査委員会報告書		7911	
1711	地球時代のエネルギーと原子力	原電・一本松珠璣	7911	
1417	原子力開発と今後の日米協力(OUTPUT, NRO-53-3)	総合開発機構	7911	
1418	21 世紀にいたる原子力開発上の課題	近藤	7911	
1324	JPDRによるデコミッショニング技術開発および実証実験について	原研	7912	
382	ふげんの運転実績とその評価(I)	動燃新型転換炉開発本部	7912	
384	高速増殖炉もんじゅ発電所建設に係る技術協力に関する技術検討報告書(昭和55年度)	原電高速炉開発室	7912	
1521	Analysis of Three Mile Island Accident and Alternative Sequences	R.O.Wooton, et al	7912	
1049	東海発電所総括原価(案)		79-	
375	表: 対動燃, FBR 実験炉及び原型炉の関する技術援助契約		79-	
383	高速増殖炉の開発 原型炉「もんじゅ」の設計	動燃	79-	
919	もんじゅ No.1 「高速増殖炉とは」 1979?	動燃	-	
920	もんじゅ No.2 「安全性について」	動燃	-	
921	もんじゅ No.3 「プルトニウム燃料について」	動燃	-	
922	もんじゅ No.4 「ナトリウムについて」	動燃	-	
233	記録帳	立花昭	80-	○
385	高速炉の設計, 建設及び運転経験(ボローニヤシンポジウム及びハンプルク会議論文より) 開資 263	原電開発計画室	8001	
386	GCFR(ガス冷却高速増殖炉) Status Report	NEA-OECD	8001	
387	敦賀発電所 2 号機準備工事(作業用)工程表	原電建設業務課	8001	
388	ATR 実証炉の(4 社(東電・関電・中部電・原電)の)検討事項について	原電	8001	
原電高速炉開発室長 (1980~1982)				
389	高速増殖炉の安全性(シアトル会議論文より) 開資 260	原電開発計画室	8002	
390	21 世紀にかけた原子力開発上の課題 CR-79-28	政策科学研究所	8003	
1419	21 世紀にいたる原子力開発上の課題 同上コピー	政策科学研究所	8003	
391	高速増殖実証炉概念設計研究の概要 (1978 年度及び昭和 1979 年度要約書)	東芝, 日立, 富士電機, 三菱重工	8003	
64	FBR 実用化の見通し	立花昭	8003	○
1121	ビジョン委員会報告書—当社の今後のあるべき姿について—	原電ビジョン委員会	8003	

1325	1979 年度 廃炉技術基準等確立調査報告書	エネルギー総合工学研究所	8003	
1050	東海第 2 発電所起動試験(1977/12~78/11) 報告書 BWR 1 号機	原電東海第2発電所	8004	
1051	敦賀発電所廃棄物処理設備の増強(増強設備の設計概要, 言説記録および運転性能について) 原電資料第11号	原電企画室	8004	
1052	敦賀発電所廃棄物処理増強設備の運転と性能 「火力原子力発電」1980 年 4 月号からの抜粋	原電・目黒芳樹他	8004	
1053	東海発電所・東海第2発電所	原電	8004	
1483	敦賀発電所廃棄物の処理-よりいっそうの環境保全をめざして	原電	?	
392	The Grays Malville Fast Breeder Power Station	G. Vendryes(CEA)	8004	
1529	「わが国の安全確保対策に反映させる事項」について	原子炉安全基準専門部会	8004	
1054	東海第2発電所放射線管理要項	原電	8006	
1530	放射性廃棄物の管理処分に関する第 1 回欧州共同体会議出席報告 IAE-M8002	エネルギー総合工学研究所	8006	
1531	原子力発電所等周辺防災対策専門部会報告書概要	原子力安全局	8006	
1122	ざ・さいくる 第7号	動燃	8006	
1533	米国スリーマイル・アイランド原子力発電所事故の提起した諸問題(報告書)	原子力安全委員会, 日本学術会議	8007	
393	高速増殖炉の配管設計について	高速炉エンジニアリング	8007	
394	高速増殖炉仮想事故	川又伸弘	8007	
395	LMFBR の ISI - ASME の考え方について (See XL Div.3 ドラフト 12 の要点) 高資-002	原電高速炉開発室	8008	
1975	LWR ポンプの ISI と LWR 弁の ISI	原電高速炉開発室	8008	
1194	原子力と核兵器の拡散	J. Rotblat 服部訳	8008	
65	メモ: 高速炉と軽水炉の安全特性上の比較(試案)	原電 立花昭	8009	○
66	高速増殖型発電所(Fast Breeder Reactor Plant)について 原文もあり	原電高速炉開発室	8009	
396	原電「もんじゅ」業務報告書 第1号	原電高速炉開発室	8010	
397	高速増殖炉の安全性の評価の考え方について	原子力安全委員会 原子炉安全基準専門部会	8010	
398				
1123	ざ・さいくる 第8号	動燃	8010	
1767	動燃 第13 回報告と講演の会 予稿集	動燃	8010	
1768	動燃 年報 1979 年	動燃	8010	
1528	Criteria for Preparation and Evaluation of Radiological Emergency Response Plans and Preparedness in Support of Nuclear Power Plants	U.SNRC	8010	
1124	トリウムサイクルー研究開発の現状と発展の道	原子力学会「トリウムサイクル調査」研究専門委員会	8010	
1125	核燃料サイクルー1979 年代のレビューと将来展望ー	原電技術部技術課	8011	
1532	A Prediction of TMI-2 Core Temperatures From the Fission Product Release History NSAC12	Argonne National Laboratory	8011	
1534	スリーマイル・アイランド原子力発電所事故に関する調査報告書(I)	原安協	8011	
67+	高速増殖炉の安全性の評価の考え方	原子力安全委員会	8011	
399	高速増殖炉もんじゅ発電所原子炉設置許可申請書の概要 動開委資料	動燃高速増殖炉開発本部	8012	-
400	英仏高速炉調査出張報告書 動開委資料	原電高速炉開発室・浜崎一成ほか	8012	
906	Technical Review, Evaluation and Licensing of Liquid Metal Fast Breeder Reactors - Qualification and Experience 279(CDQS-55)	NUS CORPORATION	-	
915	.Thermal hydraulic Studies for LMFBR	D. Alvarez, G.Lacroix, Research Engineers, Industrial Fluid Mechanic Branch, National Hydraulic Laboratory	-	
1522	Three mile island volume 1		80-	
1524	スリーマイル・アイランド2号事故の経緯概要	原電技術部	80-	
234	記録帳	立花昭	81-	○
405	FBR のエネルギー収支分析	政策科学研究所	8101	
406	原電「もんじゅ」業務報告書 第2号	原電高速炉開発室	8101	

407	表:動燃事業団動力炉開発に関する国際協力 動燃委資料 34-6		8102	
1537	スリーマイル・アイランド原子力発電所事故に関する調査報告書 (Ⅱ) -NRC特別調査グループ(ロビゴン)報告一	原安協	8102	
1540	スリーマイル・アイランド原子力発電所事故に関する調査報告書 (Ⅲ) -NSAC-80-1	原安協	8102	
1541	スリーマイル・アイランド原子力発電所事故に関する調査報告書 (Ⅳ) -総括編一	原安協	8102	
1539	原子力プラントの内部発生ミサイルとその2次的影響に対する防 護 IAEA 安全シリーズ No.50	日本電気協会	8103	
408	電力共通研究 プルトニウム等核燃料資源の多面的利用に関す る調査研究(プルトニウムの高度利用に関する調査研究)研究報 告書要約 229	電事連増殖炉開発準備室	8103	
409	原電「もんじゅ」業務報告書 第3号	原電高速炉開発室	8104	
410	The Liquid Metal Fast Breeder Reactor and the Clinch River Project	Burns, Roe	8104	
1055	敦賀発電所給水加熱器漏洩問題について	原電	8104	
1056	敦賀発電所問題について	原電	8105	
1057				
1542	敦賀発電所社員・家族に宛てた文書	原電社長 鈴木俊一	8105	
411	USDOE 高速増殖炉概念設計研究最終報告書 Executive Summary の要旨	高速炉エンジニアリング	8105	
1058	敦賀発電所給水加熱器からの漏洩ならびに放射性廃液の漏洩に ついて 順末書	原電	8105	
1059	敦賀発電所給水加熱器からの漏洩ならびに放射性廃液の漏洩に ついて 順末書 No.1058 の原稿	原電	8105	
1885	パンフレット:敦賀原発事故の意味するもの	日本科学者会議原子力問題研 究委員会	8105	
1536	設備改善について		8105	
1061	敦賀発電所における放射性物質漏洩事故に係る報告について	原電	8106	
1060	保安管理体制ならびに発電所設備の総点検について	原電	8106	
1062			8106	
1063	1980 年度決算概況等について	原電	8106	
1064	敦賀原子力発電所の事故について	全国電力労働組合連合会	8106	
1065	敦賀発電所における放射性物質漏洩事故に係る改善措置につい て	原電	8107	
412	原電「もんじゅ」業務報告書 第4号	原電高速炉開発室	8107	
413	海外出張報告書一仏、英、西独の高速炉開発情况	電事連高速増殖炉開発準備室、 電中研、高速炉エンジニアリング	8108	
414	高速増殖炉原型炉「もんじゅ」発電所安全評価の概要	原電高速炉開発室	8108	
1066	敦賀発電所 第4B 給水加熱器損傷原因等調査報告書	発電用動燃機関協会	8108	
415	もんじゅ設計の経緯 高速炉エンジニアリングの原電宛説明資 料 (S56.4)	高設技	8109	
416	ATWS(Anticipated transient without scram)事象		8109	
417	電力中央研究所報告 調査報告:281003 タンク型FBRの概念設 計研究についての比較検討	電中研エネルギー・環境技術研 究所	8109	
418	原電「もんじゅ」業務報告書 第5号	原電高速炉開発室	8110	
419	FBR 経済性向上のシナリオ	原電高速炉開発部	8110	
420	高速増殖炉の安全解析に用いる計算コードについて	動燃	8111	
1420	放射線レポート集	東北放射線科学センター・栗冠 正利	8112	
1538	東海地震と原子力防災	日本科学者会議	8112	
421	高速増殖炉もんじゅ発電所の安全審査に関して 詳細設計段階 等で検討すべき事項(案)	原子炉規制課	8112	
68	ナトリウム加熱蒸気発生器における不安定流動現象 日本機械 学会論文集(B 編)47(413)163	竹内孝行, 久保田淳, 土屋敏雄	81-	
403	1981 Progress Report Clinch River Plant Project		81-	
904	The Technical Accomplishments of the Clinch River Breeder Reactor Plant Project	Wallance B.Behnke 他	81-	
404	液体金属冷却高速増殖炉の安全設計方針(案)	原電開発計画室設計課	81-	
401	高速増殖炉もんじゅ発電所建設に係る技術協力(1981 年度)契約		81-	

	書			
1535	保守管理体制の総点検結果について	原電	81-	
402	高速増殖炉もんじゅ発電所建設に係る技術協力(1981年度)契約仕様書	動燃・原電	81-	
235	記録帳	立花昭	82-	○
424	原電「もんじゅ」業務報告書 第6号	原電高速炉開発室	8201	
425	高速増殖炉もんじゅ発電所原子炉許可申請書の概要	動燃	8201	
426	見積仕様書の技術審査について(案)	高業課	8201	
427	基本問題分科会報告書(Ⅱ), 高速増殖炉の実用化方策・自主開発技術の実用化推進	原子力委員会長期計画専門部会基本問題分科会	8202	
428	電力共通研究 高速増殖実証炉概念に関する研究 高速増殖実証炉概念設計研究 1981年度研究報告書要約 202	電事連高速増殖炉開発準備室	8203	
429	受託研究報告書 高速増殖実証炉概念に関する研究(大径薄肉管の製造技術に関する調査研究)1981年度下半期(最終報告書)	住友金属工業	8203	
430	高速増殖実証炉概念に関する研究(燃料出入機と炉内支持構造に関する調査研究)最終報告書要約書	川崎重工	8203	
431	高速増殖炉もんじゅ発電所の設計概要	動燃高速増殖炉開発本部	8203	
432	高速増殖炉もんじゅ発電所建設に係る技術協力に関する技術検討報告書(1981年度)	原電高速炉開発室	8203	
433	高速増殖実証炉概念に関する研究(大型ナトリウム弁の製造技術に関する調査研究)調査研究のまとめ	岡野バルブ製造	8203	
434	主要国における動力炉開発とその産業化に関する調査, 評価	工業開発研究所	8203	
435	発電用新型炉利用システム開発調査報告書—高速増殖実証炉実用化に関する調査— 1981年度版	エネルギー総合工学研究所	8203	
436	高速増殖実証炉概念に関する研究(高速炉運転経験調査研究)最終報告書要約	住友商事	8203	
437	高速増殖実証炉概念に関する研究(高速炉の環境影響に関する調査研究)調査研究のまとめ	日本 NUS	8203	
438	高速増殖実証炉概念に関する研究(高速炉の構造材料に関する調査研究)調査研究のまとめ	神戸製鋼所	8203	
1543	エネルギーとしての原子力発電とその安全性	日本科学者会議	8203	
439	IEF Report FBR 実用への過度期におけるプルトニウム利用戦略	国際エネルギー政策フォーラム	8204	
440	原電「もんじゅ」業務報告書 第7号	原電高速炉開発室	8204	
441	高速増殖炉「もんじゅ」発電所建設工事の概要	動燃	8204	
442	原子力利用開発長期計画	原子力委員会	8206	
1976	動燃資料「ペロヤルスク原子力発電所の BN-600 発電炉における設計, 建設および起動試験	動燃大洗工学センター, 佐藤正雄訳	8207	
1544	ペロヤルスク原子力発電所における設計, 建設及び起動試験 No.1976 と同じ?	V.P. ネフスキー他, 佐藤正雄訳	8207	
928	BN-600 及び BN-350 原子炉の機器構成及び構造上の課題の比較解析 (翻訳)		-	
443	原電「もんじゅ」業務報告書 第8号	原電高速炉開発室	8207	
444	高速増殖炉「もんじゅ」エンジニアリングモデル	高速炉エンジニアリング	8207	
1068	敦賀発電所2号機工事計画認可申請について	原電建設部	8207	-
445	「もんじゅ」建設協力上の問題点	原電高速炉開発部	8209	
446	「もんじゅ」プラント設計上の問題点	原電高速炉開発部	8209	
447	電力中央研究所報告 研究報告:382004 タンク型高速増殖炉主容器内熱流動に関する研究—円筒容器内の流動および温度成層化に関する水理実験と解析—	電中研	8209	
448	もんじゅ要員計画	高速増殖炉開発本部建設計画部	8209	
449	原電「もんじゅ」業務報告書 第9号	原電高速炉開発部	8210	
450	高速炉に関する国際会議出席および関連施設訪問についての出張報告	原電高速炉開発部	8210	
1769	動燃創立 15 周年記念 報告と講演の会 予稿集	動燃	8210	
1771	動燃 年報 1981 年	動燃	8210	
69	高速増殖炉もんじゅ発電所の現地建設工事に係る協力に関する協定書 原案		8211	
70	「もんじゅ」建設協力に対する長期要員計画の見通しと十電力の	原電高速炉開発部	8211	

	出向要請について			
71	FBR の経済性について(コピー)		8211	
72	FBR 実証炉の建設費推定(案)	ワーキンググループ	8211	
1422	低成長下における原子力開発戦略の再吟味 (IEF Report)	国際エネルギー政策フォーラム	8211	
451	「もんじゅ」建設工事監理契約に関する社長指示について	原電	8211	
452	動燃、原電の業務分担について(案)	原電	8211	△
1421	エネルギー原子力の現況	原電企画部	8211	
原電高速炉建設部長 (1982～1985)				
1545	ソ連における原子力ステーションの設計・建設及び運転日時についての安全保障に関する一般規定	原産	8212	
453	高速増殖炉もんじゅ発電所公開ヒアリングの概要	福井原子力センター	8212	
454	「もんじゅ」建設工事監理契約について	原電高速炉開発部	8212	
422	高速増殖炉もんじゅ発電所建設に係る技術協力(昭和57年度)契約仕様書	動燃・原電	82-	
423	高速増殖炉もんじゅ発電所の安全審査と工学対策について(抜粋)		82-	
1067	会社の概要	原電	82-	△
1079	Calculation of vibration of Superphenix internal structures KENSWICK82 (第3回原発における振動)	F. J-P. Gantenbein (CEA)他	82-	△
236	記録帳	立花昭	83	○
73	「もんじゅ」発電所建設に際して、原電が責任を持って対応する業務分野	原電高速炉開発部	8306	
74	原子力発電所の大容量化について	立花昭	8309	○
905	高速増殖炉原型炉「もんじゅ」安全性 安全審査へのコメント			
936	高速増殖炉に関する資料 一部 905 と重複		-	
455	「もんじゅ」安全審査の経緯		83-	
457	安全審査で慎重に検討された主な事項(1/3)		83-	
456	1979 年度から 1983 年度までに終了する主な件名(費用1千万円以上)		83-	
459	原電「もんじゅ」業務報告書 第10号	原電高速炉開発部	8301	
460	高速増殖炉の開発計画について	立花昭	8301	○
461	GRBR のコストについて	立花昭	8301	○
462	高速増殖炉原型炉「もんじゅ」の建設協力業務について		8301	
463	電力共通研究 高速増殖実証炉概念に関する研究 高速増殖実証炉概念設計研究の概要(1982 年度研究報告要約書)	電事連高速増殖炉開発準備室	8303	
464	高速増殖炉「もんじゅ」建設に係る技術協力に関する技術検討報告書(1982 年度)	原電高速炉開発部	8303	
465	原電「もんじゅ」業務報告書 第11号	原電高速炉開発部	8304	
466	「もんじゅ」発電所建設協力に関する業務の実施方針について	原電高速炉建設部	8304	
467	「動力炉・核燃料開発事業団高速増殖炉もんじゅ発電所の原子炉の設置に係る公開ヒアリング」における意見等の参酌状況について	原子炉安全専門部会	8304	
468	動力炉・核燃料開発事業団高速増殖炉もんじゅ発電所の原子炉の設置に係る安全性について	原子炉安全委員会	8304	-
469	高速増殖炉実用化小委員会中間報告ー高速増殖炉開発の基本戦略ー	総合エネ調査会原子力部会、高速増殖炉実用化小委員会、基本政策小委員会・専門委員会	8304	
470				
471	借用期間中検査について		8305	
1186	A Logical Approach of In-service Inspection to LMFBR Primary Sodium Boundaries	電中研 S.Hattori	-	
472	高速増殖炉「もんじゅ」発電所建設工事計画の概要	動燃	8305	
473	電力中央研究所 研究報告:282059 タンク型 FBR	電中研	8305	
1429	通産省原子力発電高度化懇談会報告書の概要 1. 原子力発電高度化の基本的視点	原電	8306	
474	原電「もんじゅ」業務報告書 第12号	原電高速炉開発部	8307	
475	添付図ー1 もんじゅ発電所建設工事基本工程、添付図ー2 業務実績	高速炉設計課	8307	
476	安全上の機能別重要度分類について 附もんじゅ安全審査	高速炉設計課	8308	
477	年報ー1982 年度ー	動燃	8310	

478	もんじゅ発電所の経緯	原電高速炉開発部	8310	
479	CRBR 予算の件		8310	○
480	「安全設計審査指針」の省令62号への反映答申書(案)	火力原子力発電技術協会	8311	
1723	長期エネルギー需給見通しとエネルギー政策の総点検について 資料 4	資源エネルギー庁	83-	
481	高速増殖炉開発の現状(改訂版)		8311	
482				
483	第7回技術企画委員会資料	原電技術開発部	8311	
484	表:「もんじゅ」対応策(案)		83-	
1126	核燃料サイクルと動燃	動燃	83-	
1156	Review of Maintainability of Large LMFBF Designs Nucl. Safety vol.24 No.1 からのコピー	J. Matte III	8301	
1157	「英国の大型高速炉設計に関する調査研究」1984 年度上半期中間報告	東芝	8309	
1158	「ナトリウム中断熱構造体の研究」1983 年度上半期中間報告	東芝	8309	
1282	実験炉における評価すべき事象の選定について	多目的高温ガス実験炉設計室	8312	
1069	会社の概要	原電	83	
1070	敦賀1号機に係る多重故障の解析評価 最終報告書(要約版)	東芝	83	△
1423	原子力産業の現状と展望(IEF Report)	国際エネルギー政策フォーラム	83	
924	パンフレット: TOR Project 1978~1983	CEA	>83	
237	記録帳	立花昭	84	○
486	R&D of LMFBF in Japan	電事連	8401	
487	原電「もんじゅ」業務報告書 第14号	原電高速炉開発部	8401	
488	FBR のナトリウム配管長について	東芝動力炉開発部	8401	
75	海外出張報告・電事連・フランス電力庁間の高速炉に関する情報交換会議について	原電技術開発部・立花昭	8401	○
76	日本の高速炉開発の当社の立場について	原電技術開発部	8402	
77	原型炉から実証炉へ、当社の高速炉開発計画について	原電技術開発部高速炉開発部	8402	
78	ガス冷却高速増殖炉について	原電技術開発部	8402	
908	ガス冷却高速増殖炉(GCFR)について		-	
489	高速増殖炉(FBR)関連資料-「SPX-II の安全性の考え方について」	原電技術開発部	8402	
490	原型炉から実証炉へ、当社の高速増殖炉開発計画について	技術開発部高速炉建設部	8402	
491	高速炉燃料再処理小委員会報告書	高速増殖炉開発懇談会、高速炉燃料再処理小委員会	8402	
1128	各種炉型・原子炉冷却材の熱的特性	技開-6002	8402	
1127	APWR	常務会資料	8402	
1129	プルトニウム利用方策について	電事連プルトニウム対策検討委員会	8403	
1977	BN-600 プラントの概要	原電	8403	
492	受託研究報告書 高速増殖実証炉概念設計研究(高速増殖実証炉概念に関する研究), 1983 年度下半期(最終報告書) 47	高速炉エンジニアリング	8403	
493	電力共通研究 高速増殖実証炉概念に関する研究 高速増殖実証炉概念に設計研究の概要(1983 年度研究報告要約書) 172	電事連高速増殖炉開発準備室	8403	
494	受託研究報告書 高速増殖実証炉概念設計研究(高速増殖実証炉概念に関する研究) 46	高速炉エンジニアリング	8403	-
495	FBR 実用化にむけての基本的考察-経済性向上と技術進歩の調和をめざして-	国際エネルギー政策フォーラム	8403	
496	大型高速炉に関する安全設計指針の検討方針について	立花昭	8403	○
497	西独 RWF・Wolpert氏による西独 FBR 開発状況の進展と SNR-2 の考え方についての説明と紹介	原電技術開発部・林	8403	
498	SNR-300 の設備概要	原電高速炉建設部	8404	
499	仏 EDF-電事連原子力情報交換会合(第2回)報告書(FBR 開発)	電事連	8404	
500	FBR プラントの配管引廻しに関する御説明資料	三菱重工、新型炉技術課新型炉技術部	8404	
80	Na冷却高速炉の安全問題について	原電・立花昭	8404	○
501	我が国における高速増殖炉開発の進め方について(改訂版)		8404	
502	表:もんじゅの事故評価例と緩和機能について		8405	
503	「安全評価」参考メモ	原電	8405	

504	主要な解析条件について	資料 1~4	原電高速炉建設部	8405	
505	電研レビュー 高速増殖炉—タンク型炉の実用化に向けて		電中研	8406	
506	SPX- I の炉心概念, 熱及び核設計上の適用規準(S.59 年 6 月, 日独仏高速炉会議の際の入手情報)		原電	8406	
1770	声明: 返還プルトニウム輸送について		原研労働組合中央執行委員会	8406	
79	もんじゅ炉心設計 燃料設計 ESI について		原電高速炉建設部	8405	
1978	スポレーション中性子工学		原子力学会「中性子ターゲットシステム」研究専門委員会	8407	
1187	SAS 3D コード 燃料局所破損・出力急上昇における炉の挙動計算コード	USDOE と動燃の協定により供与		-	
1630	局所的燃料破損伝播挙動解析と評価の現状	青焼き	東京大学・近藤駿介	>73	
911	FBR 燃料 炉内実験(資料ファイル)			?	△
925	Thermohydraulique et sure te des Assemblages Combustibles le Programme SCARLET			?	
942	High Burnup Fuel Performance Observations		Rand (GE)	?	
507	高速炉システム研究会報告 高速増殖炉の炉型選択に関する基礎研究(Revision)		高速炉システム研究会	8407	
508	原電「もんじゅ」業務報告書 第 16 号		原電高速炉建設部	8407	
509	表: 崩壊熱除去系の信頼性評価		原電	8407	
510	CRBR の安全評価報告書(SER)内の関連事項について		原電技術開発部	8407	
512	CRBR の Beyond DBA の被爆評価について		原電	8407	
513	表: DBA と Beyond DBA の比較		原電	8407	
485	もんじゅ—SNR-300 情報交換協力		動燃	84—	
511	SNR-300 の炉心融解後の原子炉容器の健全性について		原電	8407	
514	SNR-300 の炉心融解後の原子炉容器の健全性について	Nuclear Technology 65 1984 等の紹介	原電	8407	
515	PWR(主に敦賀発電所2号炉)との比較に於ける高速増殖炉もんじゅ発電所の説明		原電高速炉建設部	8408	
516	「もんじゅ」発電所契約の交渉経緯について			8408	
517	表: 原型炉の救済についての新構想			8408	
518	第 4 回日独仏 FBR 協力レビュー会議に係る入手資料 — Interatom Dr. Walton から SNR-300 に関する手紙		動燃企画部・森山正敏	8408	
519	原型炉計画についての対策会議での取扱い(案)			8408	
520	今後3年間の日本における高速炉開発の展望(参考)			8409	
521	IEF Report: 高転換軽水炉の技術開発について		国際エネルギー政策フォーラム	8410	
522	もんじゅ関連資料について		原電高速炉建設部	8410	
923	高速増殖炉もんじゅ発電所建設工事概要			-	
524	高速増殖炉(FBR)関連資料—FBR 安全性検討グループ中間報告		電事連高速炉推進会議技術部 会 安全性検討グループ	8410	
523	FBR 安全性検討グループ中間報告(案) 上記報告書案			8410	
525	もんじゅ建設経緯に係わる技術調査報告書		原電高速炉建設部	8410	
526	電源特会関係タスクフォース人委員会に対するもんじゅGr報告		もんじゅGr主査	8410	
527	4 人委員会への報告及び18人委員とPNCの会合			8410	
528	Advisory Committee on Fast Breeder Reactor Development Interim Report			8410	-
1546	放射性廃棄物の地層処分に関する地球化学プロセス		天沼僚, 村野徹	8410	
1071	高転換型軽水炉について		日立	8411	
1424	世界の核燃料資源開発の現況		林昇一郎	8411	
529	高速炉発電所の異常事象に対する設計上の対応		原電	8412	
1130	軽水炉技術高度化小委員会報告書		総合エネ調軽水炉技術高度化 小委員会	8412	
946	ループ型炉合理化設計研究 設計構想	高速炉推進会議技術 部会資料 9-4-2		-	
947	タンク型炉合理化設計研究 設計構想	高速炉推進会議技術 部会資料 9-4-1	東芝	-	
948	タンク型炉合理化設計構想の着眼点(素案) 設計研究の基本仕様			-	△
901	合理化概念(共通項目)の検討と基本仕様の選定	高速炉推進 会議第 4 回技術部会提出資料		-	△
458	添付資料 1~19 (FBR, LWR)			84—	

1990	朝日新聞切抜き	1984-1989	朝日新聞社	84-	
238	記録帳		立花昭	85-	○
531	第1回 FBR 実証炉推進連絡会議について		資源エネ庁原子力発電課	8501	
532	高速増殖炉「もんじゅ」の建設資金について	資料 2-2	電事連原子力部	8501	
533	高速増殖炉(Fast Breeder Reactor)について		原電	8501	○
534	SNR-300 に関連した崩壊熱除去系	原電宛説明資料	東芝	8502	
535	高速増殖炉の炉型選択に関する基礎研究-耐震設計Phase II		高速炉システム研究会	8503	○
1073	APWR 炉心の燃焼特性		三菱重工・三菱原子力	8503	
544	日立に於ける FBR 実証炉に係る研究開発の概要	資料 1	日立	8503	
543	日立に於ける FBR 実証炉に係る国際協力について	資料 2	日立	8503	
548	三菱に於ける FBR 実証炉にかかわる研究開発の概要	資料 3	三菱重工	8504	
549	三菱に於ける FBR 実証炉にかかわる国際協力について	資料 4	三菱重工	8504	
536	東芝に於ける FBR に係る研究開発の概要	資料 5	東芝	8503	
537	東芝に於ける FBR 実証炉に係る国際協力について	資料 6	東芝	8503	
538	川崎重工に於ける FBR 実証炉に係る研究開発の概要	資料 7	川崎重工	8503	
539	川崎重工に於ける FBR 実証炉に係る国際協力について	資料 8	川崎重工	8503	
542	富士電機に於ける FBR 実証炉に係る研究開発の概要	資料 9	富士電機	8503	
540	富士電機に於ける FBR 実証炉に係る国際協力について	資料 10	富士電機	8503	
541	「高速増殖実証炉概念に関する研究」1984年度下半期研究成果について		電事連高速炉開発準備室	8503	
82	許容リスク曲線に関する沢口提案に含まれる積分演算について		原電・立花昭	8504	○
81	スーパーフェニックス設計のための安全性R&D		動燃・井上晃次	8504	
546	Na 冷却高速炉の安全問題に関する一考察(原稿)		原電・立花昭	8504	○
545	Na 冷却高速炉の安全問題について		原電・立花昭	8504	○
547	原子炉施設等安全研究専門部会 第3回分科会(FBR)資料 3-5		渡辺	8504	
1074	敦賀発電所2号機設備概要		原電建設部	8505	
550	高温ガス炉発電プラント研究会発足までの経緯	技開資 6003	原電技術開発部	8505	
551	最近の高速炉の安全論理の動向	原安協資料 60/5/17	佐治愿	8506	
912	フランス原子力庁(CEA)安全研究部(DERS) SCARABB N 計画(翻訳)		IPSN(原子力安全防護研究所)	-	
911	FBR 燃料 炉内実験(資料ファイル)			?	△
83	原稿用紙送付の件(原稿依頼)	No.87, 90 の件	日本機械学会	8507	
552	電力中央研究所 研究報告:A85003 FBRタンク型炉実用化研究昭和 59 年度中間報告		電中研	8507	
553	高温ガス炉の蒸気発生器(SG)の伝熱性能-他炉(PWR, LMBR, GCR)との比較			8507	
554	CRBR の Beyond DBA 評価		原電	8507	
84	高速実証炉開発の現状について		原電・立花昭	8508	○
555	高速炉炉心設計の安全・動特性(要旨)		高速炉エンジニアリング・佐治愿	8508	
556+	BN-600 (ソ連) 解説		動燃実験炉部	8508	
1284	高温ガス炉の現状とその動向	技術企画委員会専門部会資料-7	原電技術開発部	8509	
1285	高温ガス炉発電プラント・コンセプトの調査・検討 昭和 60 年度中間報告書		(株)システムコーポレーション	8509	
560	高温ガス炉の蒸気発生器の伝熱性能 他炉(PWR, LMBR, GCR)との比較	技開資 8505	原電技術開発部	8509	
557	世界における FBR の開発動向 FBR リヨン会議報告書 19-6 (60-10-28)		高速炉システム研究会総括部会 主査・安成弘	8509	
558	第8回 SMIRT 国際会議「LMFBR の耐震解析に関する研究の方向」	高速炉システム研究会	耐震設計部会(東理大)・原文雄	8509	
559	高速増殖原型炉「もんじゅ」の安全性			8509	
85	FBR 実証炉技術開発計画について		原電技術開発部・立花昭	8510	○
86	高速炉(FBR)と軽水炉(LMR)の安全特性上の比較について		原電・立花昭	8510	○
257	軽水炉と高速増殖炉-高速炉から見た両炉型の安全特性の現象論的比較		原電・立花昭	-	○
561	パンフレット: Superphenix		Andre Ertaud (Novatome)	8511	
564	高速増殖実証炉の研究開発の考え方について		原電技術開発部	8511	
562	高速増殖実証炉の研究開発の考え方について 同上(p.24.抜)		原電技術開発部	8511	
563	活動の記録 1980 年 6 月~1985 年 11 月		電事連高速増殖炉開発準備室	8511	
565	FBR 実用化時期について(中間報告概要)	高速増殖炉対策会	FBR 専門部会	8511	

	議本会議資料 4 回 1			
566	「もんじゅ」プロジェクトの今後の推進について	原電高速炉開発室	8511	○
363	FBR の実用化時期について<中間報告> 参考資料	FBR 専門委開発時期検討小委員会	8511	
原電高速炉開発部長 (1985~1988)				
567	1986 年度自社研究 電力共研究参考資料	原電技術開発部	8512	
530	FBR コストダウン方策について		85-	
1283	第2世代の高温ガス炉の資質とその効用 「原子力工業」 vol.31 No.10(1985)p.43-50	富士電機・武谷清昭	85-	
1072	日本原子力発電-1985 年度現状-	原電	85-	
1302	高温ガス炉の調査、研究について THTR-300 関連		> 85	
239	記録帳	立花昭	86	○
1131	材料試験炉(JMTR)の現況	原研大洗研究所	8601	
1192	服部学 核問題著作リスト	服部学, 還暦を祝う会準備会	8601	
568	「常陽」燃料データ・バンキングシステムの概要	動燃・浅賀建男	8601	
569	FBR 実証炉開発に係る当社の基本戦略について(案)	原電高速炉開発部	8601	
88	メモ:核燃料資源と高速増殖炉	原電 立花昭	8602	○
89	高速増殖炉における流動, 伝熱研究の現状	動燃	8602	
570	FBR 燃料再処理の技術課題と経済性の検討について	沢口	8602	
571				
1552	再処理施設安全審査指針	原子力安全委員会	8602	
572	高速増殖炉の建設費低減・安全性確保のための基礎的な研究 (Ⅱ)	CRG(センチュリーリサーチセンター)	8603	
573	実証炉以降の FBR 研究開発(検討用案)	動燃	8603	
939	高速炉安全性試験炉の開発について	動燃動力炉研究開発本部	?	
262	表1:実証炉段階設計研究主要諸元 表2:冷却系システムの特質	原電, 動燃	?	
574+	Current Nuclear Safety Issues in Japan	Hideo Uchida	8604	
575	Prealysis Calculation of the US/UK Joint Experiment in the Dounreay Prototype Reactor	L. Broadhead, N. G. Gove, S. Roman	8605	
1554	発電本部・技術情報件名・ソ連チェルノブイリ原子力発電所事故	原電発電課	8604	
1556	ソ連チェルノブイリ発電所の事故について	原電	8605	
1625	レーニングラードの W-I 原子力発電所 (翻訳)	技術開発部	-	
1557	チェルノブイリおよび TMI 原発災害の教訓より見た原子力発電所 安全対策の再検討		8605	
1559				
1558	ソ連チェルノブイリ原子力発電所の事故のソースタームと想定シ ナリオ Nucleonics Week 5/89 から	原電技術開発部	8605	
1560	事故後1カ月のチェルノブイリ原子力発電所・プリーピャチ川のう ぐいす	ブラウダ 5/26	8605	
576	高速増殖炉開発の今後の進め方について 10 回 1 第 23 回技術企画委員会資料-2-1	高速増殖炉対策会議	8606	
577	高速炉燃料運搬信頼性に関する研究開発	動燃	8607	
578	IIAEA シンポジウム高速増殖炉・経験と展望 1985 年 7 月 22 日~ 22 日 リヨン・フランス(フランス語・ロシア語の邦訳)	動燃	8607	
579	Reactor Engineering Department Annual report JAERI-M86-125	原研	8608	
87	高速炉開発の現状と安全問題の動向 日本機械学会誌 89, 811 (1986)	立花昭	8606	○
90	高速増殖炉開発の現状と安全問題の動向 上の別刷	立花昭	8606	○
1561	ソ連チェルノブイリ原子力発電所の事故について・わが国の軽水 炉は安全か?	電事連	8606	
1562	チェルノブイリ原子力発電所の事故について	原研理事	8606	
1563	チェルノブイリからの警鐘-技術問題を中心に- 「前衛」1986 年 7 月号		8607	
1564	制御できなかった核エネルギー・チェルノブイリ・ケースを読む 「世界」1986 年 7 月号	五木昭郎	8607	
1193	モデル核兵器条約(邦訳・未定稿)	神田賢治	8607	
1526	チェルノブイリ原発事故関連の文書の紹介		86-	
1548	ソ連原発事故をめぐる 雑誌抜粋(文化評論 No.304, 赤旗評論		86-	

	特集版 86-6, エコノミスト)			
1549	チェルノブイリ原子力発電所の所在地, 周辺の人口	日本原子力文化振興財団	86-	
1550	わが国の原子力発電所の安全性とソ連チェルノブイリ原子力発電所事故	科学技術庁	86-	
1551	チェルノブイリ事故についての記事抜粋		86-	
1553	パンフレット: ソ連チェルノブイリ原子力発電所事故原因とわが国の原子力発電の安全性	科学技術庁	86-	
1555	ソ連チェルノブイリ原子力発電所事故と我が国の原子力発電	通産省資源エネルギー庁	86-	
591	チェルノブイリ発電所の事故について 概要・特徴・影響など	IAEA	86-	
1547	原子炉事故評価の歴史		86-	
1482	ドイツ連邦共和国における放射線一事故時の医療体制について「電磁放射線被ばく時の第一時支援」(1976)配布資料	能取敏之	-	
1565	切り抜き: 電気新聞		8608	
580	FBR 実証炉安全設計方針(案)要約	電中研 FBR 実証炉安全設計方針 WG	8608	
581	FBR 実証炉用研究開発項目(案)	原電高速炉開発部	8608	
582	仏 EDF-電気連原子力情報交換会合(第 8 回)報告書(FBR 開発) 高速増殖炉対策会議専門部会 15 回 4 号	電事連	8608	
583	d.e.r.85(EDF研究開発局 1985 年度主要研究成果)	電事連	8609	
584	FBR 実証炉研究開発項目-スケジュールによる分類(代表例)	原電高速炉開発部	8609	
585	研究報告書 高速増殖実証炉の開発に関する研究 1986 年度上半期(中間報告書)	原電	8609	
586	FBR 実証炉用研究開発項目(案)(部門・設置別検討)	原電高速炉開発部	8609	
91	実証炉の建設に伴う, ROD 以外の不確定要素について		8609	
1132	ざ・さいくる 第 29 号	動燃	8609	
1566	NSSR Experiments and Severe Accident Research Results	原研	8610	
923	高速増殖炉もんじゅ発電所建設工事概要	動燃もんじゅ建設所	8610	
587	「もんじゅ」蒸気発生器の動特性解析技術 三菱重工情報 vol.23 No.6 抜刷	動燃・久保田淳, 他 6 人	8611	
588	スーパーフェニックスの起動と高速中性子増殖炉 炉物理実験 SFEN パリ会議 1986.12.10-11	グルードン, シュタルク	8612	
590	スーパーフェニックスの起動と高速中性子増殖炉 炉心のモニター監視と保護 SFEN パリ会議	ボワトリエ, ベルラン, フラン	8612	
592	SFEN シンポジウム スーパーフェニックスの運転試験と高速炉の将来見通し・発表論文集(和文・英文要約)	日本 NYN	86-	
941	Phenix Statup	J. Megy, B. Guillemard, Technicafome .Phenix Project T.LE MARECHAL de France	-	
913	SPX-I の試運転経験		-	
589	高速増殖実証炉 合理化設計研究 崩壊熱除去系設計の比較(タンク型/ループ型)		8612	
1772	原研 1986 年度版	原研	86-	
593	FBR 実用化の見通し及び課題 FBR コストダウンのための研究開発(概要)		86-	
263	実用化展望の評価研究について(中間報告) +		-	○
594	高速炉キーテクノロジーの高度化(1)高速炉燃料の高性能化「原子力工業」vol.32 No10 (1986) 別刷	動燃	86-	
595	記号説明, 日本の高速増殖炉研究開発協力体制		86-	
914	高速増殖原型炉「もんじゅ」	動燃	86-	
892	法令のコピー: 「財政法」p.18~19, 「動力炉・核燃料事業団施行規則」p.51~52 ほか		-	
240	記録帳	立花昭	87-	○
1567	国際通信回線使用コンピューター国際会議「チェルノブイリ事故の教訓」概要	原研	8701	
1568	チェルノブイリ事故の教訓	安斎育郎	8701	
596	Nucleonics Week SPX-I 資料		8701	
597	(案)1987 年度自社研究, 電力共研, 研究計画 第 25 回技術企画委員会資料 3	原電技術開発部	8701	
92	FBR 実証炉研究開発中長期計画展開の基本的な考え方(第一原稿)	原電高速炉開発部・立花昭	8702	○

93	高速実証炉研究開発中長期計画の技術構成について		8702	
267	技術資料: FBR 実証炉合理化設計研究(原電立花部長への DRACS 説明資料(その 2))	三菱原子力	8703	
1626	長周期地震時の DRACS の成立性 添付資料-II			
598	1986 年度高速増殖炉利用システム開発調査報告書 IAE-C8616	エネルギー総合工学研究所	8703	
1569	FBR 配管短縮化技術に関する研究	三菱重工	8704	
1570	一年を迎えるチェルノブイリ原子力発電所事故 プレスリリース No.98	日本原子力文化振興財団	8704	
94	高速実証炉研究開発中長期計画(1987 年~1996 年)	高速増殖炉研究開発運営委員会	8704	
97	原子力発電所の安全問題(メモ)-伊方問題に触れて-		8704	
599	FBR 実証炉の安全設計の概要(ループ型炉/タンク型炉) FBR 実証炉の安全設計方針等検討会第 1 回会合資料		8704	
600	原子炉の固有の安全性について	立花昭	8704	○
601	研究開発説明資料	高速増殖炉研究開発委員会技術部会	8704	
1645	フィージビリティスタディ(1981~1983 年)におけるタンク型 FBR の地震時スロットリング評価概要	電中研耐震構造部	8704	
1571	地震時スロットリング挙動に関する御参考資料	日立	8705	
1572	地震時スロットリング挙動に関する御説明資料	日立	8705	
1573	トップエントリー配管システムの長周期地震動による挙動について	三菱重工	8706	
602	SPX-I 3 か月間停止(資料)	JANUS	8706	
603	NW(Nucleonics Week) June 25. 1987 FBR 関連情報(pp.9~10)	JANUS	8706	
1884+	日本機械学会誌 + チェルノブイリ事故資料		8706	
604	SPX-I 燃料貯蔵タンクの欠陥に関する情報について		8707	
605	SPX-I 関連情報 フランス首相、個人の立場で SPX-I 論争に加わる	JANUS	8707	
606	2 重管蒸気発生器の DOE との共同研究に関する契約交渉について 高速増殖炉対策会議専門部会資料	原電	8707	
608	高速増殖炉中長期研究開発計画(案)	高速増殖炉研究開発運営委員会	8707	
917	IHI/パンフレット: 耐震設計 8408-1000	石川島播磨重工業技術研究所耐震開発部	-	
949	安全評価上の耐震評価について FBR 安全設計分科会資料	原電・東芝	-	
1636	振動研究の概況	三菱重工技術本部神戸研究所	7310	
1637	免震・除振ゴム	三菱重工技術本部神戸研究所	8612	
1574	原子力発電所積層ゴムの検討 資料 2-8	(株)ブリヂストン	8708	
1638	パンフレット: マルチラバーベアリング	ブリヂストン	-	
1640	積層ゴムベアリング 資料-1	ブリヂストン新事業開発室 芳沢利和	-	
1639	建物免震用の積層ゴムに関する実験的研究 機械学会論文講演 86-05728 資料-11	藤田隆史、藤田聡、ほか	-	
1641	FBR 免震設計推進のための方策案	加藤	-	
1642	FBR 免震に関する R&D の状況		-	-
1643	原子力における免震構造の現状 1642 と重複部分あり		-	
1649	パンフレット: シミズ免震システム	清水建設	8708	
1080	大型二方向地震振動台	三菱重工技術本部神戸研究所	-	
1647	高速増殖炉「もんじゅ」の原子炉容器の耐震研究 ISES192G		-	
1648	海外の原子力施設耐震設計の現状 動力炉技報 No.6 (1972.12) 別刷	加藤宗明	-	△
609	FBR 実証炉安全関係研究開発計画(まとめ)		8708	
610	仏 EDF-電事連原子力情報交換会合(FBR 開発第3回)報告書(概要編)	電業連	8708	
611	原子力開発利用長期計画(1987 年 6 月 22 日)へのコメント	立花昭	8708	○
612	SPX-I 関連情報(Nucleonics Week 1987.8.13)		8708	
613	仏 EDF-電事連原子力情報交換会合(FBR 開発第3回)報告書(各論編)	電事連	8708	
931	高速増殖実証炉タンク型炉合理化設計研究 パンフレット	東芝、日立	8709	
899	高速増殖実証炉タンク型炉合理化設計研究(資料)		-	

614	原電立花部長殿への補足説明資料 1.炉壁冷却 2.回転プラグ シール	三菱重工	8709	
615	FBR 実証炉の安全設計方針等検討会 第 4 回会合資料 No.2~ No.11		8709	
616	海外出張報告書(速報)	岩越米助他	8709	
1425	原電 30 年の歩み	原電	8710	
617	FBR 合理化の革新的技術に属するものとしてメーカー3 社から選 出されたアイテムについて	JAPC・FBR	8710	
618	日本の FBR 開発の概況	立花昭	8710	○
619	ライニング設備 FBR 連絡会用資料	もんじゅ工事監理事務所機械課	8710	
620	革新的燃料交換方式(ホットセル型等)のフィージビリティ概略見 通し 部内資料高開-D-01	原電高速炉開発部研究開発グ ループ	8710	
621	表: FBR 新技術 F/S 一覧(I)		8710	
623	燃料ピン外径の選定の考え方について(案)と付属資料		8710	
622	Mod.9Cr-1Mo 鋼の開発に関する DOE の共同研究提案への対応 方針について(案)	原電高速炉開発部	8710	
628	Mod.9Cr-1Mo 鋼の開発に関するDOEの共同研究提案への対応 について(案)	原電	8711	
95	メモ: FBR 実証炉格納容器の考え方(検討用)	東電・出沢	8711	
607	FBR 実証炉研究開発の評価 高速増殖炉対策会議資料	原電技術開発本部高速炉開発 部	8711	
624	FBR 核燃料サイクル研究開発の現状と展望等(その 1~その 3)	動燃	8711	
625	FBR 関連委員会の活動状況について(報告)	電事連原子力部	8711	
626	「FBR 実証炉の安全設計方針等検討会」第7回資料		8711	
627	1988 年度国内 4 機関の実証炉関連研究計画について 高速増殖炉研究開発運営委員会企画部会資料	高速増殖炉研究開発運営委員 会技術部会	8711	
629	動燃における高速増殖炉安全研究(1986 年度)	安全研究委員会 FBR 分科会, 動 燃	8711	
630	高速増殖実証炉の開発に関する研究 昭和62年度上半期(研究 進捗状況)	原電高速炉開発部	8711	
631	FBR 実証炉における立地評価事故と格納施設の考え方の整理	三菱原子力・沢田隆	8712	
632	FBR C/V 検討会 前回論点の整理		8712	
633	「1987 年度軽水炉と高速増殖炉との安全性比較研究」 第 3 回高速炉安全研究調査専門委員会資料	斎藤(原電)	8712	
634	放射性物質の移行挙動に関する安全研究の現状と今後の課題 第 3 回高速炉安全研究調査専門委員会資料		8712	
635	炉心異常検知に関する安全研究の現状と今後の課題 第 3 回高速炉安全研究調査専門委員会資料	国内外の高速炉安全研究及び 規制の動向に関する調査専門委 員会	8712	
636	高速増殖炉中長期的研究開発(案)について 資料 7-2	高速増殖炉研究開発運営委員 会	8712	
637	高速増殖炉技術の現状と将来の展望	原子力学会「高速増殖炉工学」 研究専門委員会	8712	
96	FBR 新技術F/S検討委員会の設置について	(財)エネルギー総合工学研究所	8712	
648	第 8 回「FBR 実証炉の安全設計方針等検討会」用資料		8712	-
638	金属燃料 FBR サイクル開発の現状と課題(2)「原子力工業」 vol.33 No6 p.40-52 コピー	常磐井守泰, 他5人	87-	
639	高速増殖炉開発計画専門部会基礎調査分科会(第 6 回)議事要 旨(案) 資料 7-2	高速増殖炉開発計画専門部会	87-	
641	FBR 実証炉の安全設計・評価指針作成に係る外部委員会につい て(案)		87-	
944	「中長期研究開発項目(案)」「(S62.9)と「FBR 実証炉長期 R&D」 (S59.9)の所要資金比較		-	
643	高速増殖炉におけるトラブルのまとめ 資料 3-2-27		87-	
644			87-	
645	通産省受託調査 FBR 用新型燃料に関する調査報告 概要書 (案)	電中研	87-	
646	第 6 回「FBR 実証炉の安全設計方針等検討会」用資料		8710	
1579	1987 年度安全性研究・環境安全性研究合同懇談会(原研)	原研	87-	
647	昭和 62 年度 FBR 関係電力共通研究成果について(OHP 用資料)		87-	

640	昭和 62 年度大型炉設計主要目に関する研究(実施内容)	動燃	87-	
642	1987 年度軽水炉と高速増殖炉との安全性比較研究(関連資料)		87-	
241	記録帳	立花昭	88-	○
1133	ざ・さいくる 第 30 号	動燃	88-	
1575	国内代表的 PWR プラントの確率的安全評価	関電	8801	
649	システム化検討 現状と問題点, 対応策(表)		8801	
650	「革新的技術を含めたシステム化検討」-現状と問題点, 対応策の要約 技術部会資料	高速増殖炉開発運営委員会	8801	
651	IEF Report 西独のプルトニウム利用戦略とFBR 開発	国際エネルギー政策フォーラム	8801	
652	実証炉用高温構造設計方針の検討状況について 付「実証炉用構造設計基準作成の進め方(案)」(87-12-22)	原電技術開発本部高速炉開発部	8801	
654	「高速増殖炉」に関する研究-主な成果と今後の計画 原子力研究推進会議資料 No.2	電中研	8802	
653	同上- 図表集	電中研	8802	
1576	負荷追従運転と核燃料の健全性	原研・館野	8802	
1712	電力系統における発電出力調査	赤塚夏樹	8802	
655	設備使用の比較	第2回高速炉安全規準調査専門委員会	8802	
656	第 6 回拡大技術部会, 第2回研究開発評価検討会 議事次第(案)・プログラム	動燃	8802	
657	原電における実証炉研究開発の成果(1)-第16回技術部会 第2回研究開発評価検討会資料 16-4	原電	8802	
658	電中研における実証炉研究開発の成果(1)-第16回技術部会 第2回研究開発評価検討会資料 16-6	電中研	8802	
659	「研究開発評価会」について	高速増殖炉研究開発運営委員会技術部会	8802	△
660	高速増殖炉研究開発に係わる各種委員会等の活動状況について	高速増殖炉研究開発運営委員会事務局	8802	
661	原研における実証炉開発の成果(1)-第16回技術部会第2回研究開発会議評価検討会資料	原研	8802	
662	原研における実証炉開発の成果-第16回技術部会第2回研究開発会議評価検討会資料	動燃	8802	
663	FBR の安全設計方針に関する海外調査報告(速報)	原電高速炉開発部, 斎藤毅	8802	
909	通産省受託調査 FBR 用新型燃料に関する調査報告(欧州における金属燃料研究の調査)-ヨーロッパの見解のまとめ] S62 年度 J/C 18-1(2)	電中研	8803	
1580	国内外の高速炉安全研究及び規制の動向に関する調査 動燃委託研究成果報告書	原安協(高速炉安全研究調査専門委員会)	8803	
1581	原子力発電所の安全評価-安全評価指針の解説-	電中研・武越	8803	
1287	原子力利用の夢広げる高温ガス炉	原研	8803	
664	研究報告書 高速増殖実証炉の開発に関する研究 昭和 62 年度最終報告書(要約) 高速増殖炉対策会議専門部会資料	原電	8803	
665	高速増殖炉もんじゅ発電所 各社分担		8803	
666	FBR 実証炉の安全設計・安全評価上, 今後検討の必要な事項		8803	
667	高速増殖炉中長期的研究開発課題(案)について 第9回基礎調査分科会説明資料	高速増殖炉研究開発運営委員会	8803	-
668	昭和 63 年度技術開発計画(案)	電事連・原子力開発対策会議, 中電協・技術開発推進会議	8803	
669	軽水炉と高速増殖炉の安全性比較研究	東工大原子炉研・藤家洋一	8803	
935	過去 5 年間の安全性試験からの知見 講演補足資料(7/4)	東工大藤家	-	
670	高速増殖炉の炉型選択に関する基礎研究耐	震設計部会 柴田碧	8803	
671	近藤俊介東京大学教授に聞く 高速増殖炉と推進体制 共同推進体制をいかにして構築するか		8803	
672	もんじゅ発電所1次主冷却系循環ポンプ工場水試験御見学資料	日立	8803	
673	1989 年度新規テーマ(案)一覧表	原子力工学試験センター	8803	
2004	今後の検討予定項目(63 年度) 実証炉 1 号機炉心の検討他		88-	
674	先行炉(「もんじゅ」等)を活用した研究開発について(素案その1)	原電技術開発本部高速炉開発部・高速炉建設部	8803	
675	FBR 実証炉の開発に係わる大規模研究説明資料 高開-c-05	原電高速炉開発部	8803	
676	次期年次計画の研究課題抽出に関するアンケート結果	原安協	8803	

	第 6 回高速炉安全性研究調査専門委員会資料			
677	1988 年度高速増殖実証炉の開発に関する研究 第 9 回基礎調査分科会資料	原電	8803	
678	実証炉の熱流動, 機器システムの検討・評価	電中研 FBR プロジェクトチーム	8804	
679				
102	高速増殖炉の安全問題について	原電高速炉開発部 立花昭	8804	○
680	動燃-原電 高速増殖実証炉の研究開発に関する技術協力基本 基本協定(J-P 協定)案について	原電	8804	
681	高速増殖炉技術確証試験の現状	電中研	8804	
682	1987 年度 FBR 研究の進捗状況について	電中研 FBR プロジェクトチーム	8804	
683	1988 年度原子力関連予算(資料)	原電技術開発本部技術企画部	8804	
684	原子力工学試験センターの概要について	原電技術開発部	8804	
685	日欧 FBR 協力(フランス CEA 原子力技術本部長 Lallement との会 談メモ)		8804	
686	第7回(拡大)技術部会, 第3回研究開発評価検討会<"実証炉1 号ヒートバランス"の全体討論と司会者まとめ>技術部会		8804	
687	実証炉1号のヒートバランスに関するシステム化検討結果 高速増殖炉研究開発運営委員会技術部会資料	原電	8804	
688	「実証炉1号のヒートバランスに関するシステム化検討結果」に対 する R&D 成果に基づくコメント 高速増殖炉研究開発運営委員会 技術部会資料	動燃, 電中研	8804	
689	タンク型炉の熱流動 技術部会資料	電中研	8804	
690	FBR の核燃料サイクル技術開発(現状と展望) 高速増殖炉研究 開発運営委員会企画部会 資料 20-3	FBR 運営委員会企画部会・菊池 三郎	8804	
691	事故時の燃料挙動 高速増殖炉研究開発運営委員会技術部会 資料	動燃, 原研	8804	
692	第5回研究推進委員会(4/22)の報告	技術計画部・栗原	8804	
98	高速増殖炉の安全問題	原電高速炉開発部・立花昭	8804	○
1426	原子力発電に関する疑問に答えて	電事連	8804	
693	第 4 回原子力委員会高速増殖炉開発計画専門部会(議事要旨)		8805	
694	シュラウドインデューサポンプの研究 経過報告	川崎重工	8805	
695	シュラウドインデューサポンプの研究 一般説明	川崎重工, ロックウェル・インター ナショナル社	8805	
696	シュラウドインデューサポンプの研究の現状	川崎重工工業, ロックウェル・インター ナショナル社	8805	
697	米国 LMR 開発の現状の動向	川崎重工, ロックウェル・インター ナショナル社	8805	
698	FBR 関連委員会の状況について 高速増殖炉対策会議専 門部会資料	電事連原子力部	8805	
1578	放射線で生ずる急性死亡の線量「エネルギーレビュー」1988 年 5 月	放医研総括安全解析研究官	8805	
1582	電気新聞切り抜き: チェルノブイリ発電所事故		8805	
原電定年. 原電囑託 (1988~1993)				
99	日本の港に停泊した軍艦における核事故	環境研所長 W. ジャクソン. デイ ビス博士	8806	-
246	第 3 回研究開発成果検討会	立花昭	?	○
1713	原子力代替電源(原動力)の可能性について	本島勲	8806	
1577	チェルノブイリ事故の健康への影響-食品中の放射能とその健 康障害のリスク	放医研総括安全解析研究官 小 林定善	8806	
700	第 22 回 F 専議事メモ		8806	
699	第 38 回 F 専議事要旨	高速炉開発部	8806	
701	実証炉の熱流動, 機器システムの検討・評価(その 2)	電中研 FBR プロジェクトチーム	8806	
907	FBR プラントへのペローズ適用		-	
702	第5回高速増殖炉開発専門部会議事概要		8806	
703	高速増殖実証炉の開発にかかる62年度電力共研のうちメーカー 等との共同研究及び委託研究の成果について		8806	
704	炉壁保護構造に関する欧州の動向	原電 岡林	8806	
705	シュラウドインデューサポンプおよび改良型従来ポンプの開発の 現状	原電技術開発本部高速炉開発 部・芹沢君芳	8806	

706	システム化検討における1次主循環ポンプ設計の現状	原電技術開発本部高速炉開発部・植原信幸	8806	
707	高速増殖炉研究開発運営委員会技術部会 第4回研究開発評価検討会資料(中間熱交換器及び一次主循環ポンプ)	原電, 動燃, 電中研	8806	
708	高増殖高燃焼高速炉 -FPガスバージ/チューブインシェル型金属燃料高速炉の提案 JAERI-M 88-098	平岡徹, 迫淳, 他2名	8806	
895	高速増殖炉研究開発の進め方(骨子)(案) 基礎調査分科会資料 10-5 下書き		-	
709	高速増殖炉中長期研究開発課題(案) 1987年度実施概要	高速増殖炉研究開発運営委員会技術部会	8807	
710	大型炉心臨界実験の現状と今後の課題	高速炉開発部炉心・燃料Gr	8807	
711	高速増殖炉中長期研究開発課題(案) -昭和63年度実施計画-	高速増殖炉研究開発運営委員会技術部会	8807	
712	高速増殖炉の研究開発について 高速炉研究開発運営委員会資料 7-9	高速増殖炉研究開発運営委員会技術部会	8807	
713	高速増殖炉研究開発の進め方(案) 資料第13-2	原子力委高速増殖炉開発計画専門部会基礎調査分科会	8807	
714	参考資料(案) 資料第12-3	原子力委高速増殖炉開発計画専門部会基礎調査分科会	8807	
898	第11回FBR実証炉技術部会資料 資11-2		?	
900	FBR一般設計分科会資料 2.5安全機能と信頼性確保の方策		?	
950	運転状態分類 FBR建築構造専門部会資料 2-1		?	
715	研究開発成果評価検討会 -第1回~第4回の概要	高速増殖炉研究開発運営委員会技術部会	8807	
716	Japan-USSR seminar on FBR Fuel Breeding Problemsw - Texts of speakers	JAIF-USSR stare Committee for the Utilization of Atomic Energy	8807	
1583	原子力施設等安全研究調査票	科技庁原子力技術振興課	8808	
1979	陽子さんの愛はエネルギー	原電広報部	8808	
717	第41回F専議事メモ		8808	
718	第42回F専議事メモ		8808	
719	4機関(原電, 動燃, 電中研, 原研)の昭和62年度 研究開発実施概要報告書		8808	
720	運営委員会における燃料サイクル検討の経緯	原電技術計画部 増田	8808	
721	FBR燃料サイクルに関する社内打ち合わせについて	原電技術計画部	8808	
927	FBR燃料固有の特徴		?	
722	運営委員会における燃料サイクル検討の経緯		8809	
723	基本仕様に関する電事連FBR専門部会の審議状況	高速炉開発部	8809	
724	水炉/FBRソースターム評価・研究に関する比較	ソースターム評価・研究ワーキンググループ	8809	
725	FBR安全性におけるソースターム評価・研究	動燃・姫野嘉昭, 三宅収	8809	
726	藤家教授のソース・タームに関する考え方について(メモ)	原電技術開発本部・立花昭	8809	○
727	日米間の高速炉の研究開発協力に関する覚書の交換について	高速増殖炉研究開発運営委員会	8809	
728	FBR炉心設計と燃料サイクル開発の整合体について(試案)	立花昭	8809	○
729	FBR炉心設計と燃料サイクル開発の整合体	原電・立花昭	8809	○
730	会合報告書(通産省・高速増殖炉安全評価検討会(第5回)) 配布資料	原電高速炉開発部安全Gr	8809	
731	高速増殖炉(FBR)開発の現状と将来	原電・立花昭	8809	○
732	FBR実証炉の安全設計方針について(案)	原電高速炉開発部安全Gr	8809	
733	超電導-電磁流体技術のFBRへの適用に関するフィージビリティ研究	動燃	8809	
734	主要仕様概念に関する比較検討資料 高開-B-2	原電高速炉開発部	8809	
2011+	1988年度軽水炉と高速増殖炉との安全性比較研究 第1回研究委員会 プログラム, 議事次第 その他		8809	
2000	FBRの物量について FBR実証炉と軽水炉との比較。2011にも同じものあり	岡林	-	
735	タンク型炉およびループ型炉の保安補修性について	原電	8810	
736	軽水炉・高速増殖炉の安全性におけるエナージェティクス評価・研究 「63年度軽水炉と高速増殖炉との安全性比較研究」第2回研究委員会資料	エナージェティクス評価WG	8810	

737	高速増殖炉もんじゅ建設の現状	原電もんじゅ工事監理事務所	8810	
1585	原子力安全10年のあゆみ	原子力安全委員会	8810	
100	ソ連崩壊後の核拡散の現状について	立花昭	8810	○
738	会合報告書(通産省・高速増殖炉安全評価検討会(第6回))	原電高速炉開発部安全Gr	8811	
1427	海水ウラン回収システム技術確証調査研究成果発表会「海洋溶存資源とその未来」講演資料	金属鉱業事業団	8811	
1714	これからのエネルギー源	海水ウラン金属鉱業事業団	8811	
739	高速増殖炉安全設計におけるシビア・アクシデントの影響	三菱原子力工業・沢田隆	8811	
740	1988 年度軽水炉と高速増殖炉との安全性比較研究 第3回研究委員会資料 - 原子力システムの安全確保の考え方 -	東工大森田毅, 電中研佐賀山豊, 小竹庄司	8811	
741	FBR 安全の考え方 「63 年度軽水炉と高速増殖炉との安全性比較研究」第3 回研究委員会資料	東工大森田毅, 電中研佐賀山豊, 小竹庄司	8811	
742	仏EDF- 電事連原子力情報交換会合(FBR 開発第4回) 報告書(概要編)	電事連	8811	
743	第6 回研究開発成果評価検討会発表概要	高速増殖炉研究開発運営委員会	8811	
103	大型高速炉炉心の静的核特性とウラン238核分裂効果の評価	立花昭 鈴木聖夫 川島正俊	8811	○
744	第27 回F対メモ		8812	
745	FBR 燃料サイクルの課題と展望(中間報告)	動燃	8812	
746	「FBR 実証炉の安全設計方針等検討会」の63 年度審議経過	FBR 実証炉の安全設計方針等検討会	8812	
747	第49 回F専メモ		8812	
748	第33 回FBR 技術委員会議事メモ		8812	
749	資料:クレイ・マルビル発電所	フランス電力庁	8812	
1980	金属燃料とその炉心特性について	電中研 FBR プロジェクトチーム	8812	
1587	講演会 ソ連の原子力政策について	日本原子力文化振興財団	8812	
750	FBR 実証炉の昭和63年度の研究開発について		88-	
751	1988 年度事業計画	原子力工学試験センター	88-	
752	FBR 協力に関する米国 DOE と日本の高速増殖炉研究開発運営委員会との打ち合わせ概要	高速増殖炉研究開発運営委員会	88-	
753	中長期課題 大規模研究開発(資料ファイル)		88-	
754	高速炉キーテクノロジーの高度化(Ⅱ)「原子力工業」別刷り	動燃	88-	
755	原研におけるFBR 研究開発予算 企画部会資料14 回-4-3	高速増殖炉研究開発運営委員会	88-	
756	表:電気事業における研究費, 主要課題別研究費の推移		88-	
757	基本仕様項目別状況		88-	
758	高速増殖炉の安全性に関する研究	動燃	88-	
759	大型研究課題に関する検討結果について	FBR 技術委員会	88-	
1286	安全審査・建設・運転スケジュール		88-	
101	主要国における1次エネルギーの生産量及び消費量など 国連「世界エネルギー統計旬報」(1989)より	旬報社	88-	
104	日本原子力学会誌 投稿原稿査読結果報告	立花昭	8901	○
760	スーパーフェニクス運転再開の経緯	原電高速増殖炉開発部	8901	
893	The French Safety Authorities 「Nucl. Safety」27(3) p.332		-	△
761	高速増殖炉のレベル1PSA 「軽水炉と高速増殖炉との安全性比較研究」委員会	動燃・可児吉男	8901	
762	国内代表的 BWR プラントの確率論的安全評価について	東京電力	8901	
782	海外出張報告 高速炉安全研究及び規制動向に関する欧州調査 PNC N2600 89-001	動燃	8901	
783	免震研究の現状と課題について 高速増殖炉対策会議資料	FBR 専門部会	8901	
784	第28 回F対メモ		8901	
785	第50 回F専メモ		8901	
786	FBR 実証炉格納施設の仕様と設計条件について	原電技術開発本部高速炉開発部安全Gr	8901	
787	薄肉構造物座屈評価技術確証試験の中間報告 高速増殖炉技術確証試験実施委員会資料	電中研	8901	
788	FBR 実証炉格納施設の仕様と設計条件について	原電高速炉開発部(安全Gr)	8901	
789	第51 回F専メモ		8901	
790	会合報告書(通産省・高速増殖炉安全評価検討会 第7回)	原電高速炉開発部安全Gr	8901	
1595	原発労働者の染色体異常に関する報道について	東電	8901	

763	高速増殖炉についての確率論的安全評価の実施 昭和62年度「原子力安全研究成果報告会資料(確率論的安全評価等に関する研究)」	動燃・可児吉男	8902	
764	地震リスク評価	電源開発	8902	
1075	日本原子力発電東海発電所の自動停止の原因と対策について		8902	
105	「確率論的安全評価研究」報告会	原電技術開発本部・立花昭	8902	○
791	第34回FBR技術委員会議事メモ		8902	
792	第52回F専メモ		8902	
793	原子力発電所への航空機落下について(案)	原電	8902	
794	HGDA 対応について(検討用メモ)	原電	8902	
795	第53回F専メモ		8902	
796	研究報告書 高速増殖実証炉の開発に関する研究	原電	8903	
797	第30回F対メモ FBR 専門部会の審議状況について		8903	
798	FBR 専門部会の審議状況について	電事連原子力部	8903	
799	保守・補修性の検討状況について	FBR 専門部会	8903	
800	第54回F専メモ		8903	
801	崩壊熱除去系の多様性について(検討用メモ)	原電高速炉開発部安全Gr	8903	
802	「実証炉の構造設計方針について」及び付属資料(高速原型炉第1機器の高温構造設計指針S59.4 他)	原電技術開発本部高速炉開発部	8903	
803	炉型比較の検討結果について(案)	原電	8903	
804	FBR の技術的問題と将来性	立花昭	8903	○
805	第31回F対メモ	立花昭	8903	○
806	高速増殖炉開発の課題(メモ)	原電・立花昭	8903	○
807				
808	第36回FBR技術委員会議事メモ		8903	
106	Nuclear Static Behaviours and U238 Fission Effect in Large Volume Cores of LMFBR		8904	
812	大型高速炉炉心の静的核特性とウラン 238 核分裂効果の評価	立花昭, 鈴木聖夫, 川島正俊	8904	○
809	メーカー意見		8904	
810	第56回F専メモ		8904	
811	第37回FBR技術委員会議事メモ		8904	
813	第57回F専メモ		8904	
814	実証炉の原子炉格納施設について(案)	日本原子力	8904	
107	日本原子力学会誌 投稿原稿査読結果報告		8905	
815	FBR 実証炉の格納施設について	原電技術開発本部高速炉開発部	8905	
816	これからの原子炉開発:課題と目標	東大工 近藤敏介	8905	
765	研究論文:地震による制御棒の上下動と大型高速炉心の安全限界	立花昭	8906	○
767	「クレイ・マルビル発電所」の概要(EVST の Na 漏洩発生からその対策までの経緯) 高開-D-04	原電高速炉開発部	8907	
766	日ソ高速炉炉心設計・炉物理セミナー原産代表団ハンドブック	原産	8907	
768	JAIF-GKAE Seminar on Calculation and Experiments on Physical Problems of Designing FBRs - Texts of Japanese Presentations	JAIF and USSR Committee for Utilization of Atomic Energy	8907	
769	Calculation and Experiments Investigation on Physical Problems of LMFBR Design	V. I. Matvyev, I. P. Matovenko	8907	
772	BN-350 原子炉の炉物理プロセス用数学モデルと運転・実験調査用管理コード・システムなど (要約)	立花昭	8907	○
902	日ソ高速炉炉心設計・炉物理セミナーレポート(案)	東芝・鈴木聖夫	89-	
770	日ソ高速炉炉心設計・炉物理セミナー原産代表団団員名簿	原産	8907	
771	日ソセミナー報告書原稿	動燃大谷	8911	
817	ソ連側発表論文の概要			
818	日ソ高速炉炉心設計・炉物理セミナー原産代表団報告書	原産	8909	
775	日ソ高速炉炉心設計・炉物理セミナー原産団報告書(部分)	原産	89-	
777	「日ソ高速炉炉心設計・炉物理セミナー」に関する報告	原電立花昭	89-	○
780	日ソ高速炉・炉心設計・炉物理セミナーに関する報告 上の1部	原電立花昭	89-	○
774	海外出張報告(日ソ高速炉炉心設計・炉物理セミナー)	原電技術開発部立花昭	89-	○
896	ソ連における高速炉臨界実験装置		-	
951	BFS-S2 臨界集合体シリーズによる非均質炉心模擬炉心の臨界実験及びその解析	オブニクス物理エネルギー研究所 S. P. バロフ	-	

952	FP ガスパージ／チューブインシェル型金属燃料集合体を用いた高増殖高速炉	原研・中野正文	-	
929	総括討論とソ連側発表論文		-	
781	日ソセミナー報告書原稿		89-	○
776	世界の1次エネルギー、および電力に関する国連統計(1988年実績)の分析	小森治郎	89-	
108	制御棒上下動解析モデルについて	東芝・遠藤	8909	
1646	炉心設計検討 - 制御棒上下動時炉心応答解析 -	東芝	-	
259	地震による制御棒の上下動と大型炉炉心の安全問題	立花昭, 鈴木聖夫, 遠藤寛	-	○
109	研究論文: 地震による制御棒の上下動と大型高速炉炉心の安全限界	立花昭	8909	○
249	和文抄録 (上記論文の抄録)	立花昭	-	○
819	原子力発電所各サイトにおける基準地震動波形について		8909	
1586	原子力安全性研究の現状	原研	8910	
2003	SPX 近況	原電技術開発本部・中川	8910	
110	ポンプモデル調査結果について	動力炉開発部・遠藤	8911	
1597	シビアアクシデントのリスク: 5基の米国原子力発電プラントに対する評価 NUREG-1150 First Draft, Vol.1	原安協(原子力安全目標調査専門委員会)訳	8912	
1584	日米WR研究日本委員会研究活動報告書	日米WR研究日本委員会	8912	
1525	チェルノブイリ原発事故について		89-	
1589	1989年度原子炉安全性分析研究		89-	
1590				
1593	安全を一層高めるために I 原子炉の安全を高めるしくみ	原研	89-	
1592	安全を一層高めるために II 燃料の安全を高めるしくみ	原研	89-	
1588	安全を一層高めるために III 燃料を再利用するしくみと安全性	原研	89-	
1591	安全を一層高めるために IV 環境を放射線から守る努力-原子力施設からの影響を監視するために-	原研	89-	
1615	安全を一層高めるために V 環境を放射能から守る努力-放射性廃棄物の後始末のために-	原研	89-	
1596	安全性を一層高めるために VI 将来を目指した安全研究	原研	89-	
1594	安全を一層高めるために -ジェリー博士・原研の安全性研究を語る-	原研	89-	
773	FBR 実証炉の研究開発 付 S63 年度研究計画一覧表案		8710	
778	第 29 回高速増殖炉対策会議議事要旨(案)		89-	
779	別紙-4 トップエントリー配管の機能確保について F 専(89/4/19)資料		8904	
1992	海水	徳永芳郎	89-	
111	論文に対する近藤先生のコメント	立花昭	9001	○
2001	Hot Pool		9001	
821	FBR 燃料サイクル社内検討会	原電技術開発本部・立花昭	9001	○
822	FBR 燃料サイクル		9001	
823	動力炉・開発事業団大洗工学センターの原子炉の設置変更(高速実験炉原子炉施設の変更)に係る安全審査書案	科学技術庁	9002	
824	大洗工学センター原子炉設置変更許可申請書(高速実験炉原子炉施設の変更)本分及び添付書類	動燃	9002	
1291	高温ガス炉の開発動向	技術開発部	9002	
112	高速炉の安全規制に関する調査(科技庁委託調査)	原安協	9002	
1076	東海第2発電所原子炉施設保安規定	原電	9003	
1077	敦賀発電所原子炉施設保安規定	原電	9003	
825	高速炉燃料再処理技術開発-開発の現状と今後の展望	動燃	9003	
826	FBR 用 MOX 燃料加工技術-開発の現状と今後の展開	動燃	9003	
1601	原子力安全性研究用語集	原研	9004	
1600	1988 年度緊急技術助言対応技術調査に係わる海外調査(欧州編) JAERI-memo 02-105	原研	9005	
113	ソ連の高速炉発電所 BN-600 の現状	原電・立花昭	9005	○
820	高速増殖炉工学基礎講座(上) 原子力工業 35(3)-36(1)抜刷	日刊工業新聞社	90-	
827	原子力工業 36 巻 5 号 特別記事 1 いまなぜ原子力か 特別記事 2 ソ連ベロヤルスク発電所-運転状況と安全性	日刊工業新聞社	9005	
828	軽水炉使用済み燃料のTRU分離再処理技術について	電中研 服部	9005	
829	Electricity Fuels Economic Growth		9006	

1134	FBR 金属燃料サイクル技術—その魅力と実現性 PartⅢ金属燃料炉心設計検討と安全評価の現状 原子力工業第36巻第6号		9006	
1135	金属燃料サイクル5つの特長	電中研・服部禎男	9006	
918	高速増殖炉原型炉「もんじゅ」建設のあらまし 未来のエネルギー確保のために	動燃	9006	
932	高速増殖炉の開発	動燃	-	
933	高速増殖炉の開発	動燃	-	
934	高速増殖炉の開発	動燃	-	
926	高速増殖実証炉1号	原電	-	
1598	シビアアクシデントのリスク:5基の米国原子力発電プラントに対する評価 NUREG-1150 Second Draft, Vol.1.2	原安協(原子力安全目標調査専門委員会)訳	9006	
830	大型高速炉炉心の passive safety に対するGEM(gas expansion module)効果の検討について	立花昭	9007	○
114	第1回説明資料	電中研柏江研 FBR 部金属燃料研究室	9008	
115	科学技術の発達と原子力開発	原電社長室・立花昭	9008	○
831	FBR 大型炉心の passive safety 特性についての検討(案)	原電・立花昭	9009	○
832	固有安全性検討会資料 1-0			
833	「高速炉大型酸化炉心の passive safety 特性」について 第1回討議要約	立花昭	9009	○
834	将来に向けての原子力戦略	英ニュークリアー・エレクトリック社会長・J・Gコリアー	9009	
1773	原研の特許一覧 —1989年度出願・登録特許の紹介—	原研	9009	
1599	原子力施設等安全研究年次計画	原子力安全委員会原子施設安全研究専門部会	9009	
1136	敦賀1号機 MOX 燃料の照射実績について MITI 顧問会燃料部会報告資料	技術開発部	9009	
1137	核燃料サイクルと動燃	動燃	9009	
1078	原電便覧	原電	9010	
116	高速増殖炉大型酸化炉心の passive safety 特性について 第2回討議要約	立花昭	9010	○
835	高速炉大型酸化炉心の passive safety 特性について 第2回討議要約 資料 3-0	立花昭	9010	○
837	高速炉大型酸化炉心の passive safety 特性について 第3回討議要約 資料 4-0	立花昭	9011	○
838	高速炉大型酸化炉心の passive safety 特性について 第4回討議要約 資料 5-0	立花昭	9011	○
836	「もんじゅ」試運転計画概要	動燃動力炉建設運転本部	9011	
839	FFTF に関する国際協力について	原電技術開発本部・立花昭	9011	○
840	「EFRUG/FEPC—Meeting」に関する資料ファイル (EFR —Progress since autumn 1989)		9011	
841	原子力開発の課題と展望	東大工・近藤俊介	9012	
1290	特別講演 多目的高温ガス炉から高温工学試験研究炉へ	原研顧問・村田浩	9012	
1627	安全設計審査指針(改訂版)について	-	-	
845	Suggestion a list of items on performance experience of the reactor BN-600 power unit 東電 三井氏より		9101	
846	日本におけるプルトニウムバランスについて	FBR 長期開発戦略検討ワーキンググループ	9101	
850	日本におけるプルトニウムバランスについて 高速増殖炉対策会議資料	FBR 長期開発戦略検討ワーキンググループ	9104	
1981	反アパルトヘイトニュース No.32	アフリカ行動委員会	9101	
1907	日本平和学会 会員名簿	日本平和学会	9102	
847	高速増殖炉もんじゅ発電所建設工事概要	動燃高速増殖炉もんじゅ発電所	9103	
849	高速増殖炉「もんじゅ」発電所総合機能試験概要	動燃高速増殖炉もんじゅ建設所運転準備室	9103	
851	ソ連 FBR BN-600 炉の調査について 専門部会資料	FBR 専門部会	9104	
852	ペロヤルスク(BN-600)発電所の運転経験情報入手のコメント(ソ連側提供資料に基づく)	原電技術開発本部・立花昭	9104	○
848	主要安全設備の設計方針について	FBR 安全設計方針WG	9104	
122	主要な安全設備の考え方(改定案—1991年4月)へのコメント	立花	9104	○

1602	チェルノブイリ事故から5年		9104	
853	特許出願－高速増殖炉の炉心構造－	原電	9105	
1777	原研 35 年のあゆみ	原研	9106	
854	高速増殖炉もんじゅ発電所建設工事機器据え付け完了報告会資料		9106	
855	もんじゅ学園出身母体別名簿(建設協力及び運転協力)	原電高速炉建設部, もんじゅ工事監理事務所	9106	
1292	大型構造機器実証ループ(HENDEL)	原研	9107	
1604	苛酷事故(主として LMR)		9107	
856	European Fast Reactor に関する資料 (英文)		9107	
6	実用化展望の評価研究について(中間報告)	原電高速炉開発部	9108	
123	基礎調査分科会での検討事項について		9108	
124	実証炉主要系統の安全設計方針について(国の委員会での説明方針について)	原電研究開発本部高速炉開発部	9108	
125	FBR 免震設計に関する研究開発の状況について	電中研	9108	
126	第 96 回高速増殖炉対策会議専門部会 議事次第		9108	
127	FBR 開発に係る EFRUG-EDF との情報交換会合について	電事連原子力部	9108	
128	ソ連BN-600 運転経験等調査計画について(案)	電事連原子力部	9108	
1605	米国における苛酷事故関連研究・規制に関する調査 平成 3 年度上半期中間報告書	日本 NUS	9109	
1982	アンチアパルトヘイトニュースレター No.40	アフリカ行動委員会	9109	
1983	国連平和維持活動に関する東京会議 (1991.9.3-4) 報告書	国連大学	9109	
129	実証炉予備的概念設計研究の検討状況について(案)	FBR 専門部会	9109	
130	設計基準外事象の位置づけと立地評価の考え方についての論点と問題点	東電・佐賀山	9109	
131	高速増殖炉の安全基準に関する調査WG活動計画(案) 1991 年度	原安協	9109	
1776	動燃 年報 1990 年	動燃企画部	9109	
1607	Elements of the Safety Approach for EFR (European Fast Reactor)	EFR Associates	9110	
843	Breeding Requirement (EFR-FEPC Meeting 1991/10/24)	L.J. Saunders Nuclear Electric	91-	
844	Research and Development in support of the European Fast Reactor, EPR (EFR-FEPC Meeting 1991/10/24)	W. Martin, KfK-Management Group Research & Development	9110	
1774	第 24 回報告と講演の会 予稿集	動燃	9110	
132	IVS の基準上の取り扱いについて	森山	9111	
133	立地評価について	動燃・森山, 可児	9111	
134	BOBE の取り扱い及び立地評価の考え方	東電・佐賀山	9111	
135	第 99 回高速増殖炉対策会議専門部会 議事次第	東電・佐賀山	9111	
136	実証炉予備的概念設計研究の検討状況について 高速増殖炉対策会議資料	原電高速炉開発部	9111	
137	実用化展望の評価研究について(中間報告)	原電高速炉開発部	9111	
138	金属燃料と酸化燃料の特性比較	原電研究開発本部高速炉開発部	9111	
139	主循環電磁ポンプの研究開発について	原電高速炉開発部	9111	
140	電事連-EPRUG(欧州高速炉電力グループ)情報交換会合の状況について	電事連原子力部	9111	
141	実証炉予備的概念設計研究の検討状況について	原電高速炉開発部	9111	
142	実証炉以降の開発について	電事連	9111	
143	実証炉の安全設計, 安全評価の現状について	原電高速炉開発部	9111	
144	金属燃料サイクル研究に関する社長会議用資料(案)及び書簡(案)について	電事連原子力部	9111	
147	高速増殖実証炉の開発スケジュールについて	電事連原子力部	9111	
148	ソ連BN-600 運転経験等調査の進め方について	原電高速炉開発部	9111	
149	金属燃料炉心と酸化燃料炉心の特性比較	原電高速炉開発部, 電中研原子力総合推進室	9111	
1606	Proceedings of the Symposium on Physics of Vapor Explosion	Study Group on the Mechanism of Vapor Explosion and Nuclear Power Engineering Test Center	9111	
857	イラク「核疑惑」と私 「中央公論」1991 年 11 月号コピー	垣花秀武	9111	

859	FBR 金属燃料サイクルの特性<燃料・炉心・燃料サイクルプロセスにおける MOX と金属の違い> 資料 1	電中研	9111	
858	FBR 金属燃料サイクルに関する実績・計画並びに課題 <米 (ANL), 日本 (電中研) における技術開発研究をベースとしたまとめ> 資料 2	電中研	9111	
145	海外における高速炉の安全確保の考え方の調査と比較検討	関電・天野	9112	
146	FBR 実用化展望目次(案)	電事連原子力部	9112	
150	OECD・NEA の高速炉運転経験情報交換計画について 高速炉シンクタンクと専門家への手紙 1991.11.2	原電高速炉開発部	9112	
151	実証炉予備的概念設計研究について(炉心・燃料設計検討結果)	原電高速炉開発部	9112	
152	主循環電磁ポンプの研究開発計画について	原電高速炉開発部	9112	
1293	高温工学分野における研究開発の成果概要		9112	
860	第3回電事連－EFRUG 情報交換会合資料 (EDF との情報交換を含む)	電事連原子力部	9112	
861	高速炉システム国際会議(FR'91)開催報告 91/10/28-31	原子力学会, 動燃, 原電	9112	
863	高速炉システム国際会議(FR'91)実施報告書 第 4 回組織委員会資料	高速炉システム国際会議技術委員会, 同実行委員会	9112	
862	高速炉の安全性の考え方に関する調査報告(中間報告)	原安協高速炉安全性調査専門委員会	9112	
1603	原子炉の安全性分析研究 中部電力委託平成 2 年度報告書	東工大原子炉研	91-	
842	高速増殖原型炉「もんじゅ」主要機器	動燃	91-	
1775	原研 1991 年度版	原研総務部	91-	
117	世界の 1 次エネルギー消費量・電力消費量・CO ₂ 排出量		91-	
118	高速炉安全基準調査専門委員会資料		91-	
119	第9回高速炉安全性調査専門委員会議事録(案)		91-	
120	高速炉安全性調査専門委員会資料		91-	
121	高速増殖炉対策会議専門部会資料 第 99 回, 100 回資料		91-	
1609	「物理学者の社会的責任」サーキュラー “科学・社会・人間” 第 40 号	編集: 山梨大・小出昭一郎ほか	9201	
156	概念設計の設計方針・設計条件の整理, 明確化について(案)	FBR 技術委員会	9201	
157	炉上部簡素化に向けての実証炉 1 号機の取組み	原電高速炉開発部	9202	
158	米国 DOE「金属燃料サイクル実証(WBS-500)」への参加に係る打ち合わせ結果について	原電, 電中研	9202	
159	実用炉に向けての技術開発構想と実証炉 1 号機で実証していく技術	原電高速炉開発部	9202	
160	原子力委員会高速増殖実証炉開発専門部会(第 11 回)の審議状況について 高速炉対策会議	電事連原子力部	9202	
161	第 102 回高速増殖炉対策会議専門部会 議事次第		9202	
864	実証炉予備的概念設計研究(安全性評価その 2)について	原電高速炉開発部	9202	
1608	よりよい原子力 P/A 活動のために	電事連	9203	
1138	受託実績報告書「TRU を含めた原子燃料サイクルの調査研究」	株式会社テクノバ	9203	
865	研究報告書「高速増殖実証炉の開発に関する研究」平成 3 年度 要約版	原電	9203	
866	受託研究成果報告[炉心損傷の評価研究] OHP 資料	東芝, 日立, 三菱重工	9203	
867	炉上部簡素化に向けての取組みについて	FBR 専門部会	9203	
868	原子力委員会高速増殖炉開発計画専門部会審議状況について 高速増殖炉対策会議本会議資料	電事連原子力部	9203	
162	実用化展望の評価研究(技術開発構想)について	原電高速炉開発部	9203	
163	実証炉予備的概念設計研究の成果について	原電高速炉開発部	9203	
164	原子力委員会高速増殖炉開発専門部会の審議状況について	電事連原子力部	9203	
165	「金属燃料サイクル実証(WBS-500)」への参加に係る DOE との交渉(案)について	原電, 電中研	9203	
166	第 103 回高速増殖炉対策会議専門部会議事次第		9203	
167	実証予備的概念設計研究 成立性確認試験結果	原電高速炉開発部	9203	
168	実証炉に対する動燃コメントの設計対応について	原電	9203	
169	高速増殖炉に関する動燃との技術協力について	原電高速炉開発部	9203	
170	主循環電磁ポンプの研究開発計画について	FBR 専門部会	9204	
171	年間講義「人類と核の共存を目指して」(第 1 素案)	立花昭	9205	○
172	第 105 回高速増殖炉対策会議専門部会 議事次第		9205	

173	米国 DOE「金属燃料サイクル実証(WBS-500)への参加について	原電, 電中研	9205	
174	長期開発戦略の取りまとめ状況について	FBR 長戦WG	9205	
175	動燃との設計の刷り合わせ状況について	原電高速炉開発部	9205	
176	トップエントリ方式ループ型炉の成立性報告の作成状況	原電高速炉開発部	9205	
177	成立性評価の取りまとめ状況について	成立性検討グループ	9205	
178	「大型施設を用いた試験」の検討状況について	原電研究開発本部	9205	
179	FBR 開発に係る EFR/EDF との情報交換会合について	電事連原子力部	9205	
180	実証炉開発に係る当面の検討ステップとスケジュールについて	電事連原子力部	9205	
181	高速増殖炉と海水溶存ウランとの関連について	原電研究開発本部・立花昭	9205	○
182	地震による制御棒の上下動が誘起する高速炉大型炉心の過度現象の安全限界とその感度解析	原電研究開発本部・立花昭	9205	○
869	海外出張報告書 ロシア連邦BN-600 運転経験等調査研究に関する打ち合わせ報告	高速炉開発部・浜田正男	9205	
1610	企業・生活者と地球環境問題	社会経済国民会議	9205	
183	実証炉1号の炉心設計について	原電高速炉開発部	9206	
184	第107回高速増殖炉対策会議専門部会 議事要旨(案)		9206	
186	金属燃料サイクル研究に関する DOE との共同研究の進捗状況について	原電, 電中研	9206	
1908	第14回国際平和研究学会 関係資料	実行委員会	9207	
1999	太平洋民衆フォーラム 海外基地のない世紀へ 第14回国際平和研究会資料		9207	
870	GEM worth の取扱についての打ち合わせメモ	立花昭	9207	○
871	高速増殖原型炉もんじゅ建設記録	原電高速炉開発部	9208	
185	高速増殖炉の実用化と技術開発(案)	原電, 動燃	9208	
187	実証炉および関連研究の進め方の検討について	電事連原子力部	9208	
188	第108回高速増殖炉対策会議専門部会 議題・資料		9208	
189	第62回 FBR 対策会議(7月14日)議事メモ	電事連原子力部	9208	
191	「大型施設を用いた試験」に要する費用について	原電	9208	
190	トップエントリ方式ループ型炉の成立性技術評価結果に関し今後考慮すべき主な事項	原電高速炉開発部	9208	
192	トップエントリの成立性評価について(最終報告)	FRB専門部会	9208	
154	第63回高速増殖炉対策会議 議事要旨(案)		92-	
872	年報 -1991年度-	動燃企画部	9209	
193	第4回電事連-EFRUG(欧州高速炉電力グループ) 情報交換会の状況について	電事連原子力部	9210	
194	第64回高速増殖炉対策会議議題・資料		9210	
1631	「物理学者の社会的責任」サーキュラー No1609に同じ		9210	
1716	エネルギーのはなし 手のひらコラム	日本原子力文化振興財団	9210	
873	高速増殖炉に関する1993年度研究計画(案)について 高速増殖炉対策会議専門部会資料	原電研究開発本部高速炉開発部	9210	
1909	日本平和学会1992年度秋季研究大会関係		9211	
195	第111回高速増殖炉対策会議専門部会議事要旨(案)		9211	
874	第2回電事連-EFRUG 情報交換会合資料(EDF との情報交換を含む)	電事連原子力部	9211	
875	高速増殖実証炉の開発に関する研究 平成4年度上半期(研究進捗状況)	原電高速炉開発部	9211	
876	第3回電事連-EFRUG 情報交換会合資料	電事連原子力部	9212	
877	高速増殖実証炉の開発に係る設計計画の履歴について	職場内小集団サークル「日本高速炉発電」	9212	
878	中国における原子力開発の現状-高温ガス炉を中心として 高温ガス炉プラント研究会「高温ガス炉開発の現状・展望」作成ワーキング資料	富士電機 早川均	9212	
879	大型炉心の核特性評価 高速炉システム研究会炉心分科会第1回資料	原電, 他4社	9212	
1139	「六カ所原燃サイクル施設の疑問にお答えします。」	日本原燃	9212	
196	The Bimetallic Triggering System に関して	立花昭	9212	○
197	高速増殖炉技術確定試験	電中研	9212	
198	1993年度「実証プラント概念設計研究」計画(案)について	原電高速炉開発部	9212	
199	金属燃料二重タンク小型炉の設計検討について	電中研	9212	

200	第 66 回 FBR 対策会議(12 月 4 日)議事メモ	電事連原子力部	9212	
201	高速増殖炉「もんじゅ」の試運転状況について	原電	9212	
202	欧州 FBR 開発に関する最近の状況について	原電高速炉開発部	9212	
203	Design of the third Level Reactor Shutdown System for a FBR Plant with a large oxide Core (大型酸化物炉心を持つ高速炉用 び第 3 レベル炉停止系の設計)	原電・立花昭, 東芝・遠藤寛	9212	○
1170	国際原子力機関季報 1992 年第 34 巻第 1 号	原産	92-	
153	世界各国の 1 次エネルギー, 電力に関する国連統計の諸分析 (1990 年実績) 海外電力 第 34 巻(1992)No.12	小森治郎	9212	
155	高速増殖炉開発専門部会資料		92-	
205	実証炉プラント概念設計研究について(中間報告)	原電高速炉開発部	9301	
206	実証炉の研究開発に必要な資金の推定について(案)	FBR 長期開発戦略WG	9301	
2002	「第 3 レベルの原子炉停止系」第 2 論文の準備打ち合わせメモ	立花昭	9301	○
882	高速増殖炉研究開発の現状	動燃	9302	
2005	エコノミスト切抜き 日本の清掃工場から煙突が消える日	津川敬	9302	
2009	エコノミスト切抜き スリム社会が地球環境問題を解決する	市民エネルギー研究所	9302	
1611	原子力安全シンポジウム	原子力安全委員会	9303	
1140	返還プルトニウムの輸送と利用「エネルギーフォーラム」93-3		9303	
883	研究報告書 高速増殖実証炉の開発に関する研究 平成 4 年度	原電	9303	
884	高速増殖炉対策会議専門部会資料	電事連	9303	
1910	日本平和学会 1993 年度春季大会 プログラム, レジューメ		93-	
1722	世界のエネルギー消費の推移	資源エネルギー庁	9305	
1717	不平等世界における地球温暖化問題ー環境植民地主義の典型: 「経済評論」1993 年 5 月号	アニル・アガルワル, スニナ・ナレ イン	9305	
1141	プルトニウム利用をめぐる諸情勢について 第 249 回技術同好 会例会	石渡鷹雄	9305	
885	「新型中間熱交換器の中間熱媒に関する比較・選択研究」検討会 関連資料	原電研究開発本部研究開発部	9305	
886	第 116 回高速増殖炉対策会議専門部会議題・資料	電事連原子力部	9305	
266	伝熱計算モデル BOEC/EOEC		?	○
255	熱理論について		?	
260	3.1: 技術の現状評価と開発の見通し + 表 3.1 10 年の成果		?	○
897	炉心安全性向上に関する研究(その 1ー炉心安全特性の検討 II) FBR OHP 資料のコピー		?	
265	インターナルポンプ型炉について (2)インターナルポンプ...		?	
945	技術的には起こるとは考えられない事象の解析(別紙 4-1)		?	
1295	AppendixC サイト評価に用いられる最大仮想 FP 放出事故	青焼	?	
930	ターニング装置の必要性について		?	
1435	Resignations in US Nuclear Industry (米国防務省公報)	米国防務省	?	
原電嘱託解除以後 (1993~1997)				
887	SIMMER-II コードによる SIMBATH 試験の解析結果	東工大原子炉研沢田	9306	
1984	冷戦終結とアメリカ国防産業(1) 抜粋	奥村皓一	9310	
242	核問題新聞 切り抜きファイル ①, ~93.10		9310	
204	Pu 核拡散問題検討の基礎となる技術情報 「原子力学会誌」	立花昭	9310	○
2010	35 (11) 994 (1993) 談話室 別刷			
207	核拡散問題 マスコミ情報資料集(1992 年 11 月から)	立花昭	9310	○
208	核兵器の不拡散に関する条約(要約)		9310	
209	表 1 (U235 金属濃度と臨界量)~表 9	立花昭	9310	○
1159	Nuclear Weapons Databook Working Papers	C. E. Paine (Seminar Research Associate)	9310	
1169	第 4 回核不拡散条約(NPT)再検討会議最終宣言案(未採択) 1993/10/20 大塚益比古氏より		9310	
1171	NPT(1) 1993 年 6 月 23 日~1993 年 10 月 2 日 会合通知, 議事メモ, 配布資料	核拡散問題勉強会	9310	○
1160	「非核の世界と核拡散防止の現状」(平和学会報告)	立花昭	9311	○
1911	日本平和学会 1993 年度秋季研究大会関係		9311	
1912	パンフレット: 日本平和学会研究大会	日本平和学会事務局	9311	

1913	「冷戦」後の米国核兵器産業のゆくえ 立命館国際研究 6 巻 3 号) 抜粋	藤岡 惇	9312	
2006	エコノミスト切抜き 日本経済はゼロ成長を甘受すべきだ	植田 献一	9312	
2007	エコノミスト切抜き 低成長が日本に真の豊かさをもたらす	真下俊樹・室田泰弘	9312	
2008	エコノミスト切抜き 下村ゼロ成長論と平成不況	堀井行蔵	9312	
1172	NPT(2) 1993 年 10 月 20 日～1993 年 12 月 19 日	核拡散問題勉強会	9312	○
880	「安全評価の全体クレーム」—炉心崩壊事故の解析	原電	93-	○
881	トップエントリ型 FBR 実証炉の概要 「原子力学会誌」vol.35	原子力学会	93-	
210	GEM Safety Map の件で (FAX)	東芝原子力事業部・遠藤	9312	
211	GEM 論文の骨子について	東芝・遠藤	9401	
1161	Management and Disposition of Excess Weapons 資料 11-2	National Academy of Sciences	9401	
1612	核開発と環境汚染 中央大学論集第 15 号	中島篤之助	9403	
889	高速炉の安全性の考え方に関する調査報告書	原子力安全研究協会(高速炉安全性調査専門委員会)	9403	
890	「高速増殖実証炉の開発に関する研究」平成4年度研究成果報告会(第2日目) OHP 集	原電高速炉開発部	9403	
1613	高レベル放射性廃棄物の地層処分における緩衝材中の水分の 気・液二相移動 「動燃技報」No.89 別冊 PNC TN8410 93-302	動燃	9403	
1173	NPT(3) 1994 年 11 月 18 日～1994 年 4 月 5 日	核拡散問題勉強会	9404	○
1718	脱成長経済へ共生の地球のために	吉沢広祐	9404	
1914	日本平和学会ニューズレター Vol.11 No.1	日本平和学会	9404	
891	「高速増殖実証炉の開発に関する研究」平成4年度研究成果報告会(第1日目) OHP 集	原電高速炉開発部	9405	
1778	原研の現況 (OB 会説明資料)	原研企画室	9406	
243	核問題新聞切り抜きファイル ②, 93.10～94.6		9406	
1162	Hydronuclear Testing and the Comprehensive TEST Ban: Memorandum to Participants JASON 1994 summer study 資料 22-3	Thomas B. Cochran, Christopher E. Paine	9406	
1632	科学・社会・人間 No.42	「科学・社会・人間」事務局	9406	
1174	NPT(4)	核拡散問題勉強会	9406	
1985	サステナブル・ソサエティ No.5 (1994.7)	サステナブル・ソサイエティ第 1 回全国交流集会	9407	
258	記念講演「持続する社会をいかにつくるか」 サステナブルソサイエティ第 1 回集会	宮本常一	9407	
1163	大型 FBR のブランケットで生産されるPuの核拡散抵抗性の向上	立花昭	9407	○
1142	プルトニウム問題とわたしたちの選択	日本科学者会議原子力問題研究 委員会	9408	
1175	NPT(5) 1994 年 6 月 22 日～1994 年 8 月 16 日	核拡散問題勉強会	9408	○
1715	原子炉級プルトニウムの核兵器転用性	白方敬章, 武田充司	9409	
1176	NPT(5) 1994 年 8 月 16 日～1994 年 10 月 25 日	核拡散問題勉強会	9410	○
212	立花ファイル「原子力の歴史」 深井氏の報告に対する意見	立花昭	9410	○
1917	International Peace Research Newsletter Vol. 12 No.2		9410	
1918	日本平和学会関係ファイル 1994 年度		9411	
888	「もんじゅ」建設のあゆみ—フォトハイライト—どうねん		94-	
245	核問題新聞切り抜きファイル ④, 95.1～95.1		9501	
1986	バグウォッシュ・ニュース No.1 他関係資料	バグウォッシュ慶大事務局	9501	
1177	NPT(7) 1994 年 11 月 5 日～1995 年 1 月 10 日	核拡散問題勉強会	9501	○
1178	NPT(8) 1995 年 1 月 20 日～1995 年 2 月 14 日	核拡散問題勉強会	9502	○
1165	核兵器不拡散条約の延長についての意見	核拡散問題研究会	9503	&
1987	立花昭病歴について	立花昭	9503	○
1167	核不拡散条約を巡る動向	原電研究管理部	9504	
1166	Executive Summary beyond the NPT: A Nuclear - Weapon Free World International Network of Engineers and Scientists Against Proliferation		9504	
1915	日本平和学会ニューズレター Vol. 12 No.1	日本平和学会	9504	
214	今年の国連 NPT 国際会議の公表三文書の内容について NPT 研究会(第 35 回)資料	立花昭	9506	○
213	同上第2文書とわが研究会の赤本の比較についての私見	立花昭	9506	○
1919	日本平和学会関係ファイル		9506	
1179	NPT(9) 1995 年 2 月 2 日～1995 年 6 月 20 日	核拡散問題勉強会	9506	

1143	国際プルトニウム管理	核物質管理センター専務理事・栗原弘善	9506	
1144	第21回原子力発電問題全国シンポジウム講演集 大地震と原子力発電	日本科学者会議原子力問題研究委員会	9508	
244	核問題新聞切り抜きファイル ③, 94.1~95.8?		9508	
215	炉心安全性向上方策について(案) (FAX)	原電研究開発本部高速炉開発部・鍾ヶ江	9509	
1180	NPT(10) 1995年7月4日~1995年9月7日	核拡散問題勉強会	9509	
1920	日本平和学会ニューズレター Vol.11 No4	日本平和学会	9510	
1181	NPT(11) 1995年9月22日~1995年12月11日	核拡散問題勉強会	9512	
1164	INMM(核物質管理学会)資料		95-	
916	高速増殖原型炉「もんじゅ」パンフレット	動燃高速増殖炉もんじゅ発電所	-	
1614	第16回核物質管理学会年次大会	核物質管理学会日本支部	9512	
1616	科学・社会・人間 No.55	「科学・社会・人間」事務局	9601	
1988	市民によるフランス原爆展	岡本三夫	9602	
1719	電源 No.472	電源開発	9602	
1633	科学・社会・人間 No.49	「科学・社会・人間」事務局	9603	
1720	電源 No.474	電源開発	9604	
1182	NPT(12) 1996年1月25日~1996年5月17日	核拡散問題勉強会	9605	
1634	科学・社会・人間 No.57	「科学・社会・人間」事務局	9607	
1635	科学・社会・人間 No.58	「科学・社会・人間」事務局	9609	
1916	日本平和学会ニューズレター Vol.12 No2	日本平和学会	9609	
1183	NPT(13) 1996年6月19日~1996年12月3日	核拡散問題勉強会	9612	○
217	資源保存と環境保護を重点目標とし、リサイクル課程を重視した生産プロセスの確立 平和研究 21号	会員・立花昭	96-	○
216	日本平和学会編集委員会への送付資料 上に同じ	会員・立花昭	96-	
1617	科学・社会・人間 No.60	「科学・社会・人間」事務局	9703	○
1921	日本平和学会ニューズレター	日本平和学会	9704	
1922	日本平和学会 会員名簿	日本平和学会	9704	
1618	科学・社会・人間 No.61	「科学・社会・人間」事務局	9707	
1989	モデル核兵器条約	日本反核法律家協会	9709	
1779	原研 No.384	原研広報部	9710	
1996	「日本の核武装の準備が着々と進んでいる」抜粋	日本の核武装を憂慮する会・植田敦	-	
1168	核兵器・核実験モニター No.1(1995.7)~No.55(1997.10)	PCDS(太平洋軍備撤廃運動) / 平和資料協同組合	9710	
1896	討議資料 編集大綱		?	
1905	新聞切り抜き: 原子核関係 学術界		?	
1184	NPT(14) 第53回~56回	核拡散問題勉強会	97-	○
1185	NPT(15) 第57回~60回	核拡散問題勉強会	9710	○

書庫目録 2 (蔵書 — 書籍・雑誌類)

見出しの分類は、編者が便宜的に付けたもので、同ミュージアムの分類とは関係ない。

1. 原子力史、社史 他

- 001 『原子力開発十年史』(日本原子力産業会議 1965)
- 002 『原研 10 年史』日本原子力研究所(1966)
- 003 『日本の原子力(十五年のあゆみ)(上, 下, 年表)』日本原子力産業会議(1971)
- 004 『原研二十年史』日本原子力研究所(1976)
- 005 『動燃 10 年史』動力炉核燃料開発事業団(1978)
- 006 『20 年の回顧と展望』東京大学工学部原子力工学科(1980)
- 007 『原子力は今—日本の平和利用 30 年—』日本原子力産業会議(中央公論事業出版 1986)
- 008 『原子力年表(1934~1985)』日本原子力産業会議編(中央公論事業出版 1986)
- 009 『原子力開発三十年史』(原子力文化振興財団 1986)
- 010 『日本原子力発電 30 年史』日本原子力発電(1987)
- 011 『動燃 20 年史』動力炉核燃料開発事業団(1988)
- 012 『原研 40 年史』日本原子力研究所(1996)
- 013 『原子力委員会の戦い』石川欽也(電力新報社 1983)
- 014 『原子力問題の歴史』吉羽和夫(河出書房 1969)
- 015 『原電の現況 1988 年度版, 1990 年度版』(日本原子力発電株式会社 1988, 1990)
- 016 『日本科学技術史大(5)通史』日本科学史学会(第一法規出版 1964)
- 017 『日本科学技術史大(19)電気技術』日本科学史学会(第一法規出版 1969)
- 018 『日揮五十年史』日揮株式会社(1979)
- 019 『電力百年史 前編, 後編』(政経社 1980)
- 020 『日本技術史会三十年史』日本技術史会 1981)
- 021 『電発 30 年史』電源開発(1984)

2. 科学技術一般

- 022 『学術用語集 計測工学編』文部省編(計測自動制御学会 1975)
- 023 『学術用語集 電気工学編』文部省編(電気学会 1976)
- 024 『学術用語集 物理学編』文部省編(大日本図書 1976)
- 025 『学術用語集 機械工学編』文部省編(技報堂 1975)
- 026 『自然科学系実用英和辞典』(小倉書店 1987)
- 027 『統計力学概説』戸田盛和(朝倉書店 1952)
- 028 『発電水力概説』荒井義輔(共立全書 1955)
- 029 『オペレーションズ・リサーチ』宮脇一男他(共立出版 1957)
- 030 『自動制御入門』伊吹計介(オーム社 1958)
- 031 『計算機プログラミング』渋谷政昭(東洋経済新報社 1959)
- 032 『改稿 工業熱力学』菅原菅雄(岩波全書 1959)
- 033 『石炭化学』村田富二郎(勁草書店 1964)
- 034 『電子計算機のための数値計算法 1』山内二郎他(培風館 1965)
- 035 『線形計画法入門』小野勝章(オーム社 1971)
- 036 『レーザー II』藤田由夫監修(共立出版 1971)
- 037 『多変量解析法』奥野忠一他(日科技連出版社 1971)
- 038 『やさしい分子生物学』木原弘二(中外医学社 1971)
- 039 『分子放射線生物学』近藤宗平(東京大学出版会 1972)
- 040 『因子分析法』芝右順(東京大学出版 1972)
- 041 『宇宙と歴史と天体核物理』M シュミット他(講談社 1973)
- 042 『電気料金(その性格と仕組み)』電気料金問題研究会(電力新報社 1976)
- 043 『電気料金講話』吉松氏吉(政経社 1977)
- 044 『多目標問題解決の理論と実践』ラルフ L キニー他(構造計画研究所 1980)
- 045 『リモートセンシング読本』石井吉徳(オーム社 1981)
- 046 『初めて情報処理技術者試験を受ける人の』(オーム社 1983)
- 047 『人工知能とは何か』白井良明(岩波書店 1985)
- 048 『ファジィ(ビジネスマンのための読本)』菅野道夫(サンエンス社 1988)
- 049 『入門ニューロコンピュータ』菊池豊彦(オーム社 1990)
- 050 『岩波講座基礎工字(技術の体系 1)』星野芳郎(岩波書店 1970)
- 051 『岩波講座基礎工字(電気磁気学 1)』岡村総吾他(岩波書店 1970)
- 052 『岩波講座基礎工字(測定論学)』岡村総吾他(岩波書店 1970)

- 053 『岩波講座基礎工学(技術の体系 2)』星野芳郎(岩波書店 1976)
- 054 『岩波講座基礎工学(電気磁気学 2)』岡村総吾(岩波書店 1976)
- 055 『岩波講座基礎工学(線中定数学 4)』高橋秀俊(岩波書店 1976)

3. 原子力技術(基礎発電)

- 056 『原子力辞典』竹野萬雪他編(1972)
- 057 『原子力科学用語辞典(露日英対訳)』日本原子力産業会議(1978)
- 058 『原子力ハンドブック (基礎編)』S グラストン, 金開義則他訳(商工出版 1955)
- 059 『原子力ハンドブック (原子炉編 上, 下)』S グラストン, 服部学他訳(商工出版 1956)
- 060 『原子力ハンドブック (爆弾編)』S グラストン編, 武谷三男・服部学監訳(商工出版 1958)
- 061 『原子炉物理学 核物理学講座 10』伏見康治他(共立出版 1961)
- 062 『原子炉物理演習』杉暉夫(原子力弘済会 1970)
- 063 『原子炉の物理』D ジェイクマン(同文書院 1971)
- 064 『核燃料工学』三島良績(同文書院 1972)
- 065 『原子炉』伏見康治(共立出版 1972)
- 066 『原子炉の熱工学』MM エルワルキム(同文書院 1973)
- 067 『原子炉の初等理論上, 下』JR ラマーシュ 武田充司・仁科浩二郎訳(吉岡書店 1974, 1976)
- 068 『原子力エネルギー変換』MM エルワルキル, 西原英晃訳(同文書院 1977)
- 069 『原子力発電プラントの構造設計』林喬雄(日刊工業新聞社 1984)
- 070 『原子炉の理論と設計』安成弘(東京大学出版会 1985)
- 071 『原子炉技術の発展上, 下』W マーシャル(筑摩書房 1986)
- 072 『放射線とがん』放射線影響協会(1980)
- 073 『放射線と遺伝』放射線影響協会(1982)
- 074 『核燃料サイクルの開発』高島洋一(1996)
- 075 『原子力開発利用長期計画』科学技術庁原子力局(1968)
- 076 『原子炉等の規制の手引き』科学技術庁原子力局原子炉規制課編(1972)
- 077 『原子力安全委員会安全審査指針集』(大成出版社 1981)
- 078 『原子力ポケットブック 1969 年度版, 1974 年版』日本原子力産業会議編(1969, 1974)
- 079 『東海発電所設備の解説』日本原子力発電(1968)
- 080 『東海発電所の建設』日本原子力発電(1971)
- 081 『敦賀発電所設備の解説』日本原子力発電(1972)
- 082 『敦賀発電所の建設』日本原子力発電(1973)
- 083 『原子力発電便覧 '74, '76, '79』(電力新報社 1974, 1976, 1979)
- 084 『原子力発電技術読本 改訂 2 版』豊田正敏(オーム社 1976)
- 085 『東海第二発電所の建設』日本原子力発電株式会社(1984)
- 086 『高速増殖炉開発の現状(1988)』動力炉・核燃料開発事業団(1988)
- 087 『欧米諸国における新型炉ハンドブック』日本原子力発電(1992)
- 088 『高速増殖炉開発の現状(1989)』動力炉・核燃料開発事業団(1990)
- 089 『原子力発電施設 信頼性実証試験の現状(1991)』(1991)
- 090 『原子力発電』日本原子力文化振興財団(1992)

4. 原子力問題、原水爆

- 091 『原子エネルギー』ソヴェート科学アカデミー(アトム社 1956)
- 092 『原子力記事のみかた』渡辺誠毅他(商工出版 1957)
- 093 『核の時代 現代史戦後編 24』グロジンス, ラビノビッチ編, 岸田純之助・高榎亮訳(みすず書房 1965)
- 094 『原子力 一戦いの歴史と哲学 現代論集 1』武谷三男(勁草書房 1974)
- 095 『原子力の政治経済学』川上幸一(平凡社 1974)
- 096 『われわれは原発と共存できるか』マッキンレー C オルソン(講談社 1977)
- 097 『原子力 どうするか』米核エネルギー政策研究グループ(1973)
- 098 『図説原子力読本』安斉育郎編(合同出版 1979)
- 099 『絵で見る原子力エネルギーの秘密』林喬雄(日刊工業新聞社 1981)
- 100 『日本の原子力技術』(日刊工業新聞社 1981)
- 101 『核の栄光と挫折(巨大科学の支配者たち)』ピーターグリーンゲル他(時事通信社 1982)
- 102 『原子力の政治学』デウ・エ・オット(現代書館 1983)
- 103 『原子力発電』日本科学者会議(合同出版 1985)
- 104 『原発問題と原子力の将来』日本共産党中央委員会(1988)
- 105 『原子力は悪魔の手先か』福岡知之(テレメディア 1989)
- 106 『誰も知らなかったソ連の原子力』V ゲーバレル他(電力新報社 1990)

- 107 『原子力国際条約集』外務省原子力課(日本原子力産業会議 1993)
- 108 『原子力の奇跡』西堂紀一郎, ジョン・イー・グレイ(日刊工業新聞 1993)
- 109 『原子力の光と影』川上幸一(電力新報社 1993)
- 110 『ポスト冷戦と核』今井隆吉他(勁草書房 1995)
- 111 『原子力にルネッサンスを』森一久(1996)
- 112 『原爆の誕生』クラーク(みすず書房 1958)
- 113 『私が原爆計画を指揮した』LR グローブス, 富永健吾他訳(恒文社 1964)
- 114 『マンハッタン計画』S グルーエフ, 中村誠太郎訳(早川書房 1967)
- 115 『横たわる断層』A ベッチェイ(ダイヤモンド社 1970)
- 116 『原爆投下と科学者国際シンポ』(三省堂選書 1982)
- 117 『原爆投下のシナリオ』A マキジャーニ他(教育社 1985)
- 118 『原爆はこうして開発された』山崎正勝他(青木書店 1990)
- 119 『原爆をつくった科学者たち』J ウイルソン(岩波書店 1990)
- 120 『原爆神話の 50 年』斎藤道雄(中公新書 1995)
- 121 『福竜丸』ラルフ・ラップ(みすず書房 1958)
- 122 『ヒロシマ・ノート』大江健三郎(岩波新書 1965)
- 123 『長崎医大原子爆弾救護報告』週刊朝日通巻 2690(1970)
- 124 『原子爆弾(広島長崎の写真)』仁科記念財団(光風社書店 1973)
- 125 『ビキニ水爆被災資料集』檜山義夫編(東京大学出版会 1976)
- 126 『被爆の実相と被爆者の実情』1977NGO 被爆問題シンポジウム報告書(1978)
- 127 『広島・長崎(原子爆弾の記録)』子供たちに世界に! 被爆の記録を贈る会(1980)
- 128 『長崎原爆体験—医師の証言—』調来助他(東京大学出版会 1982)
- 129 『原子の火燃ゆ』木村繁(プレジデント社 1982)
- 130 『原爆を読む』水田九八二郎(講談社 1982)
- 131 『被爆国アメリカ』ハービー・ワッサーマン他(早川書房 1983)
- 132 『核の常識(被爆 40 年・知っておきたい)』(朝日新聞社 1985)
- 133 『ひとりひとりの戦争・広島』北島宏泰(岩波新書 1984)
- 134 『ヒバクシャ・イン・USA』春名幹男(岩波新書 1985)
- 135 『原爆災害ヒロシマナガサキ』ヒロシマナガサキ原爆災害詩編集委員会編(1985)
- 136 『アジアから見たナガサキ(被害と加害)』(岩波書店 1990)
- 137 『世界の被爆者』中国新聞社(1991)
- 138 『核の 20 世紀(訴える世界のヒバクシャ)』平和博物館を作る会他(1997)

5. 事故、安全

- 139 『原発事故の手引き』安斎育郎他(ダイヤモンド社 1980)
- 140 『スリーマイル島原発事故の衝撃』高木仁三郎(社会思想社 1980)
- 141 『恐怖の 2 時間 18 分』柳田邦男(文芸春秋 1983)
- 142 『チェルノブイル・ルポルタージュ』ニコライ D エルムチェンコ(プラネター社 1981)
- 143 『チェルノブイル』アンドレイ・イルシュ(読売新聞社 1987)
- 144 『チェルノブイルからの証言』ユーリー・シチェルバク(技術と人間 1988)
- 145 『チェルノブイル 上, 下』RP ゲイル他(岩波新書 1988)
- 146 『原発事故が起こったら』中島篤之助他(1989)
- 147 『チェルノブイル極秘』アラ・ヤロシンスカヤ(平凡社 1994)
- 148 『核燃料時代』今井隆吉(東洋経済新報社 1970)
- 149 『放射性固体廃棄物処理・処分検討会報告書上, 下』(実業広報社 1972)
- 150 『核利用時代の発想』今井隆吉(日本経済新聞社 1973)
- 151 『原子力公害』アーサー・タンプリン他(アグネ 1974)
- 152 『原子力発電』有澤広巳(日本経済新聞社 1974)
- 153 『日本の原子力発電所』安斎育郎他(新日本新書 1974)
- 154 『原発と環境』安斎育郎(ダイヤモンド社 1975)
- 155 『原子力発電の安全性』原子力安全問題研究会(岩波書店 1975)
- 156 『原子力発電』武谷三男(岩波新書 1976)
- 157 『原子力発電論争』D コメイ他(サイマル出版会 1977)
- 158 『核燃料サイクルをめぐって』中嶋篤之助他(公害対策技術同友会 1978)
- 159 『原子力産業界』中嶋篤之助他(教育社 1979)
- 160 『原発の安全性への疑問』憂慮する科学者同盟(1979)
- 161 『原子力と安全性論争』高橋昇他(技術と人間社 1979)
- 162 『原発ジブシー』堀江邦夫(現代書館 1979)

- 163 『原子炉被曝日記』森江信(技術と人間社 1979)
- 164 『原発の現場』朝日新聞いわき支局編(朝日ソノラマ 1980)
- 165 『プルトニウムの恐怖』高木仁三郎(岩波新書 1981)
- 166 『原子カー秘められた巨大技術ー』NHK 取材班(1982)
- 167 『核さがしの旅』石川巖(朝日新聞社 1983)
- 168 『原子力安全の論理』佐藤一男(日刊工業新聞社 1984)
- 169 『核廃棄物・安全に処理する方法はあるの』高榎堯(岩波書店 1985)
- 170 『原発への警鐘』内橋克人(講談社 1986)
- 171 『原子力発電の諸問題』日本物理学会(東海大学出版会 1988)
- 172 『原子力発電の条件』角田道生(労働旬報社 1989)
- 173 『原発はなぜ危険か』田中三彦(岩波新書 1990)
- 174 『原発。そこが知りたい』安斎育郎(かもがわ出版 1990)
- 175 『地下原発』山本拓(文明堂書店 1991)
- 176 『プルトニウムの安全性評価』松岡理(日刊工業新聞社 1993)
- 177 『プルトニウム物語』松岡理(テレメディア 1993)

6. 戦争論

- 178 『岩波講座 現代の戦争』(岩波書店 1963)
- 179 『現代戦争論(軍備と人類の未来)』ロビン・クラーク(草思社 1972)
- 180 『市民版防衛白書』前田寿夫(講談社 1978)
- 181 『クラウゼウッツ兵法』大橋武雄(マネジメント社 1980)
- 182 『戦争論入門』井門満明(原書房 1982)
- 183 『死者が語る戦争』河出書房新社編集部編(河出書房新社 1983)
- 184 『戦争に反対する戦争』坪井主税(龍溪書舎 1988)
- 185 『SDI 批判』豊田利幸(岩波新書 1988)
- 186 『戦争と平和』猪口邦子(東京大学出版会 1989)

7. 原潜、核兵器、核戦争

- 187 『潜水艦ーその回顧と展望ー』堀元美(出版共同 1959)
- 188 『ボリス潜水艦』エド・リース(時事通信社 1963)
- 189 『原子力潜水艦』小川岩雄他(文京閣 1963)
- 190 『原子力潜水艦』ノーマル・ボルマー(朝日新聞社 1964)
- 191 『原子力潜水艦』服部学(三省堂選書 1969)
- 192 『原子力潜水艦』(時事問題解説入門新書 1979)
- 193 『原潜回廊』小川和久(講談社 1984)
- 194 『兵器最先端(2) 原子力潜水艦』(読売新聞社編 1985)
- 195 『空母ミッドウェイと日本』梅林宏道(岩波書店 1991)
- 196 『核戦争になれば』ラルフ E ラップ(岩波新書 1963)
- 197 『スエーデンの核兵器問題』鹿島平和研究所(1967)
- 198 『戦術核兵器(核問題シリーズ 3)』(原水爆禁止資料(1979))
- 199 『米ソ核戦争が起こったら』(米国技術評価局(岩波現代選書 1981))
- 200 『核戦争と放射能』J ロートブラット, 小野周監訳(東京大学出版会 1982)
- 201 『核戦争の悪夢』N コールダー(みすず書房 1982)
- 202 『核兵器と核戦争』服部学(大月書店 1982)
- 203 『核時代の戦争と平和(市民の平和白書 82)』(日本評論社 1982)
- 204 『核兵器の包括的研究』服部学監修(連合出版 1982)
- 205 『核戦争』G ラロック(同時代社 1982)
- 206 『核戦争』グラウンド・ゼロ(サイマル出版会 1982)
- 207 『現代の核兵器』高榎堯(岩波新書 1982)
- 208 『核戦争が起こったら。人類と地球の運命』(岩波書店 1983)
- 209 『アメリカの核戦争秘密シナリオ』ピーター・プリンゲル他(朝日新聞社 1984)
- 210 『核の冬・核戦争と気象異変』増田善信(草友出版 1985)
- 211 『核の冬』カール・セーガン(光文社 1985)
- 212 『核兵器』LW マクノート(地人書館 1985)
- 213 『核戦争の裏にウソあり』(女子パウロ会 1985)
- 214 『核兵器と人間』フリーマン・ダイソン(みすず書房 1986)
- 215 『地下核実験探知』ブルース A ボルト(古今書院 1986)
- 216 『核の夜 (科学者は警告する)』エフゲーニ・ペリホフ(新日本出版社 1986)

8. 核軍縮、核廃絶

- 217 『戦争のない世界 上, 下』JD バナール(岩波書店 1961, 1962)
- 218 『核時代を超える』湯川秀樹他(岩波新書 1963)
- 219 『平和時代を創造するために』湯川秀樹他(岩波新書 1963)
- 220 『科学と平和の創造』坂田昌一(岩波書店 1963)
- 221 『軍備競争』ノエル・ペーカー(岩波書店 1963)
- 222 『軍備の経済学』宮崎勇(岩波新書 1964)
- 223 『核戦略批判』豊田利幸(岩波新書 1965)
- 224 『核拡散のゆくえ』鹿島平和研究所(1968)
- 225 『軍縮交渉史 上, 下』前田寿(東京大学出版会 1968)
- 226 『核兵器不拡散条約(核の選択をめぐる)』矢田部厚彦(有信堂 1971)
- 227 『国際査察』今井隆吉(朝日新聞社 1971)
- 228 『核防条約』佐藤栄一他(日本国際問題研究所 1974)
- 229 『サムソン・オプション』シーモア M ハーシュ(文芸春秋 1992)
- 230 『原爆は誰でも作れる』ジョン・マックフィー(文化放送 1975)
- 231 『核時代の軍備と軍縮』ストックホルム国際平和研究所 1979)
- 232 『核拡散は防げるか』ストックホルム国際平和研究所(1980)
- 233 『正気への道 (1, 2)』A ミルダール(岩波選書 1981)
- 234 『イスラムの核爆弾』スティーブ・ワイスマン(日本経済新聞 1981)
- 235 『核時代の国際政治』坂本義和(岩波書店 1982)
- 236 『新・核戦略批判』豊田利幸(岩波書店 1983)
- 237 『核兵器と人間の鎖』(岩波書店 1983)
- 238 『軍縮の政治学』坂本義和(岩波新書 1983)
- 239 『核廃絶の力学』K コーツ編(勁草書房 1984)
- 240 『核廃絶は可能か』飯島宗一(岩波新書 1984)
- 241 『核兵器との共存』アルバート・カーネセール他(TBS ブリタニカ 1984)
- 242 『核廃絶の力学』K コーツ(勁草書房 1984)
- 243 『現代の軍縮(1)』前田寿他(軍縮問題研究所 1985)
- 314 『核兵器と科学者の責任』CG ウィーランド(中央大学出版部 1987)
- 315 『核廃絶と世論の力』(岩波書店 1988)
- 316 『軍縮条約 資料集』藤田久一(有信堂 1988)
- 317 『核軍縮の経済学』非核の政府を求める会(大月書店 1989)
- 318 『太平洋の非核化構想』豊田利幸(岩波新書 1990)
- 319 『軍隊のない世界へ』伊藤成彦(社会評論社 1991)
- 320 『核拡散とプルトニウム』石田裕貴(朝日新聞社 1992)
- 321 『プルトニウム』核戦争防止国際医師会議(ダイヤモンド社 1993)
- 322 『核兵器解体』今井隆吉他(電力新報社 1993)
- 323 『IAEA 査察と核拡散』今井隆吉(日刊工業新聞社 1994)
- 324 『核解体』吉田文彦(岩波新書 1995)
- 325 『核兵器のない世界へ』J ロートブラット(岩波新書 1995)
- 326 『パンフレット 今こそ非核を!』(1995)
- 327 『核兵器廃絶への道』朝日新聞大阪本社「核」取材班(1995)

9. エネルギー問題

- 328 『太陽エネルギー』押田勇雄(日刊工業新聞社 1958)
- 329 『エネルギー問題の原点』村田富次郎(三一書房 1960)
- 330 『現代日本産業講座 3』川村泰治他(岩波書店 1963)
- 331 『国際化時代の資源問題』資源研究委員会(大蔵省印刷局 1970)
- 332 『太陽エネルギーと地球』ルーシン・フルート(東京図書 1973)
- 333 『日本のエネルギー危機』鎌田勲他(日本経済新聞社 1973)
- 334 『新しい世界像を求めて』大来作武郎監修(ダイヤモンド社 1974)
- 335 『資源戦争』世も売り新聞社(1974)
- 336 『総合エネルギー統計(1972 年度, 1973 年度)』資源エネルギー庁長官官房総務課編(1972, 74)
- 336 『日本のエネルギー問題』通商産業省(1974)
- 337 『日本のエネルギー問題』岩尾裕純(時事通信社 1974)
- 338 『資源・エネルギーのすべて』崎川範行(高木書房 1974)
- 339 『エネルギーの技術と経済 (2)』日本科学者会議(大月書店 1975)

- 340 『昭和 50 年代のエネルギー』通商産業省(1975)
- 341 『あすのエネルギー』北陸中日新聞報道部(1975)
- 342 『崩壊するエネルギー文明』武田修三郎(講談社 1975)
- 343 『一日一億ドル(オイルダラーの実力)』マイケルフィルド(時事通信社 1976)
- 344 『エネルギー危機との戦い』一本松幹雄(至誠堂 1976)
- 345 『セブン・シスター (不死身の国際石油資本)』A サンプソン(日本経済新聞社 1976)
- 346 『2000 年のエネルギー』向坂正男(日本経済新聞社 1977)
- 347 『エネルギー危機の実態と展望』バリ・コモナー(時事通信社 1977)
- 348 『日本のエネルギー』岩尾裕純(共立出版 1977)
- 349 『エネルギーと未来社会』一本松幹男(日本工業新聞社 1977)
- 350 『現代エネルギー危機論』佐々木憲照(新日本出版社 1978)
- 351 『エネルギー問題の混乱を正す』星野芳郎(技術と人間社 1978)
- 352 『石油と原子力に未来はあるか』槌田敦(亜紀書房 1978)
- 353 『エネルギーとエントロピーの経済学』室田武(東経選書 1979)
- 354 『ソフト・エネルギー・パス』エイモリー・ロビンズ他(時事通信社 1979)
- 355 『手作りエネルギー』CH ストナー(講談社 1979)
- 356 『核新時代とエネルギー戦略』今井隆吉(電力新報社 1979)
- 357 『エナジー・フューチャー』ロバート・ストーホ他(日本経済新聞社 1980)
- 358 『エネルギー浪費構造』宮崎信夫(亜紀書房 1980)
- 358 『エネルギーと社会』竹下寿英(共立出版 1980)
- 360 『エネルギーの現状と未来』向坊隆(三修社 1980)
- 361 『日本のエネルギー問題』日本科学者会議(大月書店 1980)
- 362 『選択 エネルギーを考える』向坊隆他(三修社 1981)
- 363 『太陽エネルギーのフロンティア』斎藤義和(全国出版 1981)
- 364 『エネルギー危機克服へのシナリオ』HH ランズバーク(日本経済新聞社 1981)
- 365 『資源物理学入門』槌田敦(日本放送出版協会 1982)
- 366 『エネルギー経済学』WD ノードハウス(東洋経済新報社 1982)
- 367 『資源戦争』Mタンザー(大月書店 1982)
- 368 『エネルギー/戦争 非核未来への道』E ロビンズ, H ロビンズ(時事通信社 1983)
- 369 『グローバル・エネルギー・パス』国際応用システム研究所(1983)
- 370 『エネルギー戦争』エイモリー・ロビンズ他(時事通信社 1983)
- 371 『資源エネルギー・データ集』エネルギー省(電力新報社 1996)

10. 政治、社会、科学 概論

- 372 『科学政策と経済成長』経済団体連合会(1964)
- 373 『生き残る可能性』ジョン・ストレイチー(朝日新聞社 1964)
- 374 『二つの世界』フリッツ・ハーデ(日本評論社 1966)
- 375 『危険と希望 (現代史戦後編)』AK スミス(みすず書房 1968)
- 376 『転機に立つ人間社会』M メザロビッチ他(ダイヤモンド社 1975)
- 377 『浪費の時代を超えて』デニス・ガボール(ダイヤモンド社 1979)
- 378 『人類の使命』アウレリオ・ベッテエイ(ダイヤモンド社 1979)
- 379 『21 世紀への助走』尾崎正直(朝日新聞社 1980)
- 380 『南と北 - 生存のための戦略』プラント委員会(日本経済新聞社 1980)
- 381 『21 世紀へ生きる条件』コンラッド H ウォーデントン(三笠書房 1980)
- 382 『生存への契約』田原総一郎(文芸春秋 1981)
- 384 『未来のための 100 ページ』A ベッテエイ(読売新聞社 1981)
- 385 『西暦 2000 年の地球 1, 2 (環境編)』アメリカ合衆国政府(家の光協会 1980, 1981)
- 386 『地球の運命』ジョナサン・シェル(朝日新聞社 1982)
- 387 『成長の限界』DH メドウス他(ダイヤモンド社 1982)
- 388 『南北問題』斎藤優編(有斐閣選書 1982)
- 389 『ゼロ・オプション』EP トムスン(岩波現代選書 1983)
- 390 『炭酸ガスで地球が温暖化する』(ハイレイフ出版 1984)
- 391 『なぜ世界の半分が飢えるのか』スーザン・ジョージ(朝日選書 1985)
- 392 『21 世紀の地球環境』高橋浩一郎他(日本放送出版協会 1987)
- 393 『まだまにあうのなら』(地湧社 1987)
- 394 『人間は地球とともに生きられるか』日本学術協力財団編(1990)
- 395 『地球環境の危機』内嶋全兵衛(岩波書店 1990)
- 396 『地域社会の危機と再生 1』臼井久和他編(有信堂 1990)

- 397 『日本社会ははどこへ行く』渡辺洋三(岩波新書 1990)
- 398 『世界認識するシステム科学』市川傳信(三田出版会 1990)
- 399 『ネクスト・センチュリー』ディビッド・ハルバース(1991)
- 400 『多元的共生と国際ネットワーク 2』臼井久和他編(有信堂 1991)
- 401 『アジアの環境問題と日本の責任』宮本憲一(かもがわ出版 1992)
- 402 『資本主義はどう変わるか』工藤晃(新日本出版社 1992)
- 403 『科学の社会的機能(第一部)』DJ バナール, 坂田昌一他訳(創元社 1951)
- 404 『岩波講座 科学・技術と現代』坂田昌一他(岩波書店 1963)
- 405 『政府と科学』ドン K プライス(みすず書房 1967)
- 406 『科学入門 (科学的なものの考え方)』武谷三男(勁草書房 1970)
- 407 『現代技術と社会』日本科学者会議(青木書店 1971)
- 408 『公害・安全性・人権』武谷三男(読売新聞社 1972)
- 409 『現代生物学と弁証法』武谷三男他(勁草書房 1975)
- 410 『現代と自然科学』田中一(汐文社 1976)
- 411 『戦後産業史への提言(三)』近藤完一他(毎日新聞社 1978)
- 412 『現代工業経済論』川上幸一(税務経理協会 1980)
- 413 『抵抗の科学技術』梅林宏道(技術と人間 1980)
- 414 『日本の科学と技術』飯島孝(工業調査会 1981)
- 415 『科学と技術 - これからの 5 年間』全米研究会議(日経サイエンス 1982)
- 416 『創造性と文化と科学』伏見康治(共立出版 1989)
- 417 『核時代の科学者たち』パリティ編集委員会(丸善 1994)
- 418 『技術の黙示録』飯島孝(技術と人間社 1995)
- 419 『国際政治経済辞典』大島秀樹他編(東京書籍 1993)
- 420 『白き聖地ヒマラヤ』山田圭一(講談社 1982)
- 421 『隠されていた歴史』関東大震災 50 周年朝鮮人犠牲者調査追悼事業実行委員会 1974)
- 422 『関東大震災と朝鮮人虐殺』(現代史出版会 1975)
- 423 『真崎甚三郎日記』伊藤隆他(山川出版 1981)
- 424 『ゆるせない日からの記録 (写真集)』(麦書房 1960)
- 425 『ベトナムーその真実と私たちー』日本婦人団体連合会(1967)
- 426 『ベトナム, 中国, カンボジアの関係と社会主義』本多勝一(朝日新聞社 1979)
- 427 『ベトナムと思想の問題』芝田進牛(青木書店 1968)
- 428 『このインドシナ』本多勝一(連合出版 1980)
- 429 『「ベトナム以後」を歩く』小田実(岩波新書 1984)
- 430 『紀行日本の中の中国』竹内実朝日叢書(朝日新聞 1976)
- 431 『わが東条英機暗殺計画』津野田忠重(徳間書店 1985)
- 432 『原子炉の蟹』長井彬(講談社 1981)
- 433 『原子炉崩壊の日』H ジャクソン(朝日新聞社 1976)
- 434 『原子力帝国』R ユンク, 山口祐弘訳(アンビエール 1979)
- 435 『思想史を歩く 下』朝日叢書(朝日新聞 1974)
- 436 『技術史の旅』飯塚一雄(日立製作所 1985)
- 437 『海を渡る自衛隊』佐々木芳隆(岩波新書 1992)
- 438 『火の種蒔き(1884 年秩父事件)』A コルベジュ(あかし書房 1983)
- 439 『アラジンの火は消えたか』伏見康治(日本評論社 1996)
- 440 『ミリテックパワー(究極の日米摩擦)』朝日新聞(1989)
- 441 『海外電気事業統計』海外電力調査会(1991)

11. 著作集、定期刊行物

- 442 『科学についてー三宅泰雄科学論集1』三宅泰雄(水曜社 1978)
- 443 『原子力を考えるー三宅泰雄科学論集2』三宅泰雄(水曜社 1979)
- 444 『ただ一つの地球ー三宅泰雄科学論集3』三宅泰雄(水曜社 1979)
- 445 『自然科学概論第一巻〜第三巻』武谷三男編(勁草書房 1962, 1960, 1963)
- 446 『原子力と科学 著作集2』武谷三男(勁草書房 1968)
- 447 『戦争と科学 著作集3』武谷三男(勁草書房 1968)
- 448 『科学と技術 著作集4』武谷三男(勁草書房 1969)
- 449 『向坂正男記念集(I〜III)』国際エネルギー政策フォーラム(1981)
- 450 『有澤広巳の昭和史(学問と思想と人間と)』(東京大学出版会 1989)
- 451 『有澤広巳の昭和史(歴史の中に生きる)』(東京大学出版会 1989)
- 452 『有澤広巳の昭和史(回想)』東京大学出版会 1989

- 453 『朝永振一郎著作集・1(鳥獣戯画)』(みすず書房 1981)
- 454 『朝永振一郎著作集・2(物理学と私)』(みすず書房 1982)
- 455 『朝永振一郎著作集・3(物理学と周辺)』(みすず書房 1983)
- 456 『朝永振一郎著作集・4(科学と人間)』(みすず書房 1982)
- 457 『朝永振一郎著作集・5(科学者の社会的責任)』(みすず書房 1982)
- 458 『朝永振一郎著作集・6(開かれた研究者と指導者)』(みすず書房 1982)
- 459 『朝永振一郎著作集・7(物理学とは何か)』(みすず書房 1982)
- 460 『朝永振一郎著作集・8(量子力学的世界像)』(みすず書房 1982)
- 461 『朝永振一郎著作集・9(マクロの世界からミクロの世界へ)』(みすず書房 1983)
- 462 『朝永振一郎著作集・10(量子電気力学の発展)』(みすず書房 1983)
- 463 『朝永振一郎著作集・11(量子力学と私)』(みすず書房 1983)
- 464 『朝永振一郎著作集・12(紀行と閑談)』(みすず書房 1983)
- 465 『朝永振一郎著作集・別冊 1(学問する姿)』(みすず書房 1983)
- 466 『朝永振一郎著作集・別冊 2(日記・書簡)』(みすず書房 1985)
- 467 『回想の朝永振一郎』松井巻之介(みすず書房 1981)
- 468 『学者の手さび』伏見康治(みすず書房 1986)
- 469 『私の歩んだ道』中村誠太郎(東海大学出版社 1991)
- 470 『安川第五郎伝 (遺稿と追想)』(安川第五郎刊行会 1972)
- 471 『安川第五郎伝』(安川第五郎刊行会 1972)
- 472 『挑戦と創造』(大島恵一先生追悼出版委員会 1990)
- 473 『エゼクターから原子力への道程』高島洋一(1982)
- 474 『わが職業は死の灰の運び屋』佐久間稔(創隆社 1986)
- 475 『原子力屋の呻吟語』森山文彦(海鳥社 1995)
- 476 『東海原子力発電所物語』一本松珠几(東洋経済新報社 1971)
- 477 『航空ジャーナル・アメリカの核兵器』(航空ジャーナル 1984)
- 478 『電気評論(106)』(電気評論社 1976)
- 479 『動燃技報(85)』動力炉・核燃料開発事業団(1993)
- 480 『雄鷄通信(通巻 69)』はじめて公開された東京大空襲記録写真集』(1953)
- 481 『アサヒグラフ・原爆被害の初公開』(通巻 1460)(1952)
- 482 『アサヒグラフ・朝鮮戦乱の三ヶ月(通巻 1511)』(1953)
- 483 『アサヒグラフ・伊勢湾台風惨害特報(通巻 1883)』(1959)
- 484 『アサヒグラフ・安保の嵐・一ヶ月(通巻)』(1960)
- 485 『アサヒグラフ・特集ベトナム戦争(通巻 2285)(1967)
- 486 『別冊サイエンス(兵器と軍縮)』(日本経済新聞社 1980)
- 487 『別冊サイエンス(最新兵器と軍備管理)』(日本サイエンス社 1982)
- 488 『サイエンス(エネルギー特集)』(日本経済新聞社 1971)
- 489 『別冊サイエンス(レーザー - 未来をひらく光)』(日本経済新聞社 1975)
- 490 『別冊サイエンス(核戦争と医学)』(日経サイエンス社 1983)
- 491 『別冊サイエンス(SDIと核戦争)』(日本経済新聞社 1985)
- 492 『朝日ジャーナル・核軍縮実現への道(通巻 1268)(1983)
- 493 『朝日ジャーナル・人間衛星第一号』(1961)
- 494 『朝日ジャーナル・米国防省機密報告書』(1971.8)
- 495 『朝日ジャーナル(通巻 1191)』(朝日新聞社 1981)
- 496 『朝日ジャーナル・あなたは核兵器を知っているか』(1975.9)
- 497 『サンデー毎日・宇宙人間誕生す』(毎日新聞社 1961)
- 498 『週刊朝日・ケネディ大統領暗殺』(朝日新聞社 1963)
- 499 『週刊朝日・宇宙パイロット第一号』(朝日新聞社 1961)
- 500 『週刊朝日・人間月面に立つ』(朝日新聞社 1969)
- 501 『ジュリスト(原子力開発の現状と課題)』(1972)
- 502 『「世界」臨時増刊 総決算・湾岸戦争』(岩波書店 1991)
- 503 『「世界」(1992.11) プルトニウム大論争』(1992)
- 504 『「軍事民論」 戦争論を読む』(軍事問題研究会 1994)
- 505 『経済評論(通巻 32 巻第 8 号)』(日本評論社 1977)
- 506 『日本原子力学会誌』 第 25 巻(1983)4 号~6 号, 第 26 巻(1984)11 号~12 号, 第 27 巻(1985)6 号, 12 号, 第 29 巻(1987)1 号~3 号, 第 31 巻(1989)6 号~11 号
- 507 『核データニュース』 通巻 41 号(1978.1), 42 号(78.6), 48 号(80.2)~51 号(81.3), 53 号(82.5), 65 号(87.10)~70 号(89.10), 72 号(90.6)~75 号(91.6), 79 号(92.10)~84 号(94.6)(81 号, 83 号欠)

- 508 『公害研究』(学際的協力をめざして) 第15巻1号(1985.7)～4号(1986.4), 第16巻1号(1986.7)～4号(1987.4), 第17巻第1号(1987.7)～4号(1988.4), 第18巻第1号(1988.7)～4号(1989.4), 第19巻第1号(1989.7)～4号(1990.4), 第20巻第2号(1990.10)～4号(1991.4), 第21巻第1号(1991.7)～4号(1992.4)(岩波書店)
- 509 『環境と公害』(人と自然の共生を求めて) 第22巻1号(1992.9)～4号(1993.4), 第23巻1号(1993.7)～4号(1994.4), 第24巻第1号(1994.7)～4号(1995.4), 第25巻第1号(1995.7)～3号(1996.1), 第26巻第3号(1997.1), 第27巻4号(1997.7)(岩波書店)
- 510 『季刊 戦争責任研究』第9号(1995.9)～14号(1996.9), 17号(1997.9)～20号(1998.6)(日本の戦争責任資料センター)
- 511 『平和研究』(年刊)第15号(科学と平和 1990.11), 16号(グローバルデモクラシー), 17号(自治体の平和と外交), 18号(冷戦後の平和研究), 19号(平和的変革), 20号(21世紀へのオールタナティブ), 21号(持続可能な発展と日本の選択, 22号(地球市民社会の安全保障 1997.11)
- 512 『技術と人間』
 245号(チェルノブイリ事故から8年 1994.4)
 246号(平成時代の大学 1994.5)
 247号(自動車社会を問う 1994.6)
 248号(朝鮮半島の核問題 1994.7)
 249号(時代の転換と村山政権 1994.9)
 250号(動き出す韓半島情勢 1994.10)
 251号(マルチメディア 1994.11)
 252号(ポパール事故。終わらない悲劇 1994.12)
 253号(阪神大震災の技術者の責任 1995.2)
 254号(瓦礫の都市から現代技術を問う 1995.3)
 255号(闇をひた走る日本の核 1995.4)
 256号(来世日本の異常事態 1995.5)
 257号(“社会主義”国家の遺産 1995.6)
 261号(核なき世界をどうつくるか 1995.11)
 262号(冬を迎える震災地 1995.12)
 263号(「もんじゅ」破綻への道 1996.2)
 265号(チェルノブイリ事故から10年 1996.4)
 266号(放射線被曝 1997.5)
 267号(バイオテクノロジーの危険性 1997.6)
- 513 『軍縮問題資料』85年1月号(通巻50号)～96年12月号(通巻193号), 97年9月号(通巻202号)～98年2月号(通巻208号)(通巻206号欠)
- 514 『日本原子力発電株式会社社報』26号(1964.6)～88号(1979.11)
- 515 『原電レポート』No.2(1961.12), 4(1962.8), 5(1962.11), No.9(1963.11)～34(1973.7)(No.12, 27欠)

芙美子～立花昭

寄贈:23240 ⑨363:298

生 ⑧寄贈:23241

1、1年生 ⑧寄

なれている

250



国際平和ミュージアム

Kyoto Museum for World Peace,
Ritsumeikan University

[illegible]

父としての立花 昭

立花昭・アラカルト

父、立花昭が亡くなって10年がたちました。亡くなる一週間前に生まれた長男は既に小学校4年生になっています。遺された私たちがこの間を無事に過ごすことができたことについて、皆さまに感謝したいと思います。そして、自分がいなくなった後を用意周到に手配りしていた父にも、感謝しています。

また、今回、このような冊子がまとめられますことを家族一同たいへん喜んでおります。関係された方々のご苦勞は、一方ならぬものであったと思います。誠にありがとうございました。

父は自分の葬儀についても、私たちに「太げさなことはするな」と厳命するような人でした。ですから、私たちは思いっけどおりに家族だけで葬儀を行い、皆さまには事後報告という形をとらせていただきました。多くの方々へ失礼をいたしました。父とのつきあいが長い皆さまには、「立花昭は、最後まで立花昭であった」とご理解いただけたらと思うています。そういう父でしたから、こうした本についてもおそらく「余計なことはするな」と言ったと思います。ですので、私は反論します。「別に父さんのために作るわけじゃない。ある人が遺した資料を今後有効に活用するためには目録が必要で、だからこれからの人のために作るんだ」と。すると、ニヤッとしながら、「それなら、仕方がない」としぶしぶといったポーズをとりながら了承したと思います。（おわかりだと思いますが、正直、家族としても扱いが難しい人物でした。）

と、言うことですので、あまり表立ってというわけにはいきませんが父に見つからないように）、父の思い出について、二、三ご紹介したいと思います。

私は幼いころから野球をしており、高校まで続けた野球少年でした。です

父としての立花 昭

立 花 実

父、立花昭が亡くなって10年がたちました。亡くなる一週間前に生まれた長男は既に小学校4年生になっています。遺された私たちがこの間を無事に過ごすことができたことについて、皆さまに感謝したいと思います。そして、自分がいなくなった後を用意周到に手配りしていた父にも、感謝しています。

また、今回、このような冊子がまとめられますことを家族一同たいへん喜んでおります。関係された方々のご苦勞は、一方ならぬものであったと思います。誠にありがとうございました。

父は自分の葬儀についても、私たちに「大げさなことはするな」と厳命するような人でした。ですから、私たちは言いつけどおりに家族だけで葬儀を行い、皆さまには事後報告という形をとらせていただきました。多くの方々にたいへん失礼をいたしました。父とのつきあいが長い皆さまには、「立花昭は、最後まで立花昭であった」とご理解いただけたらと思うています。そういう父でしたから、こうした本についてもおそらくは「余計なことはするな」と言ったと思います。ですので、私は反論します。「別に父さんのために作るわけじゃない。ある人が遺した資料を今後有効に活用するためには目録が必要で、だからこれからの人のために作るんだ」と。すると、ニヤッとしながら、「それなら、仕方がない」としぶしぶといったポーズをとりながら了承したと思います。（おわかりだと思いますが、正直、家族としても扱いが難しい人物でした。）

と、言うことですので、あまり表立ってというわけにはいきませんが（父に見つからないように）、父の思い出について、二、三ご紹介したいと思います。

私は幼いころから野球をしており、高校まで続けた野球少年でした。です

が、父とはただの一度もキャッチボールをしたことはありません（できなかったのではないかと考えています）。試合を見に来たことも、たぶんないと思います。学校の運動会や授業参観も後ろの方からソーツと見て、サッサと帰ってしまっていたようです。普段の日は仕事から帰ると、食事をした後は毎日きっちり11時55分まで書斎に籠っていて、12時に寝るという生活でした。休みの日も朝からずっと籠っていて、お出ましになるのは食事とトイレと気分転換の庭の草むしりといった具合でした。ですが、だからといって、子どもとして不満だったということではなくて、「僕の父さんは他所の父さんとはちょっと違うみたいだ。そういうもんなんだ」と思っていました。どちらかというと、むしろそういう姿を誇らしく思っていたと思います。

高校生ぐらいになって多少衝突し始めると（大いに面倒くさい存在に感じられるようになると）、父の大きさを思い知らされました。理路整然と筋道を立てて説明し、なおかつ私たちのためを考えていることがよくわかるので、反論もできない。何か失敗をしでかすと、子どもながらにしまったと思うものですが、「こういうことになった原因はなんだと思うか」という自己分析から始まり、「それについてどう思い、今後どうするのか」ということについて考えさせる。それを文章に書かされて提出したこともあったと思います。それもただの反省文ではだめで、今後どうするのかという部分をしっかり書いていないと合格させてもらえませんでした。そしてたいがい最後は、「君だけで生きているわけではないんだ」ということになるのですが、子どもながらに「そこまでやらなくてもいいのに」と思ったものです。母に言わせると、「お父さんはまわりを全部理論で固めて、逃げ場をなくしてから攻めてくる。一箇所ぐらい逃げ道を残しておいてくれるのが男ってモンでしょ。」ということになります。自分に厳しく、そして他人にも厳しい物理屋の子どもを務めあげるのも、それなりに苦労があったわけです。おそらく、共感していただける方も多いと思います。

こういった厳しい面がある一方で、なかなか態度には表しませんでしたけれど、家族に対する想いは強かったようです。私が結婚するときも、二人の前に

六法全書を持ってきて、「婚姻は両性の合意のみに基づいて成立する。君たちがそうしたいなら、そうしなさい」とだけしか言いませんでした（ちょっとかっこつけ過ぎの気もします）。私に子どもが産まれたときも、「子を持って知る親の恩というが、そうではない。子をもって知る子の恩なんだ」と言い、子どもを持つことによって親が成長すると言っていました。幼少時に普通の家庭を知らずに育った父の実感だったのだと思います。

また、これは父が亡くなってからわかったのですが、父の定期入れから結婚した当時の母の写真が見つかりました。ボロボロの白黒写真ですが、何回もテープで貼り直してあり、これを持ち歩いていたとは普段の父からは全く想像できないことでした。母曰く、「それならそうと言ってくれればいいじゃない」。それができないのが父なんです。

ご存知のとおり、父は永く原子力関連の仕事に関ってきましたが、その基本には原子力の平和利用と核兵器の廃絶がありました。原子力を戦争に使ってしまったことへの物理屋なりの責任を痛感していたようです。体調を崩す前十年ほどは、毎年元旦の朝に「親父のやることは、原子力の平和利用と核兵器廃絶だ」と宣言していました。全員がテーブルにつき、お雑煮を前にして、そういうことを言われるのは家族にとってはいい迷惑なのですが、考えてみれば自分のやるべきことを家族に宣言できるというのは幸せなことだったと思います。こういう個人の力では到底どうにもならないことを真剣に考えている、それが立花昭でした。

私の妹は、今でこそ関心が高まっていますが、当時はマイナーな存在であった環境化学を専攻し、現在は埼玉県で大気汚染や水質汚染の調査、環境保全の対策などを仕事としています。私は、父や妹とは全く畑の違う考古学を勉強し、今は神奈川の伊勢原市の教育委員会で、毎日遺跡の発掘、文化財の調査に従事しています。開発によって消滅していく文化財を保護、記録していく仕事ですが、役所内部からは「お前は、市の発展の阻害要因だ」と言われています。

かたや生産の効率性を落とし、かたや開発事業の足枷となる。兄弟そろって発展の邪魔をしているわけです。企業や不動産業者から見れば首を絞めてやりたい存在かも知れません。これは何も示し合わせたわけではなく、気がついたらこうなっていたのですが、よくよく考えてみると父の影響なのかもしれません。父がにんまりしていると思うと、なんだかお釈迦様と孫悟空のようで、少々癪に障ります。しかし、生産やその効率性、経済性や利潤を追及することによって、私たちが逆に失ってきたもの、或いは失われつつあるものを評価し、そこに価値を見いだす。そうした価値観は私たちが父から教えられた大切な財産だと思っています。

このように、父は私たちにとっても大きな存在でした。亡くなって既に10年になりますが、ちょくちょく思い出しますし、時々夢にも出てきます。その多くは私にとってあまり好ましくない状況での出演になりますので、朝起きると懐かしいというよりも、もう少し臨場感のあるひんやりした感覚を覚えます。母などは鏡割のお汁粉、お彼岸のおはぎ、そして初秋の巨峰と（全部食べ物絡みですが）季節の節目ごとに思い出しているようです。

息子が言うのも何ですが、立花昭は本当にまっとうに、そして恐ろしく不器用に生きた人だったと思います。まだまだ、やりたいことはたくさんあったとは思いますが、精いっぱい生きたと思います。病床で母に、「自分でもよく生きたと思う」とつぶやいたそうです。幸せな人生だったと満足していると思います。

立花昭は、立花昭を理解する方々がいなければ、立花昭たりえませんでした。そのことは、本人もよくわかっていたと思います。立花昭の人生に関わり、それも、懲りずに関わり続けていただいた多くの方々に対し、母、妹とともに心より感謝いたします。

〔追記〕

私も物理屋だという自覚がある方々へ

万一、病気になったときには素直に家族の言うことを聞いて、おとなしくしていることをお奨めします。病院での問診で、先生に「今日は何曜日ですか」と問われ、「私は毎日が日曜日です」といった返答をすることは控えたほうが無難です。理屈を並べて周りを困らせたり、警戒心を抱かせたりすることなく、家族とともに穏やかに過ごすことが、早期回復へとつながります。



父・昭

山の仲間 ― 高校時代から

喜熨斗 政 夫

「おい。この辺でオカン（野宿のこと）にしようや。もう歩くのはいやになったよ。」立花はそう言いながら重いザックを下ろそうとした。冗談じゃない。ここは2,500メートルの稜線上、10月とは言え天候が崩れると新雪が降りかねない。アサヨの頂上で飲んだ気付け薬のブランデーが利きすぎたかとも思ったが、「もう少しで早川尾根小屋だから、元気を出して歩けよ。」と尻を叩きながら歩いてやっと小屋に着いた。

あれは戦後間もない昭和23年（1948年）の事だった。まだ南アルプスには行ったことがなかったので立花を唆して二人で甲斐駒から北岳を目指した。戦後間もない頃だから、食料難の折から山登りなんか出来ない時代だったが、若さというのは恐ろしいもので、なんとかかんとか工面をしながら山に登っていた。南アルプスは戦時中の荒廃が未だ整備されていなくて、この時も広河原小屋などは柱が全部倒れたため屋根だけが床の上に被さっていて、僅かに残っている隙間に二人やっと潜り込んで寝ていた。立花とはそんな時代に山行を共にした仲間であった。

* * *

立花は昭和20年（1945年）に旧制東京高校に入学した。私も同期で理科の同じクラスとなり、終戦前後の混乱期を共に過ごした。その頃私は小田急沿線の代々木上原に住んでいたが、新宿まで行く間にある参宮橋の駅の近くに瀟洒な洋館があるのに子供の頃から気がついていて、彼に聞いてみると、それが立花の家であった。さすが柳川の名家だなど思ったのを憶えている。残念ながらその家は戦争末期に5月の空襲で焼け落ちてしまった。

終戦直後は日本中の人々が食べることに狂奔せざるを得ない時代で、学校も満足な授業も出采ずに休暇ばかり長く、学生は高邁な精神を論議して空腹を癒していた。その頃は体を毀して休学する学生が多かったが、立花も留年して一年下となった。

そのような中で青春の捌け口を求めて山登りを志向するグループが出来て、多くの山行実績がある先輩に指導を受け、戦争末期には中絶していた山岳部を再建したのもこの頃であった。私も山登りの経験は少ししかなかったが、新生の部活動に入ってしまった。

当時は経済的にも気楽に遠くの山には行けなかったので、我々は近場の丹沢山塊に行くことが多かった。立花は山麓の秦野に住んでいた事もあってか、山岳部に参加してきた。

一緒に山に行ったのは昭和21年（1946年）12月の後立山・八方小屋スキー合宿が最初であった。彼はスキーの経験があったようでヒッコリーの長いスキーを担いできた。我々は初心者なのに始めから山スキーを先輩から叩き込まれて、四苦八苦していた。この合宿中に八方尾根上部の稜線を滑って下っていたとき、吹雪いていたので視界が悪く、立花が反対側に飛び出して見えなくなったことがあった。後から滑っていた者は、立花が急に消えてしまったので一瞬何が起こったのか分からなかったそうだ。幸いに落ちたところが緩傾斜で無事に上がってきたが、普段は何をやるのにも慎重で緻密な彼が、時々思いがけない事をやって驚かされる一端でもあったのだろうか。始めに書いた南アルプス山行の時も同じであろう。

それからの立花は憑かれたように山にのめり込んでいった。翌22年（1947年）は丹沢の沢登りに3回、夏の穂高岳涸沢合宿、11月には学連の富士山雪上訓練に参加とクライミングを指向していった。23年（1948年）には1月に蔵王コーボルトヒュッテでのスキー合宿にサブリーダーとして参加、3月には白馬杵池スキー合宿中に起った成城高校山岳部遭難に頂上まで行き救出、5月に

霊取山、6月には穂高岳西穂山稜・奥又池、8月には三ツ峠岩登り、10月に前記の南アルプスと続いている。

この頃、「山岳部は如何にあるべきか」と悩んで、皆で夜を徹して話し合った事があったが、スポーツ・アルピニズムと逍遙登山に分けると、立花はどちらかと言えば後者に傾いていたと記憶する。このような時にも、彼は自分の考えはしっかりと持っていて、他人の考えには安易に同調せず、「和して同ぜず」という姿勢を貫いていた。

しかし、学制改革のため旧制高校は廃止され、山岳部としての山行もこの夏で終わりとなったので、後は個人山行に委ねられてしまった。

* * *

昭和24年(1949年)3月に東京高校を卒業してからは、立花がどのように山に登っていたかは定かでない。山岳部OBの会として「峠の会」という集まりがあるが、当時は会合しか行なわれず、私自身も個人的に先輩・友人と山行を行っていた。そのうちに学生でなく社会人となってからはお互に時間の余裕もなく、仕事の方に傾注していつて互いに疎遠となっていった。

山岳部の仲間の中にはヒマラヤを目指して山中心の生活をしていた者もいたが立花はどこか醒めている所があつて、山は楽しんで登るものと考えていたようだった。

社会人になってからも時には山に登っていた思うが、恐らく飄然として山脈を歩ていたことであろう。

立花と再び交流するようになったのは、峠の会が活性化してきた頃である。記録では昭和46年(1971年)4月の会合に出席している。それ以降は懇親会・忘年会には殆ど出席していたが、スキーの会には参加していない。スキーはもう止めていたようだった。山歩きに同行するようになったのは昭和57年

(1982年) 6月の志賀高原からである。その前年の立山には参加申込をしていたがアメリカでの学会出席のため取り消している。この頃は仕事で忙しかったのであろう。仕事の話は殆どしなかったので、我々の中には彼の業績・活動について良く知っている者は居なかった。自分の業績について得々と話すような人ではなかった。

志賀高原以降は彼も春・秋の山旅によく参加するようになり、私も会の幹事をするようになって、また交流を重ねていた。その山旅の時にも、彼は相変わらず飄々として山歩きを楽しんでいたようだった。

その立花が何となく元気がなくなってきたように見受けられたのは何時頃からであろうか。平成6年(1994年)の春に後立山の遠見尾根に行っただ時、「膝が弱くなって」と書いているから、その頃から宿病に冒されていたのかも知れない。それでもこの年の秋に秋山郷の紅葉を訪ねた旅では車に乗っている事が多く、あまり歩かなかっためか、二日間元気で過ごしていた。

しかし、峠の会の山旅に来ることが出来たのはこれが最後で、忘年会にも欠席するようになってしまった。平成7年(1995年)の忘年会には出席と連絡してきたが前日になって取消している。

最後に忘年会に出席出来たのは平成8年(1996年)で、場所は池袋のホテル・メトロポリタンであった。ここは池袋の西口にあり、駅の斜め前100メートル位の処だが、立花は、歩けなくなって、ここまで来るのに何回も休まなければ来られない」と嘆いていた。長く立っているのも辛いらしく、会が始まるとすぐに帰宅してしまった。そのために出席者一同の記念写真には彼は写っていない。今では残念なことをしたと悔やんでいる。体調が余程悪いのに、無理をして出席してくれたとは気がついたが、幹事としての仕事に追われて十分な配慮も出来ず、申し訳ない次第であった。結局これが彼との別れとなってしまったのであるから。翌々年彼に永遠の眠りが訪れた。

* * *

今振り返ると、長い人生のなかで、立花とは山を介在しての短い交錯だったと思う。しかし山登りというのは、重いザックを背負って喘ぎながら苦しさ能耐えて同じ目標を連成するなかに、奇妙な連帯感を培って行くものである。その意味でも、彼は決して忘れられない人であった。それは彼の人柄から来るものだろうし、山の仲間という連帯感に基づくものでもあろう。そのことを話し合おうとしても、彼はもういない。

原子力開発の渦中に身を投じて

森 一 久

日本の原子力開発の幕開けと若手グループ

日本が平和利用の検討を本格化したのは、講和条約が日程に上り始めた昭和26年（1951）頃からであるが、その萌芽は何よりも、「原爆の子」（長田新著）にあるように、核兵器廃絶への悲痛な願いとともに、この凄まじいエネルギーを「人類の幸福に役立てて」という真摯な訴えであった。学界では、米国などからの平和利用の技術情報の模索と、日本で将来にわたり軍事を排除する事が可能か、その事を保証するにはどうすればいいかをめぐる議論とが展開された。その先導役を勤めたのは、学界では物理学者を中心に、早く米国に渡り直接情報を日本に提供した嵯峨根遼吉ら。そして平和利用着手の条件をめぐる議論をリードした茅誠司・伏見康治ら、それに後述の若手グループ「原子力談話会」であった。

政界でも中曽根らが予算化を急ぐなど積極的な活動を始めていたが、一方、悲惨な敗戦の責任を痛感しつつ日本復興のエネルギーとして、原子力への期待に駆られた、いわば「旧」指導者層の人のグループがあった。すなわち、後藤文夫（二・二六事件当時の内相）はすでに昭和23年末、巣鴨獄中で米紙から原子力発電予算化の動きを知り、釈放の後（財）電力経済研究所（以下、電研）を立ち上げ、橋本清之助らと共に、原子力の調査研究に着手していた。それに経団連など産業界の関心も高まってきた。

流れを作った電研と若手グループの出会い

物理・化学の研究者ら若手グループの間では、この重大問題に対する次世代の発言を活発化するべく、勉強会を作ろうという気運が高まり、服部学・大塚益比古と筆者らの呼びかけで五十人余りが参加する、昭和29年8月「原子力コロキウム」を開き、同月続いて自主的な組織「原子力談話会」を立ち上げた。

(コロキウムの写真は本書の冒頭にかかげた。コロキウムの詳しいプログラムは、本稿の末尾 87 頁にのせてある。)

そして、この「談話会」では平和利用着手の是非と、もし着手する場合の条件とについての議論を重ねていた。丁度その時、電研が「着手を急げ」という趣旨の「建議」を発表した事を新聞で知り、この「談話会」代表が、丸の内赤レンガの仲十二館の同研に、反論・抗議に乗り込んだのであった。

応対に出たのは、前記橋本と津野田知重の常務理事ならびに早川淳一事務局長。談話会側は、原爆体験からも平和利用といえども、着手の是非については、先ずは慎重に議論を尽くすべきことを繰り返し主張し、電研側は、軍部の独走を許した「戦争責任」を痛感すればこそ、日本復興への原子力平和利用の可能性に強く期待するのだ、「むしろ貴方ら若い者こそ、開発に参加して、間違いない開発目指し、チェックすべきではないか」と、互いの「真意」を、率直に長い時間ぶっつけあった。

そして、談話会側と電研側とは、世代の違いを超えて、互いの「真剣さ」に一種の共感を持つに到った。その結果、森の勤め先（中央公論社）が丸ビルで電研と至近だったこと、また早川と森が旧知の間柄であったという「偶然」も重なって、両者は（立場の違いに一線を画しつつも）情報交換や資料の翻訳・解説などで具体的な協力を深めたのであった。

先陣を切った立花

その直後のこと、電研の理事長小坂順造が、新設された「電源開発株式会社」（前年からの民間九電力体制では開発困難な大規模水力開発などを担当する国策会社、以下「電発」という）の総裁に就任しており、同社に原子力の調査研究部門を置く準備を急いでいた。そして、専門家を採用すべく、「談話会」に推薦を要請してきたのであった。これは、森にとってもいささかの驚きであり、会の幹事諸氏も、一体そこまで電研との関係を深めてよいものか、一度全員の意見を求めねばならないということになった。

談話会では早速、幹事に会員有志を加え、臨時打ち合わせ会を開き鳩首協議した。そのころは、すでに突然の原子力予算や開発体制・法律の具体化が始

まっており、もう座視できない状況になっていたが、だからと言って、その一端に加わるとなれば、その是非については会員一人一人に意見があった。甲論乙駁、長時間の議論を重ねたが、その結果、会として「推薦」はしないこと、しかしもし電発の原子力要員として入社希望者があれば、それを取り次ぐのは差し支えなしということになった。そしてこの結論を、「談話会だより」に詳細に記載して、全会員に送りつけたのであった。

談話会としてのこの決定は、事実上、「入社希望者」、とくにその第一号の人に、重い責任を押し付けた結果になったに違いない。そのとき、東京文理科大（現、筑波大）卒業、大阪市大大学院に進んだばかりの立花昭が直ちに手を上げ、電発原子力室に専門家第一号として入社した。さきのコロキウムから僅か1ヵ月余のことである。

彼が、基礎物理研究の道を捨て、原子力開発の渦中に率先とびこんだ、その理由は（本書にも若干のヒントはあるが）本人のほか知る由もない。早速国連主催の第一回国際原子力平和利用会議（通称ジュネーブ会議）に代表団「顧問」で参加して大量の論文を持ち帰って解説するなど、活発な活動を開始した。

談話会メンバーが加わって

次いで立花の大学の後輩に当たる平田昭が、2年遅れて談話会幹事の大家が入社、それに筆者は何人かを推薦した。電発も社員の中から意欲あるメンバーを、原子力室に加えていった。（なお筆者森は、橋本に協力し、民間の原子力総合組織「原産」を立ち上げるなどしていたが、やがて中央公論社との「掛け持ち」が限界となり、電発に入社、即日、創立したばかりの「原産」に出向した。電発および原産との間を、昼夜行き来して勤めたが、原産と電発とは立場や考えも食い違う場面も多くなり、昭和38年には原産専任となった。）

さて電発の原子力室には、技術者ばかりでなく、原子力にまつわる、経済・社会・国際の諸問題をも研究し対応するスタッフも、社内からの異動も含め、加えていった。室長の川村泰治（満州鉄道調査部出身）、佐久間稔（慶応大経済卒、新採用）、下山俊次（学習院大法卒）などであり、国策会社らしく、技術だけでなく、幅広く調査して、原子力について政策判断できる組織を目指し

ていた。

立花の飛び込んだ「世界」

すでに55年も前のことであり、この電発原子力室なるものが、如何に（特殊な）存在であり続けたか、客観的に記述した資料は殆んどない。しかしそれを記述しなければ、立花の活動というものを律し続けた「場」あるいは条件が、従って立花の努力の内容やその苦勞が、理解されないので、敢えて駆け足で述べておきたい。

キーワード式に言えば、①電発の（当時の）電力業界における立場、②物理屋と民間産業の「空気」の違い、③自己責任と現実との相克、④核軍縮と平和利用との矛盾と開発路線……等々となるであろう。

先ず①と②について言えば、電発の原子力室の雰囲気は、普通の民間会社とは一味違い、極めて開放的で、物理屋特有の歯に衣着せぬ言動も、受け入れられるような空気であった、職員各人の、責任ある積極的な提案なら、大体通った。それは、国策会社であり、また室長川村の鷹揚な人柄も、それに総裁補佐の「秘書役」が前記の津野田だったことも幸いした。だから立花は前記のように、第一回ジュネーブ会議に出席するなど、次々と情報・資料を運んできて、室員一同の「知識欲」に報いていった。次いで原研に、さらに米国の民間の原子力産業の中核ノースアメリカン社に、出向、各種の炉の研究にも参加し、自身の「充電」と情報収集とを重ねた。

しかし暫くして、原子力開発は「国か民間か」の大論争の結果で発足した組織『原電』に出向してからは、電発原子力室をとりまく環境は変化し、それは立花の働く環境をも動かした。

その経緯を略述すれば、国も役所も国民に信用大であった当時のこと、民間電力にとって、とくに、過去の戦時中の悪夢のような「国家管理」への警戒心は凄いのもの。原子力開発は「官か民か」で大論争の末、「民間8割、政府（電発）2割」の日本原子力発電会社（原電）が「初期の原子力発電を担当する」事で妥協が成立した時、電発では原電に出向するか電発に残るかは、個人の意思を尊重して決めさせ、取り敢えずほぼ半数が出向したのであった。

腕を磨くは現場、と

立花は、技術の現場に出るべく、当然のように原電に移る。彼の意欲・知識・経験は既に、他の電力各社からの出向者より一頭地抜きん出ていたもので、同社でも望んだ仕事に取り組むことにそれほど抵抗は無かったであろう。しかし、何しろ会長・社長は代々「東京電力と関西電力の交代」と決っているような原電のこと、電発出身者は民間電力からの人と同じとは行かない立場、であり続けた。しかし自身の「地位」など眼中に無い彼は、技術的な実力で伸び伸びと活躍して、このようなハンデも感じさせず、後ろ指を差されることも無かった。特に関心強い高速中性子炉などの新型炉開発関係の仕事には、買って出ても取り組んだ。しかし一時は、会社の組織分掌の変更から、(大) 東京電力相手の、売電価格交渉の責任者ということにされ、「何事も経験」と朗らかに取り組んではいたが、精神的ストレスもさぞ大変と、筆者も心配したこともあった。

そして原電の高速炉開発部長として、立派に「定年」を迎えたのであった。(しかし親元の電発には原子力への出番は何十年も与えられず、後ろ髪をひかれる気持の連続だったのは、みな同じであったに違いない。—— 数少ない文献の一つ「小史(財) 電力経済研究所」平成 19 年を参照)

なお電発に原子力部門ができ立花が入社して今年で 54 年、民営化された同社(通称「J パワー社」)は、青森県大間町で(全炉心プルトニウム混合燃料の)はじめての原子力発電所を着工した。誠に「長すぎた春」である

核兵器問題、平和利用との関係 — 彼の考えは

本問題についての立花の考え、活動の概要は、別項(菅沼氏の論考)にある。人類の存続を脅かす核兵器、その廃絶という「悲願」は決して諦めてはならぬが、核兵器の存在を前提にした、今の世界の「平和利用」は所詮あだ花にすぎないということもはっきりして来た。米国が世界最初の原子力による発電を行ったのは高速増殖炉 FBR だった(1951 年 12 月)のに、それがソ連との冷戦下の厳しい競り合いが平和利用の主導権争いに飛び火して、米国は「軽水炉」に急転向したのがキッカケで、今のような軽水炉全盛の時代になってしまった。そしてインドが研究炉からの Pu で原爆実験するという事態に、米国はまたま

た政策変更し、非核国に対し核兵器材料のプルトニウムを大量生産する再処理FBRの禁止を打ち出し、自らも商業化の努力を放棄して今日に至っている。

この辺の経緯と筋道は、彼と何度も話し合った。平和利用の最大の障害は核兵器の存在であり、とくに1995年の核兵器拡散防止条約NPTの期限切れの時、大国の主張「NPTの無条件かつ無期限延長」に絶対反対と意見が一致した。森も原産の広島大会で市民とともに、明確な共同声明を出し、「賛成」の政府と対立したし、彼は関係する会合でそれを主張したのであった。（この辺は、手元にある彼から私への多くの手紙に残っている。）

この視点を明確に持ち続けた立花が、一貫してFBRの分野に積極的に携わった、その気持の拠り所は奈辺にあったのであろうか？（FBRが自由に使える）「核兵器の無い世界」の到来を信ずるという（この事も彼の手紙に明記されている）、彼の気持を支えたものは何か。これは、あの世の彼と話したい事の一つだが、「理想を捨ててどうなる」と噛み付かれるに違いないが。

漠然と筆者に見えることは、次の世代への強い「期待」のようなものである。それは彼が原子力のすべての「資格」と更に技術士をも取得していた上に、博士号も取って置こうとしていたこと、いや何よりも、本書の中心をなす「立花資料館」の、この膨大さに示されているのであろう。実際病に犯される前には何人かの友人と共同研究を計画していたし、また資料の中には年間講義「人類と核の共存を目指して（第一素案）」（文書番号366-171）というレクチャーの原案らしきもの等が散見されるのである。

原子力コロキウム・プログラム(1954.8.10-16)

(立花昭のノート(文書番号 366-1)から復元)

- 8/10
- ・総 論 1. 原子力の現状 (大塚益比古)
 - 2. 原子力の社会的意義 (広重 徹)
 - 3 原子力の歴史 (岩垂純二)
- 8/11 8:40-12:00
- ・原子核物理学(核反応, 核分裂) (長原幸雄)
 - ・放射線の測定 (小林久信)
- 8/11 14:30-18:00
- ・放射化学(放射科学的分離) (夏目晴夫)
 - ・U, Th, 炉材料(地球科学) (島 誠)
- 8/11 19:30-21:30
- ・特別講義(俊鶴丸によるビキニ海域調査) (岡野真治)
- 8/12 8:40-12:00
- ・U 同位体分離 (松尾禎士)
 - ・重水分離 (神保元二)
 - ・放射線化学 (柴田長夫)
 - ・フランスの原子力事情 (三雲 昂)
- 8/12 14:30-18:00
- ・原子炉の理論 (矢島信男)
 - ・ノルウェーの原子力事情 (大塚益比古)
- 8/13 8:40-12:00
- ・原子炉の実例 (浅見哲夫)
 - ・原子炉物理(定量的取扱 1) (大塚益比古)
- 8/13 14:30-18:00
- ・原子炉物理(定量的取扱 2) (大塚益比古)
 - ・原子炉の構成材料(燃料, 減速材, 反射材, 遮蔽材) (三雲 昂)
- 8/14 8:40-12:00
- ・原子炉の構成材料(冷却材, セラミクス燃料) (小寺正俊)
 - ・原子炉の熱伝達 (森 一久)
 - ・イギリスの原子力事情 (服部 学)
- 8/14 13:00-14:00
- ・超ウラン元素の化学 (佐々木行美)
- 8/14 19:30-
- ・現状報告 (日本学術会議原子力問題委員会委員・浜田成徳)
 - ・中間討論
- 8/15 8:40-12:00
- ・原子炉利用(中性子, 熱) (立花 昭)
 - ・原子炉の操作 (服部 学)
- 8/15 14:30-18:00
- ・原子炉安全(放射線衛生, 放射線防護, 使用済燃料処理) (大塚益比古, 立花 昭)
- 8/16 8:40-12:00 14:30-18:00
- ・自由討論

電発の初期、組合そして結婚

湯 本 用 吉

立花さんと最後にお会いしたのは、永島さんの絵の展覧会々場、つい、先日と思ったが念のためアルバムを繰ってみると「1992. 4. 20 付、永島さん、立花さん、笠原さん、田口さん、私の電発の5名、裏面に永島兄恵送と記された写真」が出てきた。6年も前のことであった。その時、皆で近くの蕎麦屋に上がり四方山話をした。立花さんとは別れ際にリタイヤしたら昔の仲間と一献酌み交わしたい等と言いあって別れたのが彼と会った最後となった。

労組関係者で何か話すよう大石さんから言われたとき、労組結成時から早や40数年が経過している、早いものである。顧みると立花さんとの初めて出会いは、電発本社が第2鉄鋼ビルへ移転（昭和54年）して聞も無くのこと、企画部調査室の中に原子力担当セクションが設けられた。

同部企画課に所属していた私は、当時、私一人が月100時間を越える残業を強いられていた。私が残業していると大部屋の隅で一人（片岡さんも？）で残業している原子力の新人がお茶を汲んでサービスしてくれた。その新人が立花さんであった。

以来、毎晩立花さんからお茶のサービスを受けるようになった。小休止の茶飲み話に電発に労組がないのはおかしい等と労働運動や平和運動について話すようになった。私は、そのころ下山俊次さんから地下の喫茶店ハニーに呼び出され、一期生も応援するからと労組結成について相談をうけていたので、次第に労組結成について二人で話すようになった。

他方、時を同じくして久保さん、大石さんらの労組研究会に誘われ私は会発足当初よりこれに参加した。その研究会は、後に立花さん達多くの若い人達を集め労組結成準備会へと発展、1956（昭和31年）8月電発労組が誕生した。

当時、私の次女が小児喘息で苦しんでいた、高地に住めば喘息が治ると医師の勧めにより山中湖に開設したばかりの会社の山の家へ転地療養させた。その山の家は蔦の絡まる瀟洒な白壁の洋館、多分昔、華族さまの様な人達が住んで

いたのだろうと家内と話しあった。そのことを立花さんへ話したところ、彼の別荘であつたが留守番の管理人が米軍相手のバンパン宿にしてしまったので、売却したものと判った。家内と想像していた嘗ての住人は目の前の立花さんであつた。

私は生まれも育ちも満州で、ソ連との戦闘、続く中国内戦の中で妻子を設け、無一物で全く地盤の無い日本に引揚げてきた等と話したこともあって、立花さんも自分の生い立ち等プライベートな話や相談をお互いにするようになった。

彼が労組第二期目の組織対策部長、私が書記長をしているとき、組合事務所に来て、庶務課の山形さんと皇居前で会う約束をしてきた。初めてのデートでプロポーズしようと思うが、彼女あまりの唐突に驚くのではないかと相談ともつかぬ言葉を残して出掛けていった。お二人の結婚は、立花家のお墓に詣で、山形さんのお宅でご家族の皆様と祝ったと聞いた。その後、友人達が図り日曜日に喫茶店を借り切り会費制で二人の結婚を祝った。また、新婚旅行は北海道へ組合のオルグを兼ねて行なわれた。

吉祥寺の立花さんの新居を訪ねたとき、例の山中湖の別荘で写した数枚の写真を見せてもらった。目のパッチリとした幼児は彼立花さんで、彼を抱く洋髪の美人が母親、その母親に新婦の順子さんがそっくりなので驚き、彼が順子さんを選んだ訳がそのとき判った。

立花さんとは茶飲み友達から出発して彼が原電へ出向するまで、毎目顔を合わせ、口角泡を飛ばして議論と言うよりは良く噛みつかれていた。反面、会議のとき等事前に資料を集め、また、進んでお茶汲み、跡片付けをするなど面倒見が良く、常に活動を裏から支える縁の下の力持ち的な存在であつた。

その後、立花さんは原電へ出向、私は鹿児島へ転勤、そして定年を待たずに電発を退社したので、立花さんとは顔を合わせる機会が殆ど無かつた。しかし、お互いたとええ顔を合わせ無くとも、毎年の賀状に添えられた片言で近況を知り、励まし合い、元気であれば何時でも会えると言う信頼と安心感に支えられて今日まで来ましたが、それも果たさず、年少の君が先に逝ってしまうとは、残念でなりません。

(偲ぶ会でのスピーチ)

炉開発への情熱 ― その源泉

元 日本原子力発電（株） 技術顧問 武田 充司

東-1の頃（1964年～1970年）

立花さんが原電（日本原子力発電株式会社）に出向してきたのは、わが国最初の商業用原子力発電所である原電の東海発電所（以下、東-1〔トウイチ〕）の完成が間近に迫った1964年の7月でした。私は、それから1ヶ月あまり経った8月の末に、本社から東海の現場に転勤になりました。

原電に出向してきた当時、立花さんは、原電の2号炉である敦賀発電所（以下、敦-1）の導入準備の仕事をやっていたのだと思いますが、それでも、時々、東海にやってきました。あれは、原電に出向してくる前に、原研で平均質炉をやっていたため、原研にも用事があったのかも知れませんが、東-1の現場に強い関心があったからだと思います。彼は、あんなに文献好きでありながら、現場の知識や経験を非常に大切にする人でしたから、敦-1の準備のために東-1の現場で行われていることをしっかり見ておこうとしていたと思います。

どういう風にして私が立花さんとあんなに親しくなったのか、さっぱり思い出せないのですが、とにかく、東海に来ると、立花さんは私をつかまえて、いろいろな話をしてくれました。アメリカに留学したときのGEことや、印度のタラプール原子力発電所へ行ったときのことなど、いまでも印象に残っています。

東海に来たときには、たまに我が家（東海発電所の建設にきた英国人用の住宅を転用した社宅）に泊って議論することもありました。立花さんは、誰にでも噛みついて、激しく議論するので、私は「ファイティング原田」をもじって、「バイティング昭（あきら）」とひそかに渾名をつけていました。我が家に泊まってゆくときには、大声で夜中の2時3時までよく議論しました。そんなときには、翌朝、家内の愛子が、「昨夜は、喧嘩でもしていたの」と驚くこともしばしばでした。これも、いまや楽しい思い出のひとつとなってしまいました。

彼の批判とチェックは、誰にとっても、リトマス試験紙のようなものでし

た。彼が OK と言えれば殆ど大丈夫なのです。したがって、問題のありそうなときは、立花さんに見てもらえ、ということになるのです。

開発計画室の頃（1970 年～1976 年）

あの頃、私たちは高温ガス炉（HTGR）に熱中していました。原電が東-1 と敦-1 を完成させて、「さあ、これからどうする」という原電にとっての節目にさしかかっていた時期でした。現在の東海第二発電所（BWR：110 万 kW）が、HTGR になったかも知れないような、夢のあった時代です。

高温ガス炉のあらゆる問題について、2 人でよく議論したものでした。そして、私は、立花さんの鋭い洞察力と、該博な知識に啓発され、技術的に多くのものを学ぶことができました。一言でいうと、科学技術の面で、彼は非常に疑い深い人で、どんなことでも科学的に明快な説明がなければ納得しないのです。直感的にそうだろうとか、多くの権威者が支持しているから、それはもはや常識である、という類の議論が嫌いな人でした。私は、彼のこの態度から大きな影響をうけて成長したと思っています。

それにしても、彼の勉強家ぶりには全く驚かされました。毎日の通勤電車の中で多くの文献を読破し、殆どありとあらゆる原子力関係の資料に目を通し、何でも知っていました。まさに、博覧強記、立花さんは「歩く原子力ハンドブック」でした。おかげで、私などは、面倒な調べ事はせず、直ぐに立花さんに訊いてしまうという悪い癖がつけました。

彼は後輩にモチベーションを与え、指導するのがうまい人でした。リーダーと言うより先生タイプの人だったと思います。したがって、私にとって、立花さんは良い上司と言うよりも、素晴らしい仕事の同僚であり、論争相手でした。今にして思えば、立花さんが原電に出向してきて直ぐに、東-1 の炉物理をやっていた私を捕まえて、あんな風に親しく付合ってくれたのは、意図的だったのかも知れません。こいつは面白そうな奴だから、鍛えてやろう、と彼は考えて、私に議論を吹っかけたのかも知れない、と思うようになりました。

ところで、立花さんが本当にやりたかったのは HTGR（高温ガス炉）ではなく、FBR（高速増殖炉）だったと思います。彼は非常に早い時期から FBR の勉

強をしていましたし、積極的に対外的な活動もしていたようです。しかし、あの頃、原電がFBRの主導権をとることに強い警戒感をもった電事連が、原電を外して、電事連の中にFBR推進グループをつくったため、電力界の中で最も優れたFBRの専門家の一人であった立花さんが蚊帳の外に置かれてしまいました。原子力開発をめぐる原電と電事連との確執は、使用済燃料再処理事業の立ち上げ時にもありましたが、再処理にしてもFBRにしても、当時は、これらの技術が近い将来実用化され、商業化されるとの認識から、官民の間だけでなく、原電と電力との間でも主導権争いがありました。私は、断片的ながら、後年、一本松さん（元原電社長、会長）から話を聞いた記憶があります。恐らく、立花さんも大変無念だったことだろうと思います。

このことは、HTGRに夢中だった当時の私には解らなかったのですが、後に私自身がFBR開発を担当するようになって彼の気持ちが理解できるようになりました。

しかし、皮肉なことに、しばらくすると、電事連がFBRプロジェクトを持ちきれなくなって、電事連内にあった推進チームは全部原電に移され、原電が全電力の代表としてFBRの実用化を担うことになったのです。既にそれ以前から、動燃のFBR原型炉「もんじゅ」の建設で、原電が技術協力というコンサルタント業務を引き受けていて、立花さんは、原電の高速炉開発部長として、それらの仕事の責任者となっていました。

その後、電事連から引き受けたFBR実証炉計画も動燃の「もんじゅ」建設支援コンサルタント業務も、私が背負うことになったのですが、これも何かのめぐり合わせかも知れません。

電気料金担当の頃（1976年～1980年）

立花さんが電気料金の仕事をするようになった時期がありますが、この時期が彼にとって一番苦しい時代ではなかったかと思います。彼が強い精神的ストレスをうけながら仕事と格闘していることは、傍から見ても明らかでした。人生に「起承転結」があるとすれば、この時期は彼の人生の「転機」だったのかも知れません。あれは、社内の業務分担の変更によって、電気料金が開発計画

室の担当になったため、室長に昇進した立花さんに全ての責任がかかったのです。

電気料金の決定法は、確か、電気事業法かなにかで決まっていて、その手順は非常に論理的に構成されています。ですから、あの仕事は、一見、立花さんに合っているように見えるのですが、現実的には全く合わない仕事でした。要するに、あれは、原電の電気を、できるだけ高く、お客様である電力会社を買ってもらおう交渉事ですから、理系人間よりもセールスマンに向いている仕事でした。しかし、彼はあの機会に多くのものを、頭でなく、実体験によって知ったと思います。それが、彼の日頃の思いに益々確信を与えたのではないのでしょうか。

この頃から、会社をはなれて自由人の立場になって、やるべき事をやるのだと漏らすようになったように思います。

現役引退後のひととき

立花さんは核廃絶への強い思いを長い間あたためていたようです。そして、ついに会社を離れて、「やりたい事をやる」ということになりました。これは以前からの口癖でした。そして、核軍縮、核廃絶への道に関する勉強、論文執筆などを開始しました。

彼は原子力発電（原子力の平和利用）と核兵器との共存は無理、と思っていたようです。したがって、原子力発電とプルトニウム核燃料サイクルを世界レベルで本当に実用化するには、先ず核兵器の廃絶が不可欠と考えていたと思います。

原電を辞めるとき、立花さんは「会社や君達に迷惑をかけないように、距離をおいた所でこの活動をやるよ」と、私に言い残して去って行きました。そうしたことを気にしていたため、立花さんはかなり早い時期から会社をきっぱり辞めて、自分の信じることを実践する計画を立てていたようです。

立花さんの人柄

立花さんは権威や上役に気をつかうことは一切なく、非常に強い人でした

が、弱者にはやさしかった。ただし、技術のこととなれば別で、上も下もなく徹底的に議論し、容赦なくやっつける人でした。特に、上に対して強かったことが、時にはマイナスとなっていました。本当の事をはっきり言い過ぎてトラブルを自ら招くこともありました。例えば、原研の高温ガス炉（HTTR）の設計について、当時、原研の責任者だった青地さんらとパレスホテルで食事をしながら議論した時のことなどが思い出されます。また社内でも、会社のトップと平然と渡り合ったりして、私はヒヤヒヤしましたが、幸いにも、当時の我が社のトップは案外そういうことには拘らず、彼の能力と気質を理解していて、きちんと耳を傾けてくれました。

結局、彼は人に阿ることのできない人でした。ある種の貴族趣味、殿様だったのかも知れません。俗人から見れば、世渡りの下手な人ということです。そこがまた立花さんの魅力でもあったのです。

彼は科学技術の社会的効用に対しても非常に厳しい見方をしていました。そういう意味で、彼は会社員としてはハッピーではなかったと思います。

一見、人を見下したような自信家と思われる面があったかも知れませんが、根はとてもやさしい人で、正義感に溢れていました。その性格の現れかも知れませんが、人の面倒をよく見る人でした。人の転職の世話もよくやっていました。若い人のプライベートな悩み事もよく聞いて助言していました。そういう意味で、立花さんの世話になった人は多いはずです。

おわりに

立花さんのやりたかった事のひとつであった核軍縮、核廃絶の活動がやっとできるようになって、これからという時に、病魔に侵され、他界されました。立花さんにとっては誠に不本意な、痛恨の死であったと思います。また、我々にとっても、彼の活動がこうした形で阻止され、挫折してしまったことは痛恨の極みであり、そして、これは埋め合わせることのできない大きな損失となりました。

核廃絶をねがって

立花昭さんと核拡散問題研究会（NDJ）

菅 沼 純 一

核拡散問題研究会（NDJ）のこと

立花昭さんから1993年の夏、ロンドンにいた私のところに、突然連絡があった。「今、核不拡散の研究会をやっているから、秋に日本に戻ったら、あなたにも加わってほしい」という、お誘いである。それが発端で、「核拡散問題研究会」の事務局の一端を担うことになった。「核拡散問題研究会」の事務的な世話は「リンクス リセウム」（伏見康治・主宰）に頼むのが一番現実的だとの声があって、リンクス リセウム事務局の私に参加が要請されたのだと思う。リンクス リセウムの目的の一つに核軍縮問題の研究会の開催があったから、ちょうど良かった。

立花さんは、日本原子力発電（株）では高速炉の開発に携わっていたが、退職後、直ちに、核軍縮問題、特に核不拡散問題に取り組めるように、その準備に抜かりなかったようだ。嘱託を辞めたのは、「核不拡散条約（NPT）の再検討と期間延長に関する国際会議」2年後に控えていたころだった。立花さんは、それを核軍縮問題の緊急かつ切実な問題と受け止め、周辺の方々と相談して、この核拡散問題研究会の設立のために熱心に動き回ったと聞いている。

会合の呼びかけ文は1993年6月23日付で立花さんによって書かれた。第1回目の会合は7月7日に伏見康治事務所で開かれた。出席者は小川岩雄、山田英二、小沼通二、服部学、大塚益比古、立花昭の6氏。当日は、「核拡散問題勉強会」開催の趣旨と会合の提案について（服部学、立花昭）が議論された。

〈1995年の「核不拡散条約の再検討と期間延長に関する国際会議」は、世界の核を巡る戦争と平和の話し合いの論争の場として、大きな転換点となる可能

性があり、積極的にそうして行くことが望めます)

〈そこで、まず、関連する政治情勢の把握、いろいろな国際会議における論説主張などの検討、パグウォッシュ会議など内外の平和勢力との連携強化、
✓ 核兵器に関する身を基礎データの収集など、集約、討論を通じて意見を集約するために、勉強会を始めたいと思います〉

こうして「核拡散問題研究会」が始まり、以後毎月1～2回の会合を重ね1995年1月には31回目が開かれた。この間に、第1回会合に集まった6名に、伏見康治、藤島宇内、梅林宏道、菅沼純一の4名が加わり、メンバーは10名になった。会の代表は伏見康治、幹事は立花昭と決まったが、皆は立花さんのことを「校長先生」と呼んだ。立花さん自身は、肩書きに「校長兼小使い」と時々、書いていた。

しばらくは、この10名で活動した。他に何人もの方々から、自薦他薦で会員にという申し出や打診があったが、「新規会員希望者については、全会員の事前了承を条件とする」という立花さんの打ち立てた会則に従って検討され、結局のところ増員されることはなかったためだ。その後、1997年12月には藤島宇内、1998年1月には山田英二、そして5月には立花昭を相次いで失った。更に何年かおいて、小川岩雄も亡くなった。「校長先生」を始め、当初の会員のうち4名を失い、全員一致という会則も、そのうちにだんだん緩くなって、特に問題がなく積極的な反対者がいなければ、という雰囲気になっていった。

この間、立花さんは終始、研究会の方針や議論の進め方についていろいろな提案をして会を引っ張った。その成果は、研究会が自らの意見を世に問うためのブックレット『核兵器不拡散条約の延長についての意見』として結実した。表紙が真っ赤なため我々は赤本と呼び、A5版38ページ、販売価格400円、2,000部を1995年3月発行にした。その主張の基本は以下のようである。

〈NPT 延長会議を前にして、私たちは一年以上にわたってこの問題を検討してきた。その結果私たちは、NPT を無期限に延長すべきでないと考える〉

〈NPT の改正は現状では、事実上困難である。期限延長については、非核兵器国の協力で無期限延長を否決することが望ましい。これまでの再検討会議の経緯から一期 5 年あるいは二期 10 年をさしあたり選択し、この間に以下の各項目について期限を限って交渉し、合意に努めるべきである〉

〈包括的核実験禁止条約（CTBT）の早期の合意と調印、「非核兵器国に対する核による脅威あるいは使用の禁止」を核兵器国に強く求める、核兵器国相互間についてもその先制使用の禁止を求める（など 6 項目）〉

〈上記の諸交渉を強力に推進しながら、NPT を核兵器全面禁止条約に変える交渉を始め、その実施体制の整備を目指す〉

『核兵器不拡散条約の延長についての意見』の自費出版に合わせて、会の意見を積極的に表明するために記者会見をプレスセンターで行った。

〈NPT の無期限延長を阻止することにあります。なぜなら、NPT の無期限延長は現在の核兵器国の存在を自動的に恒久化させることになるからです〉（「記者会見のご案内」より）

核軍縮問題は、普段、ジャーナリズムをにぎわすことはめったにない。当時、NPT 条約延長を巡る話題は国際的な核軍縮問題として、まれに見るほど、新聞、テレビなどのマスメディアの話題になっていた。そのため、記者会見も各社の論説委員、編集委員など信じられないほど多くのジャーナリストが取材のため集まった。

シンポジウムも 2 回開催した。一回は広島「核不拡散条約を考える会」と共催で、一回は「核拡散問題研究会」単独で開いた。

1995 年 5 月には、NPT の再検討と期間延長に関する国際会議も、「無期限延長」という我々が避けるべきと考えていた形で終了。会は「核拡散問題研究会」

を「核軍縮研究会」に改名して活動を続けることになった。英文名は Study Group for Nuclear Disarmament, JAPAN (NDJ)。

その頃から既に、立花さんは体調を崩されたため、幹事役はやがて服部学に交代し、現在は小沼通二が務めている。立花さんは欠席が続いた時も、討議項目や提案を文書にまとめ郵送してこられた。会場はリンクス リセウムが伏見康治米寿（88歳で）店終いした後、1997年の第53回からは大塚益比古の手配で、電源開発社友クラブを使うことができるようになった。会場を借りるときの登録名は「橘会」、「核軍縮研究会」ではチョット！ということである。

2008年3月25日には、NDJ（核軍縮研究会）は何と150回を迎えた。第150回は、会の代表・伏見康治先生の100歳（数え年）を記念して、「伏見先生に質問する日」となった。現在の会員は20名。

立花さんと1995年のパグウォッシュ会議広島大会

広島・長崎被爆50年目にあたる1995年、7月下旬にパグウォッシュ会議年次大会（第45回）の広島開催が伝えられた。それまで、日本ではパグウォッシュ会議のシンポジウムは2回、京都と東京で開催されたことがあるが、年次大会が日本で開かれるのは初めてだった。

それを受けて、1994年6月20日、神保町の学士会館本館で、年次大会の準備会が開かれた。当時のパグウォッシュ会議のカウンシル（評議員）だった小沼通二が招集した会議で、14名が参加した。そこに立花さんもいた。他には豊田利幸（前カウンシル）、伏見康治、小川岩雄、田中正（京都から）、沢田昭二（名古屋から）、高木修二、山田英二、梅林宏道、藤田久一、亀淵進の諸氏、それに菅沼純一が参加していた（下線は「核拡散問題研究会」の会員）。立花さんはパグウォッシュ会議の広島大会の経理委員長に選ばれ、私は委員長を補佐する経理委員になった。

その後、実務的な話を詰めるため、パグウォッシュ会議事務局対策会議が

1994年10月28日、開かれた。出席者は小沼（大会組織委員長）、山田、立花と菅沼の4人、この会の開催を要請し、議事録を書いたのは立花である。

それからが大変だった。当時の日本はバブルがはじけた反動で、経済的に冷え込んでいた。そんなとき、いかに湯川・朝永以来伝統のあるパグウォッシュ会議とはいえ、広島大会開催のため、最低でも2,500万円余の費用を集めることは一筋縄ではいかないことが予想された。しかし、日本での開催を引き受けた時点で、森一久（当時、原子力産業会議専務理事）はじめ、伏見康治、小沼通二らによって、募金依頼先の青写真はできていたに違いない。ところが、責任感が強く、いい加減なことを引き受けない立花さんは経理委員長を引き受けた以上、もし寄付金が集まらず、いよいよとなった時には、その赤字を自ら補填する覚悟を持っていた。実際は経理委員会とは別に、募金委員会が編成されることになっていたが。

立花さんは、そのころから体調を崩し、山登りに出かけたころの立花さんのように思い通りに動き回ることが少しずつ難しくなっていた。さまざまな検査をしておられたようだったが、なかなか原因がわからなかったと伺っている。思い通り動けなくなった分、何かと心配され、早朝に電話で何度か、ことの進み具合を尋ねてこられたこともあった。病状芳しくなく、とにかくドクターストップということにさせていただいて、後任の経理委員長の役を小川岩雄さんに引き受けていただいた。その事務引き継ぎの際も、立花さんは、最初、会社で実際やるような詳細な手続きを考えておられた。時間と人手がないことを理由に、なんとか簡略なもので認めていただいたと記憶している。立花流は、何事によらず、いい加減ではなかった。立花さんは、上には手厳しく下には寛大という、言うは易く行ふは難しいことを、習慣のように身につけておられた方ではなかったかと思う。

（2008年5月10日）

先見と地道な仕事

祝 迫 重 明

立花さんの生涯や仕事、人柄についてはすでに多くが述べられているが、ここでは落穂拾いの、断片的の域を出ないものの、二、三の感銘を与えられた事柄を拾っておく。又その多くは立花さんにつき合いの深かった竹野萬雪氏の教示に負っている。

1964年に、岸田純之助氏（1920年生れ、朝日新聞社論説主幹、後に日本総研会長）との共訳で、「戦争研究」という標題でオペレーションズリサーチの啓蒙書をみすず書房から出している。標題のこの訳語は戦争嫌いの立花さんの日頃の言動からすると、一見奇異の感を与えるが、原書のタイトルが“Operations Research”で、現在でも邦訳はそのまま「オペレーションズリサーチ」又は「OR」である。当時の英和辞書でも「オペレーション：（複）軍事行動、作戦」とある。「オペレーションズ・リサーチ」は元来第二次大戦中主として米国の科学者たちにより、軍事戦術上の手法として開発され利用されたもので、強いて日本語にすれば「戦争研究」の訳語も誤訳とはいえない。

第二次大戦後「OR」は一般企業の経営システムの分析・開発にも利用されるようになった。その研究のための学会も設立されている。（日本OR学会など）ざっと挙げても、線型計画法、ゲーム理論、モンテカルロ法、待合せ理論、在庫管理、探索理論、動的計画、シミュレーションなど。立花・岸田の「OR」の紹介は「日本に始めてORの手法を紹介してその後の展開を促した画期的な本であった。」（竹野萬雪氏）

原子力研究に限らず、科学・技術の開発には高性能のコンピュータの利用が欠かせない。ただ1960年代当時の通産行政は、国内メーカーの保護・育成をはかる施策を採っており、電算機の輸入を厳しく抑制していた。そのあおりを受けて、原子力の研究・開発における大型電算機の利用も極めて不自由であっ

た。

このような状況下で、(社)日本原子力産業会議(以下「原産」と略称)は、当時世界最新鋭の大型コンピュータ(CD社製CDC3600)の導入を行い、共同利用の途をつけた。そして1966年2月原産内に電算機室(室長庄司洸氏—故人)を発足させ、自ら「原子力コード」の整備をに乗りだした。

立花さんは、この事業が「独自技術の開発に役立つ」として積極的に支持し、原子力コードの開発も指導した。(東京大学の近藤俊介氏も指導された)

原子力のみならず、エネルギー問題一般にも関心があり、エネルギー政策の基礎をなす「エネルギーデータベースの開発」にも積極的で1978年5月、NIRAのプロジェクトとして安成弘主査の下に、活動が始まったとき、強力な推進者となった。プロジェクト自体はその後資源協会、原研に引き継がれ、高橋亮一氏(東工大)、竹野萬雪氏(CRC)らを中心に、長期の海外調査を行い、大きな成果をあげた。

辞書・辞典の作成のような仕事にも、それが広く研究・啓蒙に役立つ事業として、熱心に携った。露語もできるところから、原産で行われた日—露辞典の作成に参加されているが、五ヶ国語を見出し語とする「原子力辞典」(原子力辞典 安成弘監修 原子力辞典編集委員会編 1995年8月 日刊工業新聞社)の編集にも熱心に加わり「実質的にかつ指導的立場」から編集活動をリードした(竹野萬雪氏)。とりわけ露語の見出し語の選定、索引の作成には他の編集委員の手の出せない分野だけに、立花さん一人に大変な負担をかけたようだ。申し訳なかったと思う。

提言・原子力資料のアーカイブを創ろう

武井 満 男

日本に、原子力三法が成立したのは1955年末で、財団法人日本原子力研究所は、この年の11月に設立されている。東海発電所の建設に当たった原電は、57年11月に発足した。以来50年、多端な曲折のなかで、総計55基5,000万KWに及ぶ原子力発電所を築いてきた。その開発の当初から、基礎研究をはじめ開発研究、核燃料、RIさらに社会・経済・法制問題など、多岐にわたる分野で、それぞれ、専門的な活動が続けてきた方々は、その身近に、多くの情報、資料、書籍などを残しておられるに違いない。

立花さんの場合は、文献や資料のほかにも丹念な私的メモが多かったが、中でも、担当された高速炉関連では、原電内外の技術文書など、多数の貴重な資料が、無作為のかたちで残されていた。そうした文献、資料は、立命館の安斉郁郎氏に託され、本書に一括掲載されているわけである。我々はこれにより1955年以来の、原子力開発の歴史の一端を、立花氏と共に繙くことができるはずである。

さて、今からここで私が申し上げることは、本来は鈴木利治氏(東洋大学経済学部 環境論)が提唱してくれるはずだったが、上記の作業に手を染められた頃から、体調を崩された。元原研理事長などを勤めた村田浩氏の所蔵資料をまとめた「村田文庫」を訪ねたのも、鈴木氏に教えられたからである。係りの人が、「あの村田さんのお宅にあったものは、すべて、ゴミまで運んだ」と言われたほどの、公私にわたる膨大な資料が、手際よく整理されていた。原研の正門脇にあるプラザ東海(029-284-3688)では、村田さんの収集された文献や資料の他に、そうした公私の記録が展覧されている。

これは、ごく最近のことであるが、今年(2008年)4月半ばに伊原義徳氏か

ら、新しいCD-R盤を戴いた。「島村研究会」の記録で、私が開いたのは、たまたま伏見康治氏を招いて、学術会議が平和利用3原則を採択、提言された時の事情を聴取され、お互いに回想されている場面であった。島村氏や伏見氏のことは、皆さんがご承知のことであるが、それが本になったときには、若い人達も、平和利用開発の歴史を手にすることができるわけである。

おわりに私自身のことを少し述べさせていただきたい。私が在籍した名古屋経済大学では、退任後、その人の蔵書を引き取って、図書館が保管して書庫に加えるよう措置してくれる。私にも、そのような申し出があったが、私は、蔵書のうち、『核の時代と人、びと』とも言うべきタイトルに括られる和洋の文献を、大学へ、寄託させて欲しい。そして、学生以外の広く一般の方々の照会や利用の便を図って欲しいと言って、担当していた科目に分けた学生向け寄贈図書とは区別して、目録をつけて送付した。

上にあげた方たちとは違って、マンハッタン計画や、それに関わった人達の伝記とか、あるいは核軍縮論などに限られ、翻訳書も多いが、総記11、原子爆弾の開発16、同開発に携わった人々16、核軍縮総論12、各論20、その他雑22、岩波新書21、など118冊で次掲のとおりであるが、他に洋書37冊が含まれる。

大学図書館は、近傍の犬山市他と協定して、市民の利用にも便宜を図っており、私の寄託本の照会にも応じてくれるはずである。原子力発電に関わる内外の資料は、一応手元では整理してあるが、ご報告できる域ではない。(名古屋経済大学 代表電話番号 0568-67-0511)。次頁に「日本語文献」の目録を掲載させて頂く。

私はこれら多数の「資料」の内容を何らかの方法で一括して、いわば原子力アーカイブを作りたいことを提唱したのである。このアーカイブの提唱が、自分のことになって恐縮だが、立花さんに倣って、皆さんが身の資料を大切に残され、それを集めて、原子力平和利用の研究、開発の歴史を知る大きな柱をうち立てたいものである。

「核時代、人びと」 文献目録(仮) 武井満男 名古屋経済大学図書館蔵

【総記】

- 001 『発見への道』八木勇訳(岩波書店 1961) Lapp, R.E.
- 002 『Lilienthal 日記(1)』今井隆吉・末田守訳(みすず書房 1968) David E.
- 003 『二十世紀の民族移動(1)〜(3)<(亡命の現代史1〜3)>』1930-1960 Fleming, D.; Bailyn, B.
- 004 『パリ随想(1、2、3)』湯浅年子著(みすず書房 1973)
- 005 『核の時代』岸田純之助訳(みすず書房)1962 Grodzins, M.
- 006 『危険と希望』広重徹訳(みすず書房 1965) Smith, A. K.
- 007 『F ジュリオ キュリー』湯浅年子訳(河出書房新社 1970) Biquard, P.
- 008 『原子力の光と影』川上幸一著(電力新報社 1993)
- 009 『原子力時代を先駆けた男達』吉川秀夫著(日刊工業新聞社 1989)
- 010 『原子力と科学者 著作集』武谷三男著(頤草書房 1968)
- 011 『原子力を考える 科学論集』三宅泰雄著(水曜社 1979)

【原子爆弾の開発】

- 012 『原子爆弾の誕生 上、下』神沼二真訳(啓学出版 1993) Rhodes, R.
- 013 『私が原爆計画を指揮した マンハッタン計画の内幕』富永謙吾・実松譲訳(恒文社 1954) Groves, L. R.
- 014 『千の太陽よりも明るく』菊盛英夫訳(平凡社 2000) Jungk, R.
- 015 『われらの時代に起こったこと』中村誠太郎訳(岩波書店・現代叢書 1979) Wilson, J.
- 016 『Oの暁』崎川範行訳(筑摩書房・ノンフィクション全集12 1961) Laurence, W. L.
- 017 『原爆の誕生』久世寛信訳(みすず書房 1963) Clark, R. W.
- 018 『マンハッタン計画』中村誠太郎訳(早川書房 1967) Groueff, S.
- 019 『原爆投下のシナリオ』関元訳(教育社 1985) Makhijani, A.
- 020 『もはや高地なし』笹川正博訳(カッパ・ブックス 1960) Knebel, F.
- 021 『破滅の決定 世界を変えた“manhattan”計画』野間寛二訳(三一書房 1960) Amrine, M.
- 022 『鉛の服を着た男』並河亮訳(時事通信社 1956) Lang, D.
- 023 『原爆投下前夜』戦史研究会著(角川文庫 1980)
- 024 『大統領指令「水爆を製造せよ」—とその舞台裏』塩田勉・大槻義彦訳(共立出版 1982) York, H. F.
- 025 『ナチと原爆—アルソス:科学情報調査団の報告』山崎和夫・小沼通二訳(海鳴社 1977) Goudsumit, S. A.
- 027 『アトミック・コンプレックス』一本松幹雄訳(電力新報社 1984) Goldschmidt, B.

【開発に携わった人びと 個人史】

- 028 『核の栄光と挫折 巨大科学の支配者たち』浦田誠親訳(時事通信社 1982) Prings, P.; Springs, J.
- 029 『発見への道』八木勇訳(岩波書店 1961) Lapp, R.E.
- 030 『核分裂を発見した人』平野郷子訳(晶文社 1990) Kerner, C.
- 031 『オープンハイマー』森永茂著(朝日選書)1996
- 032 『原子力は誰のものか』美作太郎・矢島敬二訳(中央公論社 1957) Oppenheimer, J.R.
- 033 『科学と人間社会 科学と一般の理解』矢島敬二・矢島文夫訳(新評論社 1956) Oppenheimer, J.R.
- 034 『ローレンスとオープンハイマー』菊池正士訳(タイム・ライフ 1971) Davis, N.P.
- 035 『シラードの証言』伏見康治・伏見諭訳(みすず書房 1982) Leo Szilard: His Version of the Facts
- 036 『エンリコ・フェルミ伝』久保亮五訳(みすず書房 1976) Physicist Segre, E.
- 037 『フォン・ノイマンの生涯』渡辺正・芦田みどり訳(朝日選書 1998) Macrae, N.
- 038 『ノイマンとウィナー』高井信勝訳(工学社 1985) Heims, S.J.
- 039 『広島を壊滅させた男 オッペンハイマー』池澤夏樹訳(白水社 1982) Goodchild, P.
- 040 『機密漏洩事件 水爆とオープンハイマー』中山義之訳(平凡社 1974) Major, J.
- 041 『現代物理学の思想』河野伊三郎・富山小太郎訳(みすず書房 1959) Heisenberg, W.
- 042 『ハイゼンベルグの追憶』山崎和夫訳(みすず書房 1984) Heisenberg, E.
- 043 『オットー・ハーン自伝』山崎和夫訳(みすず書房 1977) Mein Leben Hahn, O.

【核軍縮—総論】

- 044 『軍縮外交史(上、下)』前田寿著(東大出版 1968)
- 045 『核時代の国際政治』坂本義和著(岩波書店 1967)
- 046 『核兵器不拡散条約論』矢田部厚彦著(有信堂 1971)
- 047 『核エネルギー政策 現状分析と展望』斉藤優・佐藤栄一著(国際問題研究所 1979)
- 048 『核兵器と人間』伏見康治訳(みすず書房 1986) Dyson, F.
- 049 『核兵器の包括的研究 国連事務総長報告』服部学訳(連合出版 1982)
- 050 『核時代における科学と政治』豊田俊幸著(れんが書房 1972)
- 051 『正気への道 軍備競争逆転の戦略(1、2)』豊田利幸・高榎堯訳(岩波現代選書 1978) Myrdal, A.
- 052 『米ソ核戦争が起こったら—上院へのレポート』西沢信正・高木仁三朗訳(岩波現代叢書 1981)
- 053 『核兵器白書—ウ・タント国連事務総長報告』鹿島平和研究所訳(鹿島研究所出版会 1968)
- 054 『スウェーデンの核兵器問題』スウェーデン外交政策研究所編 鹿島平和研究所訳(鹿島研究所出版会 1967)
- 055 『核の傘に覆われた世界』久野収編(平凡社 1967)

【各論】

- 056 『軍国主義と産業』清水嘉治・太田譲訳(新評社 1967)Perlo, V.
- 057 『現代戦争論』松井巻之助訳(草思社 1972)Clarke, R.
- 058 『戦争と科学者—良心のジレンマ』服部学訳(ダイヤモンド社 1972)Read, R.W.
- 059 『国際シンポジウム 原爆投下と科学者』小川岩雄・他編(三省堂選書 1982)
- 060 『原子力の政治経済学 労働運動と反原発』田窪雅文訳(現代書房 1983)Elliott, D.
- 061 『アジアの核武装 その可能性と現実』河合伸訳(サイマル出版会 1987)Overholt, W.H.
- 062 『世界の反核理論』丸山幹正訳(勁草書房 1983)Thompson, E.P.; Smith, D.
- 063 『核兵器との共存』ハーバード核研究グループ 久我豊雄訳(TBSブリタニカ 1984)
- 064 『原子力と国際政治 共存か共滅か』前芝確三著(東洋経済新報社 1956)
- 065 『核戦争の悪夢』服部学・坪井主税訳(みすず書房 1982)Calder, N.
- 066 『原爆帝国主義 国家・独占・爆弾』世界経済研究所訳(大月書店 1953)Allen, J.S.
- 067 『軍備競争』前芝確三・山手治之訳(岩波書店 1963)Noel-Baker, P.
- 068 『核戦争計画 米ソ戦の研究なしに平和は語れない』丸山浩行著(亜紀書房 1985)
- 069 『軍拡経済の構図 軍縮の経済的可能性はあるのか』坂井昭夫著(有斐閣 1984)
- 070 『原子力潜水艦』堀元美訳(朝日新聞社 1964)Polmer, N.
- 071 『地球の運命』斎田一路・西俣総平訳(朝日新聞社 1982)Schell, J.
- 072 『核の迷妄』佐々木坦・佐々木文子訳(社会思想社 1984)Kennan, G.F.
- 073 『破壊の選択』藤城博監訳(時事通信社 1983)Scheerer, R.
- 074 『証言・核抑止の世紀』吉田文彦著(朝日選書 2000)
- 075 『米ソ核軍縮交渉 成功への歩み』加藤紘一・茂田宏・桂誠訳(サイマル出版会 1990)Talbot, S.
- 076 『武器の逆襲』今井隆吉著(東洋経済新報社 1992)

【その他】

- 077 『図説 原子力読本 これでもいいのか原子力開発』安齊育郎編(合同出版 1979)
- 078 『知られざる原子力』『実業の日本』編集部編(実業の日本社 1977)
- 079 『今、原子力を問う 原発・推進か、撤退か』NHK取材班(日本放送出版協会 1989)
- 080 『下北・プルトニウム半島』坂本龍彦著(朝日新聞社 1994)
- 081 『核燃料輸送船』NHK取材班(日本放送出版協会 1985)
- 082 『原子炉被爆日記』森江信著(技術と人間 1979)
- 083 『日本のエネルギー問題』岩尾裕純編(時事通信社 1974)
- 084 『原子力発電をどう考えるか』三宅泰雄編(時事通信社 1974)
- 085 『エネルギー戦争 非核未来への道』室田泰弘訳(時事通信社 1983)Lovins, A.B. and L. H.
- 086 『岐路にたつ原子力』吉川和男訳(日本生産性本部 1981)Lilienthal, D.E.
- 087 『核軍備の夜明け』岡良一著(思潮社 1968)
- 088 『エネルギー問題の混乱を正す』星野芳郎著(技術と人間 1978)
- 089 『放射線の恐ろしさ』中村 誠太郎・三好 和夫訳(岩波書店 1958)J.; Lapp, R.E.
- 090 『六ヶ所村の記録(上、下)』鎌田慧著(岩波書店 1991)
- 091 『原子炉災害』田窪雅文訳(時事通信社 1978)Fuller, J.G.
- 092 『原発ジプシー』堀江郁夫著(現代書館 1979)
- 093 『原子炉被爆日記』森江信著(技術と人間 1979)
- 094 『隠さるスリーマイル島事故の実態 特集』(技術と人間 1980)
- 095 『チェルノブイリ 融けた原発の悲劇』アンドレイ・イレツシュ著 鈴木康雄訳(読売新聞社 1987)
- 096 『被爆治療83日間の記録』NHK取材班(岩波書店 2002)
- 097 『核戦争と放射線』小野周訳(東大出版会 1982)
- 098 『死にすぎた赤ん坊 低レベル放射線の恐怖』肥田舜太郎(時事通信社 1978)Sternglass, E.J.
- 099 『原爆災害 ヒロシマ・ナガサキ』広島市・長崎市原爆災害誌編集委員会(岩波書店 1985)
- 100 『原爆の子』長田新編(岩波書店 1951)
- 101 『平和時代を創造するために 科学者は訴える』湯川・朝永・坂田編著(岩波新書 青版476 1963)
- 102 『核時代を超える 平和の創造をめざして』湯川秀樹・朝永振一郎・坂田昌一編著(岩波新書 青版487 1968)
- 103 『原子力と国際政治』前田寿著(岩波新書 青版325 1958)
- 104 『軍縮の経済学』宮崎勇著(岩波新書 青版538 1964)
- 105 『核戦略批判』豊田利幸著(岩波新書 青版568 1965)
- 106 『死の灰』武谷三男編(岩波新書 青版174 1954)
- 107 『原水爆実験』武谷三男著(岩波新書 青版286 1957)
- 108 『核戦争になれば』八木勇訳(岩波新書 青版491 1963)Lapp, R.E.
- 109 『安全性の考え方』武谷三男編(岩波新書 青版644 1967)
- 110 『死の灰と闘う科学者』三宅康雄著(岩波新書 青版834 1972)
- 111 『放射線と人間』館野之男著(岩波新書 青版913 1974)
- 112 『原子力発電』武谷三男編(岩波新書 青版955 1976)
- 113 『チェルノブイリ アメリカ人医師の体験(上、下)』吉本晋一郎訳(岩波新書 新赤版50, 51 1988)Hauser, T.
- 114 『新・核戦略批判』豊田利幸著(岩波新書 黄版229 1983)
- 115 『軍縮の政治学』坂本義和著(岩波新書 黄版203 1982)
- 116 『核先制攻撃症候群』服部学訳(岩波新書 黄版52, 1978)Aldrige, R.C.
- 117 『原爆に夫を奪われて 広島農婦たちの証言』神田三亀男編(岩波新書 黄版184 1982)
- 118 『ヒバクシャ・イン・USA』榛名幹男著(岩波新書 黄版308 1985)
- 119 『核の冬』高榎堯訳(岩波新書 黄版314 1985)Rowan-Robinson, M.
- 120 『軍縮問題資料集』前田寿著(日本国際問題研究所 1968)
- 121 『広島・長崎の原爆災害』広島市・長崎市原爆災害誌編集委員会編(岩波書店 1979)
- 122 『原子力発電の安全性』原子力安全問題研究会編(岩波書店 1975)
- 123 『原子力年表(1934~85)』日本原子力産業会議編(日本原子力産業会議 1986)

武田克司

永原照明

笠原祥郎

小川岩雄

鍾原八規

阿部元浩

松本靜夫

竹内哲夫

濱田元道

角田道生

本内洋子

岡本浩一

山本彬夫

吉野尾憲助

伏見康治

谷村喜作

服部学

淡崎一成

市川芳彦

眞崎 勝

中島肇之助

中谷誠志

湯本甲吉

立花順子

須藤忠和

高野虎彦

菅沼 乙

立花 実

小暮陽三

栗原 裕

市川芳忠

立花 知子

「立花昭さんを偲ぶ会」

一九九八年（平成十年）六月二十七日（土）

午後一時半～午後三時半
於学士会館 二一〇号室

發起人 服部学、富永五郎、伏見康治ほか
司会進行 大塚益比古

早瀬 嘉雄	長崎 正幸	大石 健児	後藤 瓦也	喜屋 斗政吏	阿部 康男	福田 淑子	森 一久
平田 昭	中島 大次郎	斎賀 恵子	若林 格	重田 達哉	富永 立郎	竹野 萬雪	永島 勝介
刈 井 倫男	大塚 益比古	早田 玄一郎	花迫 重明	下山 俊次	野村 勇	岩越 米助	立林 洋子
山本 賢三	安 成弘	鎌田 景子	浅見 哲夫	近藤 好子	木村 龍雄	三浦 和子	湯原 裕

仮想・立花昭記念館

平成20年9月10日 発行

編著者 森 一 久・喜多尾 憲 助

発行・連絡 UCN 会

〒105-0004 東京都港区新橋 5-18-1

新橋パークサイドビル2階

Tel 03-5777-6865 Fax 03-3431-6461

事務局 津田 敦子

印刷・製本 (株) 順 成

〒151-0071 東京都渋谷区本町 3-21-5

Tel 03-3372-3003 Fax 03-3372-3002
